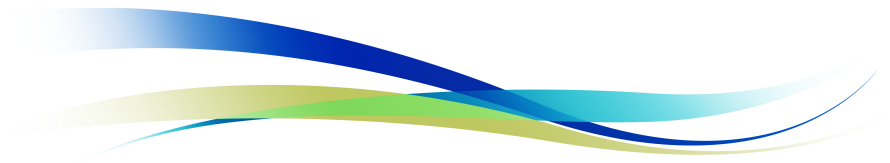


Power CMS *for MT* ver.1.5

ユーザーズガイド



Power CMS *for MT* ver.1.5

User's Guide

☺ 概要.....	7
☺ 制限事項	7
☺ ソフトウェア動作環境	8
☺ サポート情報.....	9
☺ サポートサイト.....	9
☺ サインアップについて	9
☺ Power CMS for MT の構成	10
☺ テンプレートセット	11
☺ スタティックなファイル	12
☺ その他の重要なファイル.....	12
☺ Power CMS for MT のインストール	13
☺ mt-config.cgiの設定	14
☺ テンプレートセットのインストール.....	14
☺ パーミッションの設定	14
☺ インストールされる主要なテンプレート	15
☺ スタイルの変更について.....	16
☺ Power CMS for MT の基本機能.....	17
☺ ユーザーインターフェイス	17
☺ BlogTreeダッシュボードウィジェット	17
☺ ドロップダウン・サイドメニュー	18
☺ CMSブックマーク	19
☺ WYSIWYGエディタと画像管理	20
☺ SideBarImageによる画像のアップロード	20
☺ ドラッグ&ドロップによる画像の貼り付け	21
☺ 高機能WYSIWYGエディタ「TinyMCE」の設定	21
☺ 拡張フィールドとテンプレートセレクト	22
☺ 拡張フィールドを追加する	22
☺ 拡張フィールドで追加可能なコントロール	24
☺ 拡張フィールド関連の設定と制限事項	27
☺ 拡張フィールドの設定	27
☺ 拡張フィールドの設定(権限の設定).....	28

● 拡張フィールドの設定 (エディタの設定)	28
● 拡張フィールドを削除する、拡張フィールドの順序を入れ替える	29
● 拡張フィールド用のテキストフィルター	29
● 利用可能なテキストフィルター	29
● カスタマイズ済みのエントリー投稿フォームをテンプレートセレクトに登録する	30
● テンプレートセクター関連の設定項目	31
● 一覧表示でのエントリーテンプレートの表示と絞り込み	31
● 記事テンプレートの作成と削除について	32
● 拡張フィールド、テンプレートセクタ関連のテンプレートタグ	33
● アンケートフォームの作成	41
● フォームを作成する	41
● 投稿後の処理とフォーム設定のカスタマイズ	42
● プラグイン設定	45
● アンケートフォーム関連のテンプレートタグ	45
● グループの作成とエントリー並び順の指定	46
● 新規エントリーグループを作成する	46
● グループへのアイテムの登録	47
● グループの設定	47
● アイテムグループ関連のテンプレートタグ	48
● ダイナミック検索機能	51
● 検索機能を利用するための準備	51
● 検索クエリー	52
● 検索キャッシュ	53
● PHPへのメモリ割当について	53
● 検索関連のテンプレートタグ	54
● リスト系アーカイブページの静的ファイル分割	60
● テンプレート分割の設定	60
● ページ送りナビゲーションの作成	60
● ブログ、カテゴリ、エントリーへのファイルの添付	62
● ファイルを添付する	62
● ファイル削除する、差し替える、名前や説明、タグを指定する	62
● 添付ファイル数、ファイル保存場所の設定	63
● 添付ファイルに関する情報をテンプレートタグで取得する	63
● 添付ファイル関連のテンプレートタグ	64
● エントリーの投稿画面のフィールドラベルのカスタマイズ	65
● フィールドラベルの設定	65
● アクセス解析	66

🔗	アクセス解析用のテンプレート	66
🔗	アクセスログのインポートとレポートの構築.....	66
🔗	アクセスレポートの参照.....	67
🔗	アクセス解析関連のテンプレートタグ	68
🔗	LogViewerプラグインの設定	69
🔗	LogViewerプラグインのアップデートに伴う変更について	71
🔗	テーブルのコピーを行うプラグインの設置とタスクの実行	71
🔗	指定日非公開機能	72
🔗	非公開日時を指定する	72
🔗	非公開日が指定されたエントリーの非公開処理.....	72
🔗	テンプレートタグによる非公開日前後での分岐処理.....	73
🔗	ワークフロー機能	74
🔗	「編集者」と「ブログ管理者」の間でのエントリー公開の承認フロー	74
🔗	一覧表示でのステータス「公開前(承認依頼中)」のエントリーの表示と絞り込み	76
🔗	「公開前(承認依頼中)」エントリーの所有者の設定.....	76
🔗	管理画面のロック	77
🔗	管理画面のロックとロックの解除.....	77
🔗	管理画面のロック状態の確認	77
🔗	エクスポート/インポート機能	78
🔗	PowerCMS形式のエクスポート/インポート	78
🔗	CSV/TSV(Tab Separated Value)形式のファイルからのインポート	78
🔗	カテゴリ情報のインポート	81
🔗	エントリー(ブログ記事/ウェブページ)の複製	83
🔗	既存のエントリーを複製して効率よく新しいエントリーを作成する.....	83
🔗	ブログ記事と複数のウェブページを関連づける	84
🔗	ブログ記事に関連したウェブページを作成する.....	84
🔗	グループ化されたブログ記事、ウェブページ間のページ送りを作成する	84
🔗	EntryChildrenPages プラグインの設定.....	85
🔗	HTMLの文法チェック	86
🔗	プレビュー時に生成されたHTMLの文法をW3C Markup Validation Serviceでチェックする	86
🔗	標準オプションプラグイン	87
🔗	Abs2Relプラグイン (相対パス変換)	87
🔗	Abs2Relプラグインの設定項目	87
🔗	Accessibilityプラグイン (アクセシビリティ向上のためのテキストフィルター)	88
🔗	ファイル全体に対してフィルタを有効にする	89
🔗	Quickeditプラグイン (エントリーから編集画面へのスムーズな移動).....	90

☉ 設定と利用方法	90
☛ CatIndexKillerプラグイン (特定カテゴリーのアーカイブの再構築を制限)	91
☉ 再構築を制限するカテゴリーの指定	91
☉ カテゴリートップページをブログ記事やウェブページで代用する	91
☛ RebuildIndexByIDプラグイン (別ブログのインデックスアーカイブを同時再構築)	92
☉ 設定と利用方法	92
☛ AllBlogEntriesプラグイン (日付アーカイブでのMultiBlog機能の代替タグ)	93
☛ EntryAliasプラグイン (エントリーのエイリアスを別のブログに作成する)	94
☉ エントリーのエイリアスを別のブログに作成する	94
☉ エイリアスの再構築を制御する	94
☉ エイリアスの再構築の設定	94
☛ BlogExtras/CategoryExtrasプラグイン (ブログ/カテゴリーのフィールドを拡張)	96
☛ TabSplitterプラグイン (タブ区切りテキストを柔軟に取り扱う)	97
☛ EntryTagEditorプラグイン (エントリーの一括編集画面でのタグの編集)	98
☛ EntryDownプラグイン (更新されたファイルの一括ダウンロード)	99
☛ ObjectGroupプラグイン (エントリー/カテゴリー/ブログをグループ化)	100
☛ Power CMS for MT Professionalの機能	101
👉 リンクチェッカ	101
☉ リンクチェックの実行	101
☉ リンクチェックの修復	101
☉ リンクチェック関連の設定	102
👉 エントリーの次期バージョンの作成	103
☉ 次のバージョンの作成手順	103
☉ 指定日配信機能との組み合わせ	104
☉ ワークフローとの組み合わせ	104
👉 メールマガジン	105
☉ インストールされるロール	105
☉ MailMagazine プラグインの設定項目	105
☉ メールマガジンの配信	106
☉ 指定日配信機能	106
☉ メールマガジンの一覧と再編集	107
☉ メールマガジンをエントリーとして保存する	107
👉 会員限定サイト(Members プラグイン)	108
☉ Members プラグインによる処理の流れ	108
☉ 会員限定サイトの構築手順	108
☉ 会員限定サイトと一般公開サイトの切り替え	109
☉ 「会員」とインストールされるロールについて	110

☉ Members プラグインの設定	110
☿ Members プラグインで利用出来るタグ	111
📍 携帯サイト機能(Mobile プラグイン)	113
☉ Mobile プラグインのインストールとアクセス	113
☉ 携帯電話で Movable Type を管理するための設定	114
☿ 携帯電話による管理の仕方	117
☉ ブログの設定	117
☉ カテゴリの設定	117
☉ ブログ記事の作成	118
☉ ブログ記事の編集	118
☉ ブログの再構築	119
☉ メールによるブログ記事の投稿	119
☿ Mobile プラグインで携帯サイトとして公開する	121
☉ Mobile プラグインの設定	121
☿ 携帯サイトを構築する場合に mt-mobile.cgi に対して送信するパラメータについて	122
☉ 共通	122
☉ ログイン	122
☉ ログアウト	122
☉ 簡単ログイン	123
☉ コメント投稿	124
☉ アカウント情報の編集	124
☉ アカウントの作成	125
☉ カテゴリの移動	125
☿ mt-mobile.cgi が使用しているテンプレートのカスタマイズ	126
☉ mt-mobile.cgi からテンプレートに渡される変数	126
☿ Mobile プラグインで利用出来るタグ	127
☿ 標準オプションプラグイン	130
☿ Copy2Publicプラグイン (ステージングサーバー→公開サーバーへのデータの転送)	130
☉ 更新タイムスタンプについて	130
☉ プラグイン設定	131
☉ 環境変数の設定	133
☉ 転送の実行について	133
☉ 公開サーバでのファイルの同期について	133
☿ FullTextSearchプラグイン (MySQL FULLTEXT(全文)検索)	135
☉ 設定方法	135
☉ 検索方法	136
☿ Power CMS for MT Enterpriseの機能	137

● エントリーのリビジョン管理とロールバック	137
● リビジョンの保存	137
● バックアップからの復帰	137
● 既存HTMLからのインポート	139
● インポートの準備	139
● インポートの設定	139
● アイテムの同時取り込み	141
● プラグインによる拡張	141
● リモートバックアップ	143
● バックアップの実行	143
● バックアップ設定	143
● バックアップに関する設定	144
● 各データベースに関する特記事項	145
● FTPに関する設定	146
● その他の設定	146
● エンタープライズ検索	147
● 検索インデックスの作成	147
● 検索インデックスの自動更新	147
● エンタープライズ検索関連のテンプレート	147
● 文書ドラフトテンプレート	148
● 検索の実行とテンプレート	149
● 環境変数の設定	150
● プラグインの設定	150
● Windows Server 2003でのエンタープライズ検索のセットアップ	154
● こんな時は	155
● Movable Type のログにエラーが残る場合	155
● ソフトウェア利用許諾書	156

概要

PowerCMS for MT 1.5 は Movable Type4 (4.2 以降) のために開発されたプラグインセットです。Movable Type 4を「CMS(コンテンツ管理システム)」として活用するための様々な機能を提供します。

- ・ ブログ記事ウェブページの投稿画面のカスタマイズ (自由にフィールドを追加できます。複数のファイル添付も簡単に行えます)
- ・ 強力なインポート機能
- ・ カスタマイズした投稿画面をいくつでも登録可能。
- ・ 高速なキーワード検索/タグ検索機能
- ・ ブログ記事/ウェブページの並び順をGUIで設定可能
- ・ カテゴリーやブログの並び順をGUIで設定可能
- ・ エントリーの指定日非公開が可能
- ・ ワークフロー機能
- ・ ブログ記事/ウェブページの複製機能
- ・ アクセス解析機能
- ・ 階層型ツリー表示でサイトの一覧性を向上
- ・ CMSブックマーク
- ・ 既存のHTMLページを一括インポート
- ・ エントリー (ウェブページ・ブログ記事) の更新時に履歴を自動保存
- ・ インデックス型全文検索により大量の文書を高速にサーチ
- ・ データベースのダンプ・データとドキュメント・ルート以下のファイル一式を定期的に自動バックアップ
- ・ 内部リンク・外部リンクに対応したリンクチェッカ
- ・ ログインユーザーだけに公開されるページの作成
- ・ 第3世代携帯電話に対応した携帯サイトを自動生成
- ・ シンプルで高品質な汎用的なテンプレートセットが付属
- ・ 高機能WYSIWYGエディタを内蔵
- ・ リスト系ページのページ分割
- ・ エントリーにウェブページを関連付け、複数ページからなる一連のページを簡単に作成
- ・ エントリーを公開状態にしたまま、次のバージョンの準備が可能
- ・ リンクチェッカ
- ・ 携帯サイトの自動生成
- ・ 登録ユーザーに一括でメールマガジンを作成・送信
- ・ その他様々なオプションプラグインを同梱しています。
(オプションプラグインの例)
 - ・ 相対パス変換プラグイン、アクセシビリティ向上プラグイン、MySQL FULTEXT(全文)検索プラグイン、等々

制限事項

2009年6月4日現在、PowerCMS for MT 1.5 をインストールすることによって Movable Type 4.25 の標準機能である、エントリー編集画面におけるカスタムフィールドその他、概要、キーワード、タグ等の入力欄のドラッグ&ドロップによる並べ替え機能が使えなくなることが確認されています。

上記の点につきましては、バージョン 1.5.7 へのアップデートの際に対応いたしました。1.5.6 以前のバージョンをご利用のお客様は大変お手数をおかけいたしますが、サポートサイトより最新版をダウンロードし、アップデートしてください。

2009年8月11日現在、Movable Type 4.261 の標準機能であるバックアップからの復元機能には対応していません。バックアップ/復元機能では PowerCMS が拡張するテーブルのレコードの ID が引き継がれないため、将来的な対応の予定はございません。バックアップおよび復元に関する操作につきましては、データベース単位で行っていただきますようお願いいたします。

🔧 ソフトウェア動作環境

- ・ Movable Type 4.2
- ・ Movable Type Enterprise 4.2
- ・ Perl バージョン 5.8 以上
- ・ PHP バージョン4.0 以上 (検索機能/ログ解析機能/モバイル機能に必要)

サーバーOS

- ・ Linux, Solaris/Unix, BSD
- ・ Mac OS X
- ・ Windows Server 2003

ウェブサーバー

- ・ Apache
- ・ Microsoft IIS

データベース

- ・ MySQL 5以降
- ・ PostgreSQL 8以降
- ・ Oracle Database 10g(Enterpriseのみ)
- ・ Microsoft SQL Server 2005(Enterpriseのみ)

全文検索エンジン

- ・ Hyper Estraier(Enterpriseのみ)

Perlモジュール

- ・ Text::CSV(_XS)
- ・ Archive::Zip
- ・ MIME::Parser(携帯メール投稿に必要)

クライアント動作環境

- ・ Mozilla Firefox 1.5以降(最新版を推奨)
- ・ Internet Explorer 6.0以降(最新版を強く推奨)
- ・ Safari 2以降(WYSIWYGエディタなど、一部の機能に制限あり、最新版を推奨)

Movable Type は 米Six Apart, Ltd.の商標です。

The Yahoo! User Interface (YUI) Library is a set of utilities and controls, written in JavaScript, for building richly interactive web applications using techniques such as DOM scripting, DHTML and AJAX. The YUI Library also includes several core CSS resources. All components in the YUI Library have been released as open source under a BSD license and are free for all uses.

TinyMCE is a platform independent web based Javascript HTML WYSIWYG editor control released as Open Source under LGPL by Moxiecode Systems AB.

Microsoft Excelは、米国Microsoft Corp.の商品名称です。

Hyper EstraierはGNU Lesser General Public Licenseに基づいて配布されているフリーソフトウェアです。

👤 サポート情報

🌐 サポートサイト

最新バージョンのダウンロードはサポートサイトから行うことができます。

<http://powercms.alfasado.net/members/>

👤 サインアップについて

サポートサイトへの初回ログイン時にサインアップを行ってください。

- ・ ユーザー名は任意の文字列(英数記号文字)を指定してください
- ・ 表示する名前には、お申し込みの際の会社名をご記入ください
- ・ メールアドレスには、お申し込みの際に指定したご担当者のメールアドレスをご記入ください
- ・ ライセンスコードにはマニュアルに記載のライセンスコードをご記入ください
- ・ アップデート情報のメールでの受け取りをご希望される方は「メールマガジンの購読」にチェックをいれてください
- ・ サインアップ後管理者がお客さま情報を確認後、メールにてお知らせいたします

● ライセンス情報

ライセンス種別	
ライセンスコード	
サポート有効期限	

● サポートメールアドレス

E-Mail	powercms@alfasado.jp
--------	----------------------

🔗 Power CMS for MT の構成



以下のファイルが mt/plugins/PowerCMS 内に同梱されています。

ファイル/フォルダ名	説明
 AltSearch.pl	ダイナミックパブリッシングを利用した高速で多機能なサイト内検索を提供します。
 AttachFiles.pl	ブログ/カテゴリ/エントリーに添付ファイルを追加します。
 BackupConfig.pl	データベースとドキュメント・ルート以下のファイル一式を定期的に自動バックアップします(Enterprise 版にのみ同梱)。
 BlogSelectorDialog.pl	システムメニューからのブログ記事作成を可能にします。
 BlogTree.pl	ダッシュボードにブログ構造をツリー形式で表示します。
 CategoryGroupSync.pl	カテゴリ作成時に同名のエントリーグループを自動的に作成します。
 CategoryImporter.pl	カテゴリ情報をCSV/TSVファイルからインポート可能にします。
 CMSCache.pl	テンプレートをキャッシュし、構築を高速化します。
 CommenterSignup.pl	全てのブログへのサインアップを実現します。
 CSV_TSVImporter.pl	エントリーをCSV/TSVファイルからインポート可能にします。
 Duplicate.pl	エントリーの複製を可能にします。
 EntryChildrenPages.pl	ブログ記事に関連付けられたウェブページの作成を可能にします。
 EntryLabel.pl	エントリー作成/編集画面のフィールドラベルをカスタマイズ可能にします。
 EntryNextRevision.pl	エントリーを公開状態にしたまま、「次のバージョン」を準備できます。「次のバージョン」でも承認ワークフロー機能を利用できます(Pro 版、Enterprise 版にのみ同梱)。
 EntryPrepublish.pl	エントリーのステータスに「公開前承認待ち」を追加します(ワークフロー機能)。
 EntryUnpublish.pl	指定日非公開を有効にします。
 ExtFieldFileThumbnail.pl	ExtFields プラグインに、サムネイル作成機能を付加します。
 ExtFields.pl	拡張フィールドを利用可能にします。
 ExtraForm.pl	拡張フィールドで作成したフォームから投稿されたデータを管理します。
 HideMenu.pl	権限のないメニューを非表示にします。
 IfEntryIsInCategory.pl	カテゴリのループの中で、自分(エントリー)が属している場合に真を返すタグを提供します。
 ItemGroup.pl	ブログ・カテゴリのグループを作成し、項目の表示順を設定可能にします。
 ItemSort.pl	エントリーグループを作成し、項目の表示順を設定可能にします。
 LinkChecker.pl	リンクチェック機能を提供します(Pro 版、Enterprise 版にのみ同梱)。
 LockMT.pl	管理画面を「システム管理者」以外のユーザーに対して一時的にロックします。
 LogViewer.pl	アクセス解析機能を提供します。
 MailMagazine.pl	メールマガジン配信機能を提供します。指定日配信も可能です(指定日配信には、Cron ジョブの登録による、タスクの定期実行が必要になります)。
 MarkupValidation.pl	エントリーの「確認(プレビュー)」時に生成されたHTMLの文法をW3C Markup Validation Serviceでチェックできるようにします。
 Members.pl	会員限定ページ(ブログ)を作成可能にします。
 Mobile.pl	第3世代携帯電話に対応した携帯サイトを自動生成します(Pro 版、Enterprise 版にのみ同梱)。
 Pager.pl	エントリーのリストをページ分割します。
 PCMSImportExport.pl	PowerCMS に対応した形式でのエントリーのエクスポートを可能にします。
 PowerCMSUtil.pl	プラグインセット共通の処理を行います。
 PowerImporter.pl	既存のHTMLページを一括インポートして、エントリーやブログ記事として保存します(Enterprise 版にのみ同梱)。
 PowerPreview.pl	ダイレクトプレビュー機能を提供します。

ファイル/フォルダ名	説明
 PowerRevision.pl	エントリーや、エントリーに含まれるアイテムをバージョン管理します(Enterprise 版にのみ同梱)。
 PowerSearch.pl	インデックス型全文検索により大量の文書を高速に検索する機能を提供します(Enterprise 版にのみ同梱)。
 SideBarImage.pl	エントリー投稿画面の右側のコラム内に画像の一覧を表示したりアップロードを可能にします。
 StylelessImage.pl	画像挿入時に生成されるstyle属性をクリーンアップできます。
 StylePreview.pl	エントリーの「確認(プレビュー)」にエントリーテンプレートと拡張フィールドを反映させます。
 TemplateSelector.pl	エントリーテンプレート機能を利用して同一のブログ内で複数のテンプレートを利用可能にします。
 TinyMCE.pl	リッチテキストエディタを高機能なTinyMCEに変更します。
 ExtraForm.cgi	拡張フィールドの機能を利用して作成したフォームから投稿されたデータを処理するCGIアプリケーションです。
 alt-tmpl	管理画面の特定の処理の際に利用されるテンプレートが格納されています。
 cache	検索キャッシュを保存します。Movable Type から書き込み可能なパーミッションである必要があります。
 error	管理画面の特定の処理の際に利用されるエラー表示テンプレートが格納されています。
 lib	各プラグインから利用するライブラリです。
 extlib	各プラグインから利用するライブラリです。
 files	PowerCMS が書き出すファイルを保存するフォルダです。Movable Type から書き込み可能なパーミッションである必要があります。
 log	アクセス解析用のログを保存するフォルダです。Movable Type から書き込み可能なパーミッションである必要があります。
 OptionPlugins	Power CMS for MTの標準オプションプラグインが含まれています。
 php	ダイナミックパブリッシング用のプラグインが含まれています。
 tmpl	CMS用のテンプレートファイルが含まれています。


👤 テンプレートセット

以下のフォルダが mt/plugins 内に同梱されています。








ファイル/フォルダ名	説明
 PowerCMSTemplateSet	PowerCMS の機能をすぐにお使いいただけるテンプレートセットです。
 PowerCMSTemplateSetMembers	PowerCMSの機能をすぐにお使いいただけるテンプレートセットです。会員サイトに対応しています。

📁 スタティックなファイル

以下のフォルダが mt/mt-static/plugins 内に同梱されています。

ファイル/フォルダ名	説明
 BlogTree	BlogTree プラグインが使用するスタティックなファイルです。
 EntryNextRevision	EntryNextRevision プラグインが使用するスタティックなファイルです。
 EntryPrepublish	EntryPrepublish プラグインが使用するスタティックなファイルです。
 ExtFields	Extfields プラグインが使用するスタティックなファイルです。
 ItemSort	ItemSort プラグインが使用するスタティックなファイルです。
 LogViewer	LogViewer プラグインが使用するスタティックなファイルです。
 Mobile	Mobile プラグインが使用するスタティックなファイルです。
 PowerCMS	PowerCMS プラグインが使用するスタティックなファイルです。
 PowerCMSTemplateSet	PowerCMSTemplateSet プラグインが使用するスタティックなファイルです。
 TemplateSelector	TemplateSelector プラグインが使用するスタティックなファイルです。

📄 その他の重要なファイル

ファイル/フォルダ名	説明
 mt/mt-form.cgi	拡張フィールドの機能を利用して作成したフォームから投稿されたデータを処理するCGIアプリケーションです。mtのインストールディレクトリ直下のcgi(mt.cgi)と同じディレクトリに設置して実行パーミッションを与えてください
 mt/mt-members.cgi	会員専用ページへのログインやサインアップを行うためのCGIアプリケーションです。mtのインストールディレクトリ直下のcgi(mt.cgi)と同じディレクトリに設置して実行パーミッションを与えてください。
 mt/mt-mobile.cgi	携帯サイトの構築や、携帯による Movable Type の管理に必要な機能を提供するCGIアプリケーションです。mtのインストールディレクトリ直下のcgi(mt.cgi)と同じディレクトリに設置して実行パーミッションを与えてください。
 mt/mt-estraier.cgi	インデックス検索を行うための CGI アプリケーションです。
 mt/tools/send-mail-magazine	メールマガジン送信の実行タスク用スクリプトです。mtのインストールディレクトリ直下のtoolsディレクトリに設置して実行パーミッションを与えてください。
 mt/tools/estcmd-gather	インデックス検索のためのインデックス作成スクリプトです。mtのインストールディレクトリ直下のtoolsディレクトリに設置して実行パーミッションを与えてください。
 mt/tools/run-backup-sql-and-docs	データベースやファイルをバックアップするスクリプトです。 mtのインストールディレクトリ直下のtoolsディレクトリに設置して実行パーミッションを与えてください。

🐞 Power CMS for MT のインストール

- ・ plugins/フォルダ以下の各フォルダをmtのインストールディレクトリ配下の plugins ディレクトリの直下にコピーします。
- ・ mt-static/ フォルダ以下のすべてのファイル・フォルダを mt-static ディレクトリ以下にコピーします。
- ・ オプションプラグインを利用するには、 OptionPlugins 以下の利用したいプラグインのディレクトリを plugins/ ディレクトリの直下に設置します。
- ・ mtフォルダ以下の各cgiをMT本体のCGI(mt.cgi)と同じディレクトリに設置して、実行パーミッションを与えてください。
- ・ tools/ ディレクトリ以下の各ファイルをmtのインストールディレクトリ配下の tools ディレクトリの直下にコピーして、実行パーミッションを与えてください。

🌸 オプションプラグインのインストールに関する注意

オプションプラグインには、正常に動作するにあたり特定の Perl モジュールを必要とするものが含まれています。動作に必要な Perl モジュールがサーバにインストールされていない状態でこのようなオプションプラグインをインストールするとアップグレード画面でエラーが発生してインストールが完了しなかったり、完了したように見えても必要なデータベース拡張が行われないトラブルが発生する原因となります。このトラブルが発生した場合、データベースを作り直さなければならないこともありますので、オプションプラグインは動作に必要な Perl モジュールがサーバにインストールされていることを確認の上、必要なもののみをインストールするようにしてください。それぞれのプラグインに必要な Perl モジュールは、本マニュアル内に後述しています。

また、できるだけトラブルを減らすためには、PowerCMS 本体のインストールを行った後でオプションプラグインをインストールするようにしてください。

mt-config.cgiの設定

- ・ EnableAddressBook 1 (アドレス帳を有効にします。承認ワークフローに必要です)
- ・ AutoSaveFrequency 0 (自動保存をOFFにします。PowerCMSが拡張したデータの不整合を防ぎます)
- ・ MemberScript mt-member.cgi (会員限定ページを利用する場合に、CGI名を変更する場合のみ記述します)
- ・ MobileScript mt-mobile.cgi (携帯サイトを構築する場合に、CGI名を変更する場合のみ記述します)
- ・ EstraierScript mt-estraier.cgi (インデックス検索を利用する場合に、CGI名を変更する場合のみ記述します)

テンプレートセットのインストール

Movable Type のインストール時に各テンプレートセットを選択する事で、各種テンプレートがインストールされます。既存のブログにテンプレートセットを適用することも可能です。

パーミッションの設定

以下のディレクトリに対してMovable Typeから書き込みが出来る必要があります。適切なパーミッションを設定してください。

ディレクトリ	説明
サイト・パス/cache サイト・パス/templates_c	Movable Typeのダイナミックパブリッシングが利用します。
plugins/PowerCMS/cache	検索キャッシュを保存するディレクトリです。
plugins/PowerCMS/log	アクセスログを保存するディレクトリです。
plugins/PowerCMS/files/backup	バックアップファイルを保存するディレクトリです。
plugins/PowerCMS/files/lock	ロックファイルが書き込まれます。
plugins/PowerCMS/files/report	レポートを保存するディレクトリです。
plugins/PowerCMS/files/xml/MailMagazine	メールマガジンの XML データが保存されるディレクトリです。
mt-static/plugins/TemplateSelector/images/ thumbnails	エントリーテンプレートのサムネイル画像を保存するディレクトリです。

📁 インストールされる主要なテンプレート

種類	テンプレート名	テンプレートの内容
インデックス テンプレート	Dynamic Site Bootstrapper	ダイナミックパブリッシングに検索キャッシュの機能を追加するためのテンプレートです。
	.htaccess	/dynamicディレクトリでダイナミックパブリッシングを有効にするための.htaccessを追加します。
	検索結果(ダイナミック)	ダイナミックパブリッシングを利用した検索用のテンプレートです。
	検索フィールド	ダイナミックパブリッシングを利用した検索結果をRSS2.0形式で出力するテンプレートです。
	PowerCMS Styles	拡張フィールド用のCSSを追加します。
	アクセスログ記録	アクセスログ保存JavaScriptによって送信されたパラメタ付きのリクエストを分解してログファイルを保存します。
	検索ログ記録	検索ログ保存JavaScriptによって送信されたパラメタ付きのリクエストを分解してログファイルを保存します。
	アクセスログ保存 JavaScript	アクセスログに必要なパラメタを組み立てて「アクセスログ記録」ページへリクエストを送ります。
	検索ログ保存 JavaScript	検索ログに必要なパラメタを組み立てて「検索ログ記録」ページへリクエストを送ります。
	メインページ(携帯用)	携帯用のトップページです。
	検索結果(ダイナミック・携帯用)	ダイナミックパブリッシングを利用した検索用のテンプレート(携帯対応)です。
アーカイブ テンプレート	ウェブページ(携帯用)	携帯対応のウェブページテンプレートです。
	ブログ記事(携帯用)	携帯対応のブログ記事テンプレートです。
	ブログ記事のリスト(携帯用)	携帯対応のブログ記事のリストテンプレートです。
	ウェブページドラフト	インデックス検索のためのウェブページに関するドラフトです。
	ブログ記事ドラフト	インデックス検索のためのブログ記事に関するドラフトです。
テンプレート モジュール	フォーム (ブログ記事/ ウェブページ)	拡張フィールドの機能を利用してアンケートフォームを作成するためのテンプレートです。
	拡張フィールド(新規)	拡張フィールドを順番に出力するテンプレートです。
	親子記事ページ送り	エントリーをウェブページをグループ化してページ送りナビゲーションを表示します。
	ナビゲーション	ヘッダナビゲーションを表示します。あらかじめ同名のエントリーグループが登録されています。
	ウェブページの詳細(携帯用)	携帯対応の、ウェブページ詳細部分です。
	ブログ記事の詳細(携帯用)	携帯対応の、ブログ記事詳細部分です。
	コメント(携帯用)	携帯対応のコメント表示テンプレートです。
	フォーム (ウェブページ・ 携帯用)	PowerCMS のフォーム作成機能を利用するためのテンプレート(携帯対応)です。
	フォーム (ブログ記事・携 帯用)	PowerCMS のフォーム作成機能を利用するためのテンプレート(携帯対応)です。
	ヘッダー(携帯用)	各テンプレートで共通して読み込まれるヘッダ部分(携帯対応)
	フッター(携帯用)	各テンプレートで共通して読み込まれるフッタ部分(携帯対応)です。

種類	テンプレート名	テンプレートの内容
ウィジェット	人気記事	アクセス解析機能を利用して、アクセス数が上のエントリーを表示します。

*バージョンやテンプレートセットによって一部異なります。テンプレートタグについては該当のセクションをご覧ください。

🎯 スタイルの変更について

PowerCMSテンプレートセットはStyleCatcherに対応しています。スタイル選択画面の「カテゴリ」で「PowerCMS」を選択するとPowerCMSテンプレートセットに対応したテーマが表示されます。

テーマを選択すると自動的にインデックステンプレートの「スタイルシート」の内容が書き換わり、スタイルが変更されます。

🌸StyleCatcherの仕様上オフラインでのご利用はできません。

Power CMS for MT の基本機能

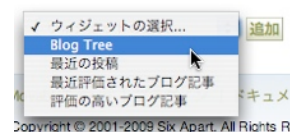
ユーザーインターフェイス



システムメニュー - ダッシュボード

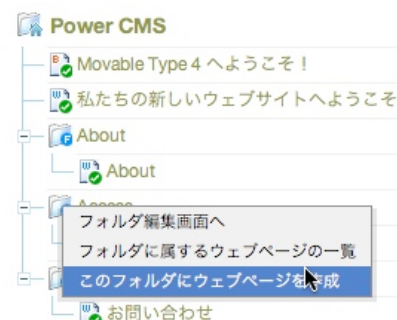
●BlogTreeダッシュボードウィジェット

ブログ、カテゴリ(フォルダ)、ブログ記事(ウェブページ)を階層的に表示するとともにサイトの各オブジェクトのサマリーを一覧表示してサイト全体を把握しやすくします。BlogTreeダッシュボードウィジェットを表示するには、画面下の「ウィジェットの選択」ドロップダウンメニューから「BlogTree」を選択して「追加」ボタンをクリックします。



ブログツリーの各項目をクリックするとそのエントリーやカテゴリの編集画面に移動します。また各項目の右側のアイコンをクリックすると生成されたページを別ウィンドウで表示することができます。

また各項目を右クリックすることで、例えばカテゴリ(フォルダ)を指定してエントリーを作成したり、エントリーの絞り込み一覧表示など様々なアクションを実行できます。



階層表示の際に読み込み・表示する階層の深さはブログ毎のプラグイン設定で変更出来ます。ブログ記事／ウェブページ数の多いブログでは階層数を減らすことで管理画面の表示速度の低下を防ぐことが出来ます。設定で指定した階層より深い階層のオブジェクトについてはAjaxによって読み込み・表示します。

システムメニューのダッシュボードに表示されるブログと表示順は「BlogTree」という名前の「ブログ・グループ」として登録されています(システムインストール時に自動的に生成されます)。表示対象外にしたいブログはブログ・グループから除外することで非表示にすることが出来ます。



● ドロップダウン・サイドメニュー

BlogTreeダッシュボードウィジェットの階層表示部分のみをコンパクトに表示。各ページの画面左上のボタンからいつでも呼び出せます。



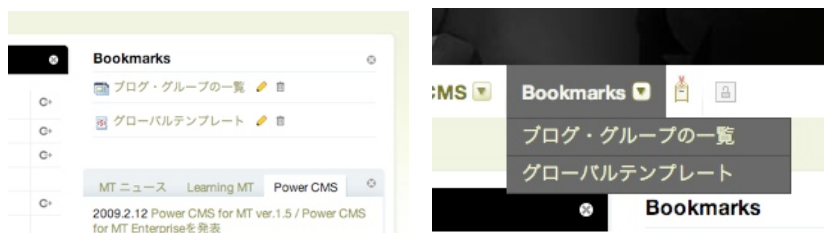
ドロップダウン・サイドメニュー

ドロップダウン・サイドメニューの表示・非表示及び自動読み込みは、システムプラグイン設定で無効にすることも出来ます。



●CMSブックマーク

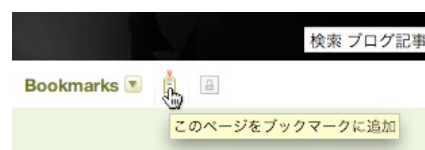
Movable Typeの管理画面の特定の画面をユーザー毎にブックマークできます。登録したブックマークは、ブックマークメニュー又はダッシュボードウィジェットとして表示させることができます。



ブックマークウィジェット(左)とブックマークメニュー(右)

ブックマークを追加するには、ブックマークに追加したい管理画面を表示している状態でBookmarksメニュー右の「しおり」のアイコンをクリックします。

ダイアログで、ブックマークに表示するラベル文字列とダッシュボードに表示するアイコンの画像、表示順を選択して「次へ」をクリックします。



ブックマークの追加

名前

パラメタ

アイコン
 upload categories group groups search user assets
 settings trackbacks rebuild comments plugins entry
 view-site templates import commenters quickpost new-entry
 page tags log roles backup authors notifications
 privileges entries weblogs

表示順

キャンセル 次へ

ブックマークの表示順の変更、ラベル・アイコンの変更は、ダッシュボードウィジェットの各ブックマーク右の鉛筆をクリックして行います。削除する場合はゴミ箱アイコンをクリックします。



● WYSIWYGエディタと画像管理

PowerCMS for MT では、高機能WYSIWYGエディタ「TinyMCE」プラグインと画像のアップロードや貼り付けが簡単にできる「SideBarImage」プラグインにより、より簡単で、より自由なエントリー編集が可能になります。



エントリーの本文/追記欄で利用出来るTinyMCEと、エントリー編集画面で画像の扱いを簡単にするSideBarImage

● SideBarImageによる画像のアップロード

エントリー編集画面右上の「画像」テキストリンクをクリックすることで、MTに登録済みの画像一覧を表示したり画像のアップロードを行う領域が表示されます。



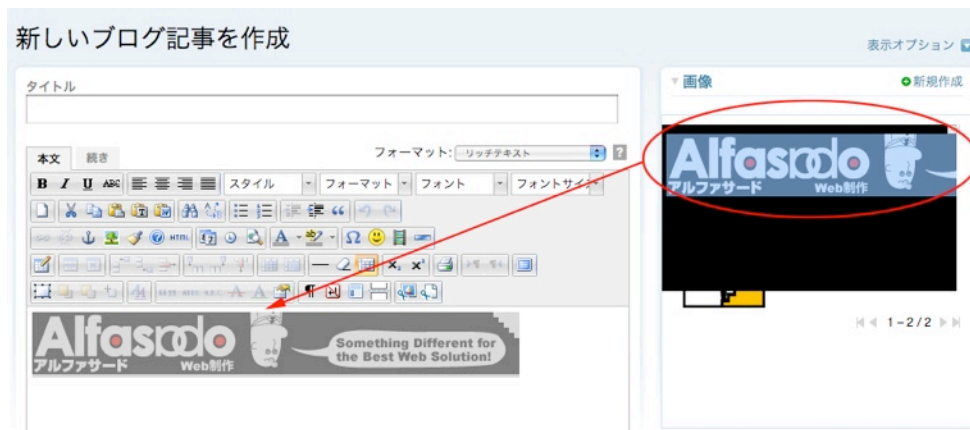
画像のアップロードは以下の手順で行います。

1. 「画像」テキストリンクをクリックします。
2. 「新規作成」リンクをクリックします。アップロード用のフォームが追加されます。複数の画像を同時にアップするには、アップする画像の数分だけ「新規作成」ボタンをクリックします。
3. 「ファイル選択」ボタン(ブラウザにより表示は異なる場合があります)で画像を選択し、画像の名前をフィールドに入力します。
4. 「保存」ボタンをクリックします。

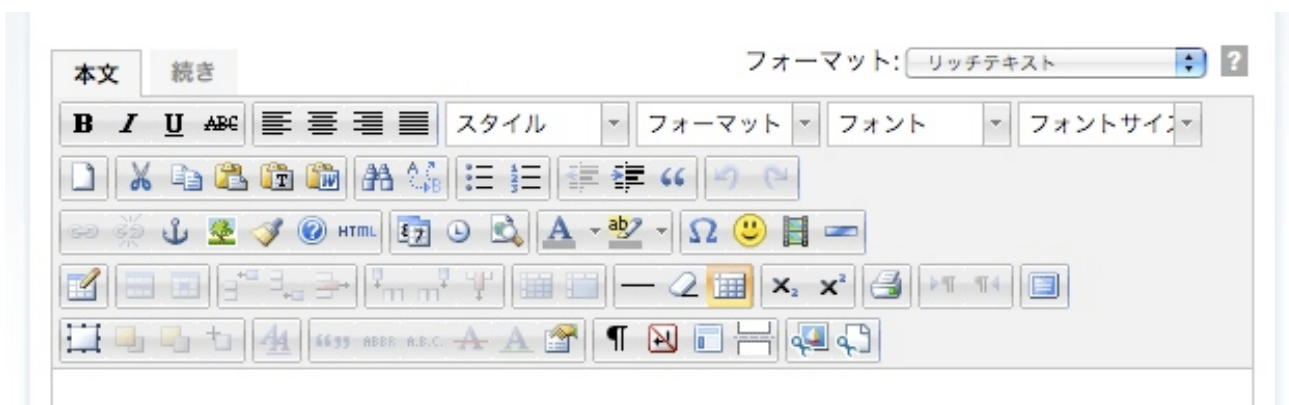
●ドラッグ&ドロップによる画像の貼り付け

エントリー編集画面の右上の「画像」テキストリンクをクリックして表示される画像一覧のサムネイルをクリックすると画像が原寸で表示されます(右上の「×」をクリックするとサムネイルに戻ります)。

画像を原寸表示した状態でマウスで画像を「本文」欄または「続き」欄にドラッグ&ドロップすると画像をエントリーに貼付けることができます。



●高機能WYSIWYGエディタ「TinyMCE」の設定



デフォルト設定で表示されるエディタのボタン群

「システムメニュー」→「プラグイン」→「TinyMCE」→「設定」からエディタ領域に表示するCSSの設定や表示するボタンのカスタマイズができます。

1)editor_style.css

WYSIWYGエディタでの表示に適用するCSSファイルを指定します。$\\$static_uri$タグが指定できます。デフォルト設定は以下のパスになっています。

```
<math>\$static\_uri</math>/plugins/PowerCMS/tinyymce/css/editor_style.css
```

(2)advanced_buttons1~advanced_buttons5

WYSIWYGエディタで利用するボタンを指定できます。設定についてはTinyMCEのマニュアル(英文)を参考にしてください。

<http://tinymce.moxiecode.com/documentation.php>

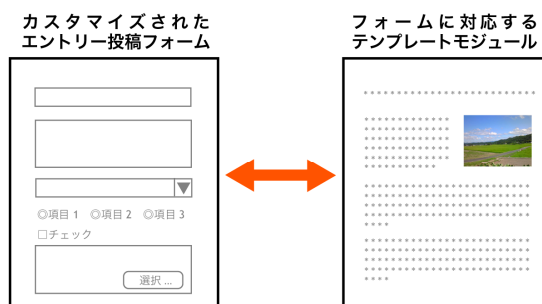
● 拡張フィールドとテンプレートセレクト

PowerCMS for MT ではエントリー(ブログ記事とウェブページの総称)の投稿画面に独自の入力コントロール(テキストフィールドや添付ファイル、ラジオボタン等)を好きなだけ追加することができます。

また、コントロールを追加してカスタマイズしたフォームを「ひな形」として保存して、そのフォームを元にして新しいエントリーを作成することができます。

このセクションでは、エントリー投稿画面のカスタマイズ方法と、カスタマイズした投稿画面に対応するテンプレートモジュールを「テンプレートセクタ」に登録する方法を説明します。

● 「エントリーテンプレート」について



カスタマイズしたエントリー投稿フォームと、カスタマイズしたフォームの出力方法を定義したテンプレートモジュールをセットにしたものを「エントリーテンプレート」と呼びます。

投稿者は予め登録しておいた複数のエントリーテンプレートから選択して、ブログ記事やウェブページを作成することができます。

● 拡張フィールドを追加する

拡張フィールドの追加はエントリー投稿画面の右側の「拡張フィールド」から行います。

拡張フィールド

➕ 新規作成

名前:
製品図面

種類:

- ✓ 1行テキスト
- 複数行テキスト
- ラジオボタン
- チェックボックス
- ドロップダウンメニュー
- ファイル添付
- 日付



1. 拡張フィールド → 新規追加(+ボタン) をクリックします*。
2. プルダウンメニューから追加したいコントロールの種類を選択します。選択できるのは「1行テキスト」「複数行テキスト」「ラジオボタン」「チェックボックス」「ドロップダウンメニュー」「ファイル添付」「日付」の7種類です。
3. 「名前(*)」フィールドにラベルを入力して「OK」ボタンをクリックします。
4. コントロールの種類が「チェックボックス」「ラジオボタン」「ドロップダウンメニュー」の場合、プロンプトが表示されますので、「チェックボックス」の場合はラベルとなるテキスト、「ラジオボタン」「ドロップダウンメニュー」の場合は選択肢をカンマ区切りで入力して「OK」ボタンをクリックしてください。

*この機能を利用するためには、Movable Type にログインしているユーザーが「テンプレートの編集権限」を持っている必要があります。テンプレートの編集権限を持たないユーザーは、あらかじめ登録されたテンプレートを利用してエントリーを作成することができます。

*各フィールドには同じ名前をつけることができますが、名前をユニークなものにしておくとテンプレートタグで(label属性で指定することにより)明示的に値を取り出すことができます。また、テンプレートタグによって名前を取り出すこともできます。

例1) 名前(ラベル)を明示的に指定して値を取り出すテンプレートの例

```
品番 : <MTextFieldText label="品番">
```

例2) ループによって拡張フィールドの名前(ラベル)と入力された値をすべて取り出すテンプレートの例

```
<ul>
<MTextFields>
  <li><MTextFieldLabel> : <MTextFieldText></li>
</MTextFields>
</ul>
```

● 拡張フィールドで追加可能なコントロール

(1) 1行テキスト




改行を含まないテキストの入力エリアです。比較的短いテキストや見出し等に適しています。

価格   

(2) 複数行テキスト

改行を含む長い文章を入力するのに適した入力エリアです。




テキストフォーマットを指定したりWYSIWYGエディタでの編集が可能です。

製品の概要   

(3) ラジオボタン



複数の選択肢から1つ選択することのできるコントロールです。

ドロップダウンメニューよりも一覧性に優れています。

製品種別    ソフトウェア ハードウェア その他




(4) チェックボックス

オン/オフの選択を行うチェックボックスです。

特典    特典あり

(5) チェックボックスグループ




複数のチェックボックスのグループです。複数選択可能な一連の項目の指定に利用できます。

オプション    接続ケーブル DVD-ROM その他

(6) ドロップダウンメニュー

複数の選択肢から1つ選択することのできるコントロールです。

ラジオボタンと比較して、多くの項目をコンパクトにおさめることができます。

表示箇所    トップページ
 サイドバー(左)
 サイドバー(右)
- メタデータ

(7) ファイル添付

ブラウザからファイルを選択してエントリーの投稿と同時にファイルをアップロードするためのフィールドです。

ファイルには「名前」と「説明」を付けることができます。

バナー 🔍 👍 👎

名前:

説明:

フォーマット: なし

ファイル: ファイルが選...ていません

アップロード先: <サイトルート> /files/junnama/

同名ファイルが存在する時: 上書き リネーム

ファイルがアップされていない状態のフィールド

バナー 🔍 👍 👎

ファイル・パス: http://mt4local.alfasado.net/files/junnama/banner_1.gif 

名前:

バナー


説明:

フォーマット: なし

横長パターンのバナー

削除 置換 ファイル...いません 上書き リネーム

ファイルがアップされた状態のフィールド(画像の場合)

- ・プラグイン設定で指定したサイズより幅の大きな画像(JPEG,GIF,PNGフォーマット)をアップロードした場合には自動的にサムネイルが作成されます。
- ・ファイルには「名前」と「説明」を付けることができます。「説明」フィールドは「複数行テキスト」と同じテキストフォーマットを適用できます(WYSIWYGエディタも利用できます)。
- ・アップロード可能なファイルの拡張子、ファイルのアップロード場所はプラグイン管理画面で設定が可能です。
- ・アップロードしたファイルはデータベースの mt_asset テーブルに同時に登録されるため、Movable Type のアイテム管理の機能を利用して管理ができます。
- ・  アイコンをクリックするとアイテム編集画面をモーダルダイアログで開きます。

アイテムの編集

種類
画像

名前:
バナー

説明:
横長パターンのバナー

タグ

awesome, design,

テンプレート

保存 確認

キャンセル 変更を保存

466 x 60px - 5.6 KB
アイテムを表示
アイテムの埋め込み

※注意!

拡張フィールドを利用してアップロードしたファイルは、エントリーと紐づいているため、エントリーを削除すると同時に拡張フィールドによってアップロードされたファイルも削除されることに注意してください(但し、他のエントリーの拡張フィールドがファイルを参照している場合はファイルは削除されません)。

※ファイルがアップロードされるタイミングとファイル情報がデータベースに保存されるタイミングについて

エントリーを保存するタイミングだけでなく、エントリー投稿画面で「確認」ボタンをクリックした時にもファイルがアップロードされます。

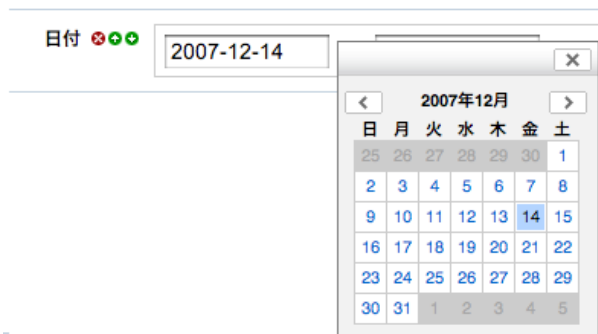
但しエントリーにIDが付与されていない場合(新規投稿時)、確認ボタンを押してプレビュー画面を呼び出した時にはファイルがアップロードされるだけでデータベースには保存されません。データベースに保存されるのはあくまでもエントリーを「保存」した時だけです。

※日本語を含むファイルのアップロード時のリネーム処理について

日本語を含むファイルをアップロードすると正しくリンクされない場合があります。また、PCの日本語文字コードとサーバーの日本語文字コードが異なる場合等正しく名前を取得・設定できないことがあります。このため、拡張フィールドからアップロードされたファイル名に日本語が含まれていた場合、ファイル名をハッシュ値に(MD5関数により)変換します。この時、添付ファイルの「名前」が空欄だった時には、「名前」欄にオリジナルのファイル名を格納します。

(8)日付

日付を入力するための2つのフィールド(年月日と時分秒)が生成されます。カレンダーアイコンをクリックしてカレンダーから日付を選択することもできます。



● 拡張フィールド関連の設定と制限事項

拡張フィールドの機能は、ExtFieldsプラグインによって実装されています。システムメニュー「設定」→「プラグイン」→ExtFieldsの設定から拡張フィールドに関する設定を行えます。

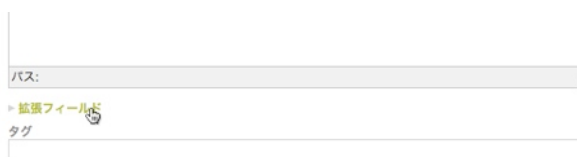
● 拡張フィールドの設定

システムメニュー「設定」→「プラグイン」を選択し、表示されるプラグインの一覧から「プラグインのセット: PowerCMS」→「ExtField」をクリック→さらに「設定」をクリックします。



(1) デフォルトでフィールドブロックを折り畳む

拡張フィールドブロックをデフォルトでは非表示にします。チェックを入れることでクリックで表示・非表示を切り替えられるようになります。



(2) サムネイルの幅

指定した数字(ピクセル)よりも幅の広い画像(JPEG,GIF,PNGフォーマット)をアップロードした場合、自動的にサムネイルが作成されます。

(3) アップロードを許可するファイルの拡張子

指定した拡張子以外のファイルのアップロードを制限します。

(4) ファイルアップロード・フォルダ

アップロード場所を指定できます。ユーザー毎にアップロードディレクトリを指定することもできます。

✳ ユーザー毎のアップロードパスの指定について

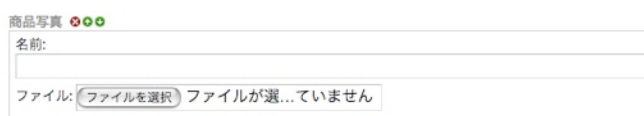
- ・パスに「%u」を含めるとユーザー名に置換されます。
- ・パスに「%i」を含めるとユーザーIDに置換されます。

(5) エントリーの複製時にアイテムをコピーする

このチェックを外すと、複製時には添付ファイルフィールドのみが複製され、アップロード済みのアイテム情報は複製されません。

(6) コンパクトな拡張フィールドを使う

添付ファイルフィールドをコンパクトな表示にします。「説明」欄は非表示になり、サムネイルは縮小表示されるようになります。



● 拡張フィールドの設定(権限の設定)

同じく、拡張フィールドを追加したり、移動したりすることのできる権限を設定することができます(拡張フィールドの移動については後述します)。この設定は、ブログ記事の場合とウェブページの場合の両方に対して行うことができます。

例えば、デフォルトではどちらも「テンプレートの管理」が選択された状態になっていますが、この場合は「テンプレートの管理」権限のあるロールに属するユーザのみが拡張フィールドの追加や移動を行うことができます。「テンプレートの管理」を行うことができないユーザの場合、あらかじめ追加されている拡張フィールドがあればそれらを編集することができますが、新規に追加したり、場所を入れ替えたりすることはできません。

● 拡張フィールドの設定 (エディタの設定)

「複数行テキスト」「添付ファイル(「説明」フィールド)」で利用できるWYSIWYGエディタ「TinyMCE」の設定を行います(「本文」「追記」欄のエディタの設定はTinyMCEプラグインの設定から行います)。

(1) editor_style.css

WYSIWYGエディタでの表示に適用するCSSファイルを指定します。<\$mt:var name="static_uri">タグが指定できます。デフォルト設定は以下のパスになっています。

```
<$mt:var name="static_uri">plugins/PowerCMS/tinymce/css/editor_style.css
```

(2) advanced_buttons1～advanced_buttons5

WYSIWYGエディタで利用するボタンを指定できます。設定についてはTinyMCEプラグインのデフォルト設定やTinyMCEのマニュアル(英文)を参考にしてください。

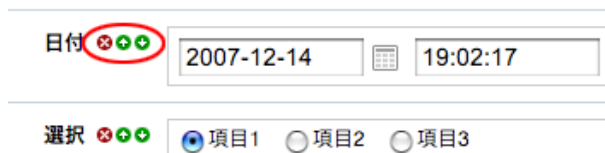
<http://tinymce.moxiecode.com/documentation.php>

(3) テキストフィルタ

チェックを入れるとMovable Type互換のテキストフィルタ(Markdown, Textile等)が利用できるようになります。

● 拡張フィールドを削除する、拡張フィールドの順序を入れ替える

拡張フィールドの名前(ラベル)横にある小さなアイコンをクリックすることで、拡張フィールドの削除(×)、順序の変更(↑,↓)ができます。一度削除したフィールドを元に戻すことはできません。



● 拡張フィールド用のテキストフィルター

「複数行テキスト」フィールド及び「ファイル」フィールドの「説明」欄では様々なテキストフィルターを適用することが可能です。

● 利用可能なテキストフィルター

(1) 改行を変換する

Movable Typeの「改行を変換する」と同様の処理を行います。

(2) Table

タブ区切りのテキストをシンプルなテーブルに変換して出力します。Microsoft Excel等のスプレッドシートアプリケーションからコピー&ペーストすることによって簡単にテーブルを作成できます。

以下の4種類のフィルタが適用可能です。

- ・見出しなし:すべてのセルはtd要素として出力されます。
- ・行を見出し:1行目のセルのみth要素で、その他のセルはtd要素として出力されます。
- ・列を見出し:1列目のセルのみth要素で、その他のセルはtd要素として出力されます。
- ・行,列を見出し:1行目のセルと1列目のセルをth要素として、その他のセルをtd要素として出力します。

(3) リスト

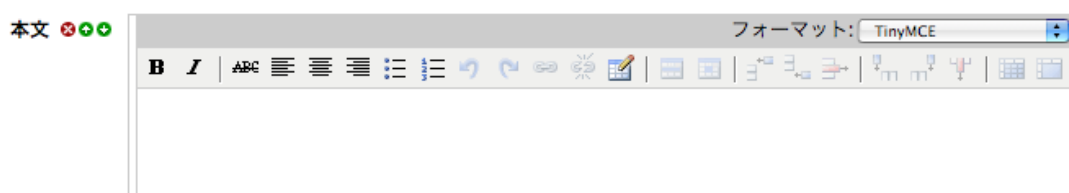
1行をリストの1項目として出力します。

- ・ul(順不同リスト):ul, li要素によるリストです。
- ・ol(番号付リスト):ol, li要素によるリストです。

(4) TinyMCE(WYSIWYGエディタ)

Moxiecode Systems AB.社のJavascript HTML WYSIWYG editor であるTinyMCEが組み込まれており、複数行テキスト欄及びファイルの説明欄でこの機能を利用できます。

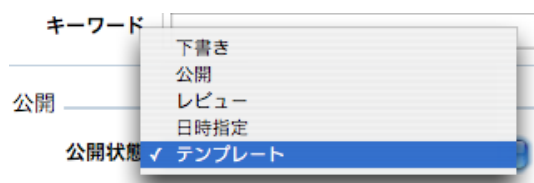
テーブルを作成したり、簡単な文字装飾、テキスト配置等の調整が簡単に行えます。



ExtFieldプラグインの設定で表示するボタンの指定やMovable Type互換のテキストフィルタへの変更ができます。

🕒 カスタマイズ済みのエントリー投稿フォームをテンプレートセレクトに登録する

カスタマイズしたエントリー投稿画面の「公開状態」で「テンプレート」選択して「保存」をクリックします。



同名のテンプレートが存在しなかった場合(同一ブログ内でテンプレート名を重複して付けることはできません)、そのままテンプレート編集画面に遷移します。標準テンプレートを利用する場合(カスタマイズしない場合、各フィールドの値がループ処理で出力されます)、「保存」をクリックするとテンプレートの登録が完了します。

テンプレートを編集

拡張フィールドテンプレート

挿入する

```
<div id="entry-{$SMTEntryID}" class="entry-asset asset">
  <div class="asset-header">
    <h1 class="asset-name">{$SMTEntryTitle}</h1>
    <SMTInclude module="ブログ記事のメタデータ">
  </div>
  <div class="asset-content">
    <MTIfNotEmpty tag="EntryBody">
      <div class="asset-body">
        <SMTEntryBody$>
      </div>
    </MTIfNotEmpty>

    <div class="extrafields">
      <MTExtFields>
        <MTIfExtFieldType type="text">
          <h2 class="asset-name">{$SMTExtFieldText}</h2>
        </MTIfExtFieldType>
      </MTExtFields>
    </div>
  </div>
</div>
```

CMSテンプレート

```
<mt:if name="object_type" eq="page">
  <mt:if name="can_manage_pages">
    <mt:setvar name="can_publish_post" value="1">
  </mt:if>
  <mt:setvar name="disp_prefs_show_category" value="1">
  <mt:setvar name="container_label" value="<__trans phrase="Folder">">
  <mt:setvar name="basename_label" value="<__trans phrase="Filename">">
  <mt:setvar name="container_label_plural" value="<__trans phrase="Folders">">
</mt:if>
```

ファイルへのリンク

セレクト このテンプレートをテンプレート・セレクトに登録する 標準テンプレートにする
 ブログ記事

記事テンプレート 拡張フィールドテンプレート

サムネイル ファイルが選...れていません

保存 Go

● テンプレートセレクター関連の設定項目

(1) CMSテンプレート(上級者向け)

Movable Type のCMSテンプレート(エントリーの投稿画面=edit_entry.tpl)をこのフィールドの内容で置き換えます。エントリー投稿画面のレイアウトを変更したりラベルのテキストをカスタマイズしたい場合に利用します。通常は編集する必要はありません(空の場合はデフォルトのテンプレートが利用されます)。

(2) このテンプレートをテンプレートセレクタに登録する

チェックを入れて保存するとメニュー「新規作成」→「テンプレート→記事」(「テンプレート→ページ」)を選択した際に「エントリーテンプレート」の候補として表示されます。

(3) 標準テンプレートにする

ブログ内でブログ記事やウェブページを新規作成する時のデフォルトテンプレートにする場合、ここをチェックします。ブログ記事を新規作成する際に、このエントリーテンプレートが適用されます。

(4) サムネイル

160pixel*160pixelの画像をサムネイルとして登録することができます(アップロードされた画像は自動的にリサイズされます)。メニュー「新規作成」→「テンプレート→記事」(「テンプレート→ページ」)を選択した際にテンプレート名とともにサムネイルが表示されます。

✳️ mt-static/Plugins/TemplateSelector/Images/thumbnails ディレクトリに書き込み可能なパーミッションを与える必要があります。



● 一覧表示でのエントリーテンプレートの表示と絞り込み

エントリー一覧ページでは「エントリーテンプレート」として保存されているエントリーは **T** アイコンが付いて表示されます。**T** アイコンをクリックするか、フィルタ「テンプレート」を指定することで「エントリーテンプレート」のみを一覧表示できます。



●記事テンプレートの作成と削除について

テンプレートセレクト機能を使用して記事テンプレートを作成した場合、その記事テンプレートでファイルを出力するための、記事テンプレートのタイトルと同名のテンプレートモジュールが自動的に作成されます(例えば、「ブログ記事テンプレート」という名前で記事テンプレートを作成した場合、自動的に「ブログ記事テンプレート」というテンプレートモジュールが作成されます)。記事テンプレート作成の際に、すでに記事テンプレートのタイトルと同名のテンプレートモジュールが存在する場合、「ブログに同名のテンプレートが存在します」というエラー表示が返されます。このような場合は、別の名前で記事テンプレートを作成してください。



また、記事テンプレートを作成した場合に自動作成されるテンプレートモジュールは、記事テンプレートを削除しても自動的に削除されません。記事テンプレートを作成し直したい場合は、作成された同名のテンプレートモジュールを手動で削除してください。なお、削除する際は他のテンプレートからインクルードされていないことを十分に確認してから削除するようにしてください。

● 拡張フィールド、テンプレートセレクトタに関連のテンプレートタグ

※ ExtFieldプラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTIfExtField

エントリーに拡張フィールドが一つ以上登録されている場合に真を返します。

例:拡張フィールドが含まれている場合のみモジュールをインクルードする例

```
<MTIfExtField>
<MTInclude module="拡張フィールド">
</MTIfExtField>
```

MTextFields

エントリー内の拡張フィールドを順番に取り出します。

例:エントリー内の拡張フィールドのlabel(名前)、text(内容)を順番に出力する例

```
<ul>
<MTextFields>
  <li><MTextFieldLabel> : <MTextFieldText></li>
</MTextFields>
</ul>
```

※ フィールドをラベル名で指定して直感的に取り出すには?

PowerCMSの拡張フィールドをテンプレートタグの中で直感的に扱うには、あらかじめMTextFieldsループの中で MTSetVarBlockタグを使い、値とラベル名を関連付けると良いでしょう。

```
<MTextFields>
  <MTSetVarBlock name="label"><$MTextFieldLabel$></MTSetVarBlock>
  <MTSetVarBlock name="$label"><$MTextFieldText$></MTSetVarBlock>
</MTextFields>
```

ループが実行されると各フィールドのラベルと値が変数に入りますので、以下のような記述で拡張フィールドの値を取り出すことができます。

```
<MTIf name="施設名">
  施設名 : <MTVar name="施設名">
</MTIf>
<MTIf name="住所">
  所在 : <MTVar name="住所">
</MTIf>
```

MTextFieldAsset

MTextFields ループの中で使用し、このタグの中では Asset に関連するタグを使用することができます。拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」である場合にのみ機能します。

例:エントリー内で、拡張フィールドを使って添付されたファイルのlabel(名前)、text(内容)を順番に出力する例

```
<ul>
<MTextFields>
<mt:ExtFieldAsset>
  <li><MTAssetLabel> : <mt:AssetURL></li>
</mt:ExtFieldAsset>
</MTextFields>
</ul>
```

MTextFieldsMultiValues

チェックボックスグループ、ラジオボタン、ドロップダウンメニューのすべての選択肢をループで出力します。ループの中で選択肢のテキストを取り出すにはファンクションタグ MTextFieldValue を使います。

MTIfExtFieldSelected

MTextFieldsMultiValuesループの中で、該当の項目がチェック(選択)されている場合に真を返します。

MTIfExtFieldType

拡張フィールドの種類がtype属性と一致する場合に真を返します。MTextFieldsのループの中で利用することができます。label属性(名前)を指定することでMTextFieldsのループ外でも特定の拡張フィールドに対して利用することができます。

例:type「text(一行テキスト)」のフィールドをh2タグ、type「textarea(複数行テキスト)」のフィールドをpタグでマークアップする例

```
<MTIfExtFieldType type="text"><h2><MTextFieldText></h2></MTIfExtFieldType>
<MTIfExtFieldType type="textarea"><p><MTextFieldText></p></MTIfExtFieldType>
```

例:label(名前)が「価格」でtype「text(一行テキスト)」の内容を表示する例

```
<MTIfExtFieldType type="text" label="価格"><p>価格:<MTextFieldText label="価格"></p></MTIfExtFieldType>
```

MTIfExtFieldTypeImage

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」で且つアップロードされたファイルが画像(Jpeg,Gif,Pngフォーマット)である場合に真を返します。MTextFieldsのループの中で利用することができます。label属性を指定することでMTextFieldsのループ外でも特定の拡張フィールドに対して利用することができます。

MTIfExtFieldFileExists

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、そのファイルがサーバー上に存在する場合に真を返します。

例:ファイルが存在する場合、イメージであればインラインで表示、その他のファイルであればダウンロードリンクを出力する例

```
<MTIfExtFieldFileExists label="添付ファイル">
<p>
  <MTIfExtFieldTypeImage label="添付ファイル">
    
      alt="画像:<$MTextFieldAlt$">
        title="<$MTextFieldDescription$">
          width="<$MTextFieldImageWidth$">
          height="<$MTextFieldImageHeight$">"/>
  <MTElse>
    ダウンロード:<a href="<$MTextFilePath$">
      title="<$MTextFieldDescription$"><$MTextFieldAlt$></a>
  </MTElse>
</MTIfExtFieldTypeImage>
</p>
</MTIfExtFieldFileExists>
```


MTIfExtFieldThumbnailExists

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNGフォーマット)である場合、サムネイルがサーバー上に存在する場合に真を返します。

MTIfExtFieldNonEmpty

拡張フィールドの内容(text)が空でない場合に真を返します。

MTIfExtFieldCompare

拡張フィールドの名前(label)と内容(text)を属性値と比較して、一致している場合に真を返します。

例: 「価格」フィールドの値が0だった場合に「無料」アイコンを表示する例

```
<MTIfExtFieldCompare label="価格" text="0">
  
<MTElse>
  <MTExtFieldText label="価格">円
</MTElse>
</MTIfExtFieldCompare>
```

● ファンクションタグ

MTextFieldCount

エントリーに追加されている拡張フィールドの数を出力します。

MTextFieldLabel

名前(label)の値を返します。MTextFieldsのループの中で利用することができます。

MTextFieldValue

MTextFieldsMultiValuesのループの中で、各選択肢のテキストを返します。

MTextFieldName

フィールドを識別する識別子を返します。この値は extfield-1 のような名前では保存されていますが、通常利用することはあまりないでしょう。

MTextFieldText

内容(text)の値を返します。MTextFieldsのループの中で利用することができます。label属性を指定することでMTextFieldsのループ外でも特定の拡張フィールドに対して利用することができます。

※ラジオボタン/ドロップダウンメニューの場合は、選択された項目のテキストを出力します。

チェックボックスの場合は、チェックボックスにチェックされている場合は数字の1を出力します。

ファイルの場合は、ファイルのパス(%r/images/foo.gif)を出力します。

MTextFieldCLabel

拡張フィールドの種類が「チェックボックス」の場合にラベル(チェックボックスの右のテキスト)を出力します。

MTextFieldNum

MTextFieldsのループの中で、何度目のループが実行されているか(数値)を出力します。

MTextFieldFileName

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、そのファイルの名前を出力します。

MTextFieldFilePath

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、そのファイルのパス(httpから始まるURL形式)を出力します。

MTextFieldFileDate

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」で且つファイルがサーバーに存在する場合、そのファイルのタイムスタンプを返します。

MTextFieldFileSize

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」で且つファイルがサーバーに存在する場合、そのファイルのサイズを返します。属性値を省略した場合、小数点以下1桁までの数字に適切な単位を付けて返します。属性値として、unit(単位= kb または mb)、decimals(数字 = 小数点以下何桁を表示するか) が指定できます。この2つの属性は必ずセットで指定してください。属性を指定した場合、数字のみが返ります(単位は付加されません)。

MTextFieldThumbnail

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNGフォーマット)である場合、サムネイルのパス(httpから始まるURL形式)を出力します。

MTextFieldImageWidth

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNGフォーマット)である場合、ファイルの幅(pixel値)を出力します。

MTextFieldImageHeight

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNGフォーマット)である場合、ファイルの高さ(pixel値)を出力します。

MTextFieldThumbnailWidth

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNGフォーマット)である場合、サムネイル画像の幅(pixel値)を出力します。

MTextFieldThumbnailHeight

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNGフォーマット)である場合、サムネイル画像の高さ(pixel値)を出力します。

MTextFieldAlt

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、拡張フィールドの「名前」欄に入力したテキストを出力します。

MTextFieldDescription

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、拡張フィールドの「説明」欄に入力したテキストを出力します。

MTextFieldFileSuffix

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、ファイルの拡張子を出力します。
拡張子にあわせたアイコンを用意することによって、ファイルの種類に応じたアイコンを表示するといったデザインが可能になります。

※高速化のためのヒント：

各ファンクションタグでlabel属性を指定して個々にフィールドを取り出す方法によってテンプレートの自由度は高くなりますが、MTextFieldループで順番に取り出す方が処理は高速になります。MTIfExtFieldTypeタグをうまく活用してできるだけループの中で処理するのが高速化のポイントです。

MTextFieldFileThumbnail (スタティックのみ)

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」で且つ「画像」でオリジナルのファイルがサーバーに存在する場合、サムネイルのパスを返します。以下、オリジナルの画像が「http://example.com/files/admin/foo.gif」でラベルが「メイン画像」の場合の例を示します。

例1:

```
<$MTextFieldFileThumbnail label="メイン画像" width="120"$>
```

- 同じ階層に foo-thumb120x.gif を探して、存在しなければその場で生成します。
- テンプレートタグは <http://example.com/files/admin/foo-thumb120x.gif> を返します。

例2:

```
<$MTExtFieldsFileThumbnail label="メイン画像" height="120"$>
```

- 同じ階層に foo-thumbx120.gif を探して、存在しなければその場で生成します。
- テンプレートタグは <http://example.com/files/admin/foo-thumbx120.gif> を返します。

例3:

```
<$MTExtFieldsFileThumbnail label="メイン画像" width="120" height="120"$>
```

- 同じ階層に foo-thumb120x120.gif を探して、存在しなければその場で生成します。
- テンプレートタグは <http://example.com/files/admin/foo-thumb120x120.gif> を返します。

✿TemplateSelectorプラグインで利用出来るタグ

●ブロックタグ

MTIfTemplateSelectorBlock

常に真を返します。

このタグは、エントリーテンプレートを新たに作成して追加した時に自動的にテンプレートモジュールを追加するためのタグです(このタグが記述されているテンプレートのブロックに、テンプレートモジュールが自動登録/自動削除されます)。

MTIfTemplateSelector

エントリーテンプレート名がname属性で指定された名前と一致する場合に真を返します。

例: ブログ記事テンプレートに登録されたテンプレート分岐の例

```
<MTIfTemplateSelectorBlock>
<!--エントリーテンプレートを登録/削除するとMTIfTemplateSelectorBlockの中は自動的に更新されま
す-->
<MTIfTemplateSelector name="プレスリリーステンプレート">
  <MTInclude module="プレスリリーステンプレート">
</MTIfTemplateSelector>
<MTIfTemplateSelector name="拡張フィールドテンプレート">
  <MTInclude module="拡張フィールドテンプレート"></MTIfTemplateSelector>
<MTIfTemplateSelector name="">
  <MTInclude module="ブログ記事の詳細"></MTIfTemplateSelector>
</MTIfTemplateSelectorBlock>
```

●ファンクションタグ

MTEntryTemplateName

エントリーテンプレートの名前を返します。

🎯 アンケートフォームの作成

PowerCMS for MT の拡張フィールドを使うと、ユーザーからのフィードバックを受けるためのフォームを簡単に作成することができます。拡張テンプレートにはあらかじめフォームを生成するためのテンプレートが組み込まれており、また確認画面の表示や投稿されたデータを保存するためのCGIプログラムが同梱されています。

● フォームを作成する

フォームの作成はエントリー(ブログ記事又はウェブページ)単位で行います。

フォームを作成する手順は、PowerCMSの拡張フィールドで入力項目を指定して、テンプレート選択ドロップダウンメニューから「フォーム(ブログ記事)」又は「フォーム(ウェブページ)」を選択して保存するだけです。

フォームの生成に対応しているコントロールは「添付ファイル」「日付」以外のすべてのフィールドです。

例えば上記の図のような項目フィールドを追加してエントリーを保存すると、下の図のようなフォームが自動的に生成されます。

お問い合わせ

以下の文章はサンプルです。内容を適切に書き換えてください。

お問い合わせはメールで: email (at) domainname.com

コンテンツを編集

フォームに項目を入力して投稿すると、以下のような確認画面を表示した後、「送信する」ボタンをクリックすると投稿されます。処理を行うプログラムは/mt-form.cgi です(このCGIスクリプトをmt.cgiと同じ場所に設置して実行パーミッションを付与する必要があります)。

お問い合わせ

入力されていない必須項目があります。入力内容を確認してください。

お名前 (必須)	野田純生
メールアドレス (必須)	junnama@alfasado.jp
お問い合わせの種類 (必須)	資料請求
お問い合わせ内容	PowerCMSの資料を以下の住所までお送りください。〒550-0005 大阪市西区西本町1-10-3 新松岡ビル502号 (地下鉄四ツ橋線 本町1分) 電話：06-6534-3772 ファクス：06-6534-3773
このサイトを何で知りましたか?	検索
個人情報の取り扱い (必須)	この項目は必須項目です。

戻る

お問い合わせ

お問い合わせいただきありがとうございました。

以下の文章はサンプルです。内容を選択して書き換えてください。

お問い合わせはメールで: email (at) domainname.com

コンテンツを編集

お名前 (必須)

メールアドレス (必須)

お問い合わせの種類 (必須)

●投稿後の処理とフォーム設定のカスタマイズ

(1)投稿後の処理と保存データ

デフォルトの設定では投稿された内容は、データベースに保存されエントリーの投稿者及びフォームからの投稿者にメールで通知されます(プラグイン設定で送信する/しないを切り替えられます)。投稿されたデータの一覧は、システムまたはブログのメニュー「一覧」→「フォームデータ」を選択することで表示されます。

投稿されたフォームデータは、投稿されたエントリー単位、メールアドレス単位、日付単位、IPアドレス単位、ステータスによって絞り込むことができます。フォームデータ(概要が表示されます)をクリックすると各データの詳細を見ることができ、項目を選択してCSVファイルをダウンロードすることも出来ます。

フォームデータ				
すべてのフォームデータ [絞り込み]				
承認 承認を取消 削除 CSV				
<input checked="" type="checkbox"/>	フォームデータ	フォームの投稿者	ブログ記事 / ウェブページ	日付
<input checked="" type="checkbox"/>	▲ 持田徹, motchie@alfasado.jp, PowerCMSについて, ネット広告	motchie@alfasado.jp	お問い合わせ *	2008年10月1
<input checked="" type="checkbox"/>	▲ 近藤孝俊, kondoh@alfasado.jp, デモの依頼, 検索エンジン	kondoh@alfasado.jp	お問い合わせ *	2008年10月1
<input checked="" type="checkbox"/>	▲ 野田純生, junnama@alfasado.jp, 資料請求, 検索エンジン, ニュースサイト	junnama@alfasado.jp	お問い合わせ *	2008年10月1

※CSVの処理にはサーバーにPerlモジュール Text::CSV_XS もしくは Text::CSV が必要です。

(2) 必須項目の指定条件

デフォルトのテンプレートでは、ラベルに「必須」の文字列を含む項目を必須項目として扱いますが、これはテンプレートで定義されています。

拡張フィールドをフォームのコントロールとして出力し、ラベルに「必須」を含む項目を必須項目として扱うためのテンプレートは以下のようなものです。<MTIf name="label" like="必須">の部分を変更することで、必須項目の指定条件をカスタマイズすることができます(名前が required である hidden フィールドを指定することで必須項目チェックが行えます)。

```
<MTIfExtFieldType type="text">
  <MTSetVarBlock name="label"><$MTEextFieldLabel$></MTSetVarBlock>
  <dl>
    <dt><MTVar name="label"></dt>
    <dd><input type="text" name="<$MTEextFieldName$>" style="width:95%" value="<$MTEextFieldText escape_html="1"$>" />
      <input type="hidden" name="item_array" value="<$MTEextFieldName$>" />
      <MTIf name="label" like="必須"><input type="hidden" name="required" value="<$MTEextFieldName$>" /></MTIf>
    </dd>
  </dl>
</MTIfExtFieldType>
```

(3) メール送信先/送信後に表示されるページの指定

送信後に表示するページのアドレスやメールを送信するユーザーの設定については form の hidden 項目として指定します。

デフォルトテンプレートでは以下のような指定となっています。

```
<input type="hidden" name="blog_id" value="<$MTBlogId$>" />
<input type="hidden" name="entry_id" value="<$MTEnterId$>" />
<input type="hidden" name="template_id" value="<$MTBuildTemplateID$>" />
<input type="hidden" name="entry_author" value="<$MTEnterAuthorID$>" />
<input type="hidden" name="return_uri" value="<$MTEnterPermalink$>" />
<input type="hidden" name="__mode" value="confirm" />
```

各パラメタの意味は次の通りです。

パラメタ名	デフォルト値	解説
blog_id	<\$MTBlogId\$>	ブログのIDを指定します。
entry_id	<\$MTEnterId\$>	エントリーのIDです。投稿された内容は、このエントリーのコメントとして保存されます。
template_id	<\$MTBuildTemplateID\$>	確認画面の表示に使われるテンプレートのIDです。
entry_author	<\$MTEnterAuthorID\$>	投稿された内容はこの投稿者ユーザーにメールで送信されます。
return_uri	<\$MTEnterPermalink\$>	投稿を受け付けた後に表示するページのURLを指定します。
__mode	confirm	confirm 又は submit を指定します。submit を指定した場合は確認画面は表示せずにダイレクトに投稿を行います。
key(オプション)	なし	確認画面の表示の分岐に利用するためのキーです。数字等を入れておくことで確認画面の分岐処理が可能です。
identifier(オプション)	なし	管理画面で絞り込みを行うための値をセットします。

(4) 確認画面のカスタマイズ

確認画面の表示には、`template_id` で指定したテンプレートが使われます。

また、入力内容を表示する部分のテンプレートは `plugins/PowerCMS/tmpl/extra_form.tmpl` です。

確認画面は次の流れで生成されます。

1. CGIプログラムが受け取った値を `plugins/PowerCMS/tmpl/extra_form.tmpl` に渡し、確認内容を反映したテーブルをビルドします。
2. `template_id` で指定したテンプレートに対し、`entry_id` で指定したエントリーを指定してビルドします。但し、`entry_text(<$MTEnterBody$>` を 1. でビルドしたテーブルに置き換えます。

2. でページをビルドするときに、確認画面を表示しているかどうかを `<MTIfEntryIsDynamic>` タグで分岐させることができます。つまり、確認画面のカスタマイズは、エントリー(ブログ記事又はウェブページ)のテンプレートで `<MTIfEntryIsDynamic>` タグを利用して分岐させること及び、`plugins/PowerCMS/tmpl/extra_form.tmpl` の内容をテキストエディタで直接変更することで行えます。

また、フォームのパラメタ「key」によって確認画面上の処理を分岐させることが出来ます。

渡された「key」の値は `extra_form.tmpl` の中でのみ利用できるタグ `<mt:var name="key">` で取り出すことが出来ます。例えばkeyに値が入っているかどうかでテンプレートを分岐させるタグは以下のようになります。

```
<mt:if name="key">
  <!--キーが指定されているときの表示-->
<mt:else>
  <!--キーが指定されていないときの表示-->
</mt:else>
</mt:if>
```

keyと同様に渡されるパラメタに `error` があります。これは、必須項目として指定された内容が空だった場合に指定されるパラメタです。

```
<mt:if name="error">
  入力されていない必須項目があります。入力内容を確認してください。
<mt:else>
  以下の内容でよろしければ送信してください。
</mt:else>
</mt:if>
```

(5) 通知メールのカスタマイズ

投稿後に送信される通知メールのテンプレートは `plugins/PowerCMS/tmpl/form_mail.tmpl` にあります。

●プラグイン設定

「システムメニュー」→「プラグイン設定」→「ExtraForm」の設定で以下の項目が設定出来ます。

設定項目	解説	設定例
CSVデータをShift_JISエンコードする	ダウンロードするCSVデータをShift_JISエンコードします。	
メールフィールド名	ここで指定した名前と同一の拡張フィールドをメールアドレス欄とみなします。	電子メール(必須)
フォームメールをエントリーの作成者へ送信する	エントリー(ブログ記事・ウェブページ)の作成者へメールを送る場合はチェックします。	
送信者へ確認メールを送信する	フォームからの投稿者へ確認メールを送信する場合、チェックします。	
公開状態	デフォルトの公開状態(ステータス)を指定します。ステータスは2段階です。	
表示数	管理画面上のリスト表示の表示件数です。表示件数をオーバーした場合はページ送りナビゲーションが表示されます。	
アクションバーの配置	管理画面上のリスト表示の際のアクションバーの表示位置です。	
フォームデータのロットル (秒)	スパム投稿を防止するため、一定の秒数以内の同一アドレスからの投稿を制限します。	60
確認メールの署名	確認メールの署名を指定します。テンプレートによるカスタマイズも可能です。	

●アンケートフォーム関連のテンプレートタグ

✿ExtFieldプラグインで利用出来るタグ

●ブロックタグ

MTIfEntryIsDynamic

テンプレートが確認画面表示処理から呼び出されている時に真を返します。

✿plugins/PowerCMS/tmpl/extra_form.tmpl内で利用出来るMTIfタグ及びMTVarタグのパラメタ

name="error"

必須項目に不備(空欄)があったときに渡されます。

name="key"

form の keyパラメタに指定された値がセットされます。

● グループの作成とエントリー並び順の指定

PowerCMS for MT は Movable Type に登録されているエントリー(ブログ記事/ウェブページ)、カテゴリ/ブログをグループ化してソート順を指定することができます。グループはいくつでも作成でき、簡単なテンプレートタグで呼び出すことができます。この機能は、ItemSortプラグイン(ブログ記事/ウェブページのグループ指定と並び替え設定)及びItemGroupプラグイン(カテゴリとブログのグループ指定と並び替え設定)により提供されます。

このセクションでは、グループの作成と設定、設定したグループのアイテムを表示させるためのテンプレートタグについて説明します。尚、カテゴリ/ブログのグループ化、並び順の指定も同様の手順で行うことができます(ただし、ブログ・グループの作成、設定はシステムメニューからのみ行えます)。

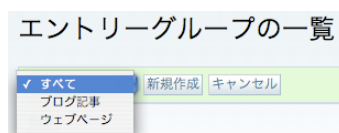
● 新規エントリーグループを作成する



メニュー「PowerCMS」→「エントリー(カテゴリグループ)」を選択

システムメニューから選択した際には全てのブログのエントリーが対象になります。各ブログのメニューから選択にした場合には、そのブログ内のエントリー/ウェブページが対象になります。

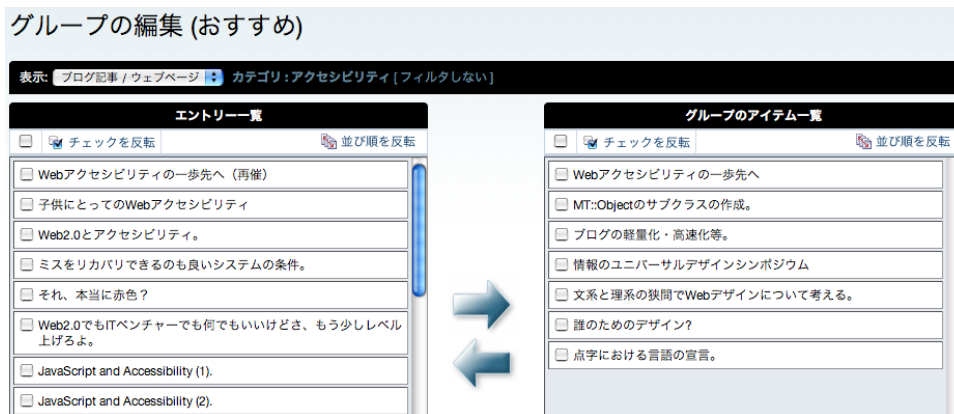
新規グループを作成(+アイコン)をクリックします。プルダウンから「すべて」あるいは「ブログ記事」「ウェブページ」を選択して「新規作成」をクリックします。



●グループへのアイテムの登録

画面左の「エンタリー一覧」から右の「グループのアイテム一覧」グループに登録したい項目をドラッグするか、登録したい項目にチェックを入れて右矢印をクリックします。

ドラッグ&ドロップで項目の並び順を変更できます。



※注意!

画面左側のエンタリー一覧に表示される件数が多い場合、管理画面の動作が遅くなる場合があります。左側の一覧に表示する項目はフィルター等を使ってできるだけ絞り込むことをお勧めします。フィルターを使うと「カテゴリー」や「タグ」によって一覧表示項目を絞り込むことができます。

●グループの設定

グループの設定

グループ名

設定 新しく作られる (条件:)

- ・グループ名は同一のブログ内に重複して付けることは出来ません。
- ・アイテムの追加条件を指定すると新しく作成されたエンタリーを自動的にグループの末尾又は先頭に追加することができます。
- ・グループのアイテムは簡単なテンプレートタグで呼び出すことができます。

例1) ブログIDが「3」のブログのグループ名「おすすめ」の項目をすべて表示するテンプレートの例

```
<div class="widget">
<h3 class="widget-header">「<MTBlogName>」のおすすめ情報</h3>
  <div class="widget-content">
    <MTItemGroupEntries group="おすすめ" blog_id="3">
      <MTItemGroupEntriesHeader><ul class="widget-list"></MTItemGroupEntriesHeader>
        <li class="widget-list-item"><a href="<MTEntryPermalink">"><MTEntryTitle><-
/a></li>
      <MTItemGroupEntriesFooter></ul></MTItemGroupEntriesFooter>
    </MTItemGroupEntries>
  </div>
</div>
```

例2) すべてのブログを対象としたグループ名「おすすめ」の項目の先頭の5件を降順で表示するテンプレートの例

```
<div class="widget">
  <h3 class="widget-header">すべてのブログからおすすめ情報をピックアップ</h3>
  <div class="widget-content">
    <ul class="widget-list">
      <MTItemGroupEntries group="おすすめ" sort_order="descend" lastn="5">
        <li class="widget-list-item"><a href="<MTEntryPermalink">"><MTEntryTitle><-
/a></li>
      </MTItemGroupEntries>
    </ul>
  </div>
</div>
```

🎯 アイテムグループ関連のテンプレートタグ

🌟 ItemSortプラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTItemGroupEntries

name属性で指定したグループのエントリー(ブログ記事/ウェブページ)を順番に出力します。
sort_order属性で降順,昇順(descend|ascend)を、lastn属性で出力するエントリーの数を指定できます。

MTItemGroupEntriesHeader

MTItemGroupEntriesブロックタグのループの最初の実行時に真を返します。

MTItemGroupEntriesFooter

MTItemGroupEntriesブロックタグのループの最後の実行時に真を返します。

MTItemGroupEntryPrevious

現在のエントリーの、グループ内におけるひとつ前(管理画面上ではひとつ上)のエントリーの内容を出力するためのプラグインです。このタグの中では、MT標準のブロックタグMTEntriesの中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTItemGroupEntryNext

現在のエントリーの、グループ内におけるひとつ後(管理画面上ではひとつ下)のエントリーの内容を出力するためのプラグインです。このタグの中では、MT標準のブロックタグMTEntriesの中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

● ファンクションタグ

MTGroupEntryLink

グループ内のエントリーがブログ記事かウェブページ化にかかわらず、エントリーへのURLを出力します。。

その他、MTItemGroupEntriesループの中では、MT標準のブロックタグMTEntriesの中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

※ItemGroupプラグインで利用出来るタグ

●ブロックタグ

MTItemGroupCategories

name属性で指定したグループのカテゴリ(カテゴリ/フォルダ)を順番に出力します。
sort_order属性で降順,昇順(descend|ascend)を、lastn属性で出力するカテゴリの数を指定できます。

MTItemGroupCategoriesHeader

MTItemGroupCategoriesブロックタグのループの最初の実行時に真を返します。

MTItemGroupCategoriesFooter

MTItemGroupCategoriesブロックタグのループの最後の実行時に真を返します。

MTItemGroupCategoryPrevious

現在のカテゴリの、グループ内におけるひとつ前(管理画面上ではひとつ上)のカテゴリの内容を出力するためのプラグインです。このタグの中では、MT標準のブロックタグMTCategoriesの中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTItemGroupCategoryNext

現在のカテゴリの、グループ内におけるひとつ後(管理画面上ではひとつ下)のカテゴリの内容を出力するためのプラグインです。このタグの中では、MT標準のブロックタグMTCategoriesの中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTItemGroupBlogs

name属性で指定したグループのブログを順番に出力します。
sort_order属性で降順,昇順(descend|ascend)を、lastn属性で出力するカテゴリの数を指定できます。

MTItemGroupBlogsHeader

MTItemGroupBlogsブロックタグのループの最初の実行時に真を返します。

MTItemGroupBlogsFooter

MTItemGroupBlogsブロックタグのループの最後の実行時に真を返します。

MTItemGroupBlogPrevious

現在のブログの、グループ内におけるひとつ前(管理画面上ではひとつ上)のブログの内容を出力するためのプラグインです。このタグの中では、MT標準のブロックタグMTCategoriesの中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTItemGroupBlogNext

現在のブログの、グループ内におけるひとつ後(管理画面上ではひとつ下)のブログの内容を出力するためのプラグインです。このタグの中では、MT標準のブロックタグMTCategoriesの中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

● ファンクションタグ

MTItemGroupCategoriesループの中では、MT標準のブロックタグMTCategoriesの中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。MTItemGroupBlogsループの中では、MT標準のブログ関連のファンクションタグやエントリー、カテゴリーに関するブロックタグなどがそのまま使えます。

✿ blog_id属性について

エントリー／カテゴリーグループにおいてblog_idを指定しなかった場合、当該ブログでname属性と一致するグループを検索して処理を行います。一致するグループがなかった場合、ブログ全体でname属性と一致するグループを検索し、グループが存在すればそのグループの項目を出力します(MTItemGroupEntries/MTItemGroupCategoriesブロックタグでは別のブログのIDを指定することも可能です)。

🎯 ダイナミック検索機能

PowerCMS for MT ではMovable Typeのダイナミックパブリッシングを利用して高速に動作する検索機能を備えています。また、この機能を利用することによって、拡張フィールドの内容を検索対象にすることができます。

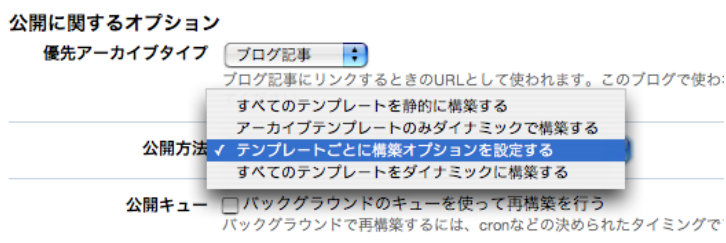
このセクションでは、キーワード検索、タグ検索、検索結果のフィード配信といった検索機能全般について説明します。

🌟検索機能を利用するためにはサーバーにPHPが必要です。

● 検索機能を利用するための準備

検索機能はMovable Typeのダイナミックパブリッシングを利用するため、各ブログの設定でダイナミックパブリッシングを有効にする必要があります。

(1)各ブログからメニュー「設定」→「ブログの設定」を選択します(※ Movable Type 4.2ではこの設定をする必要はありません)。



「すべてのアーカイブを静的に生成する」が選択されていた場合、「テンプレート毎に構築オプションを設定する」に変更してください。「すべてのアーカイブを静的に生成する」以外の設定の場合は変更の必要はありません。

(2)Dynamic Site Bootstrapperテンプレートの作成

検索機能を利用するブログでDynamic Site Bootstrapperという名前のインデックス・テンプレートを作成します。出力ファイル名は mtview.php、「インデックステンプレートを再構築するとき、このテンプレートも再構築する」チェックはオンにしてください (Movable Type 4.2では、公開の設定を「スタティック (既定)」にしてください)。

🌟このテンプレートは、テンプレートセットを利用することによって自動的に生成されます。

Dynamic Site Bootstrapper テンプレートは、Movable Typeが自動的に生成する mtview.php を上書きします。mtview.phpが既に存在する場合、上書きが可能なパーミッションになっている必要があります。

(3)検索結果テンプレート、検索フィードテンプレートの作成

検索機能を利用するブログで「検索結果」と「検索フィード」のためのインデックス・テンプレートを作成します。それぞれ出力ファイル名は search.html, feed.xmlとしてください。この2つのテンプレートについては「このテンプレートをダイナミックページにする」にチェックを入れてください (Movable Type 4.2では、公開の設定を「ダイナミック」にしてください)。

🌟このテンプレートは、テンプレートセットによって自動的にインストールされます。

出力ファイル名を他の名前に変更することも可能です。その場合、Dynamic Site Bootstrapper及びプラグインの設定、を変更する必要がありますので、特にファイル名を指定する理由がない場合はdynamic/search.html, dynamic/feed.xmlとしてください。

●検索クエリー

PowerCMS for MTのダイナミック検索では、指定カテゴリ以下のコンテンツを対象とした検索や、フィールドによる検索結果の表示順指定が可能です。検索クエリーに指定出来るパラメータはsearch.html, feed.xml共に同じです。

パラメータ	解説
blog_id	検索対象とするブログのIDを指定します。blog_idを指定しなかった場合すべてのブログを対象に検索を行います(複数のブログを明示的に指定することはできません)。
include_blogs	検索対象とするブログのIDをカンマ区切りで指定します。allを指定するとすべてのブログを検索対象にします。複数の値をチェックボックス等で指定する場合はname属性に「include_blogs[]」と指定します。
exclude_blogs	検索対象から除外するブログのIDをカンマ区切りで指定します。include_blogs属性と同様の方法で複数指定が可能です。
category	検索対象とするカテゴリのIDを指定します。
categories	複数カテゴリを指定する場合にカテゴリのIDを渡します。categories[]=1&categories[]=2&categories[]=3のように配列で渡すか categories=1,2,3のようにカンマで区切って渡します。
categories_and_or	「and」を渡せば、categoriesパラメータにカテゴリのIDが複数渡されたときにカテゴリのAND検索になります。「or」を渡すか、何も渡さなければOR検索になります。
tag	tag=1とした場合、タグ検索となります。
sort_order	検索結果の表示順を指定します。ascend(昇順)、descend(降順 - デフォルト)が指定できます。
sort_by	検索結果の表示順を何をキーにしてソートするかを指定します。authored_on, created_on(作成日), modified_on(更新日), title(タイトル), text(本文), text_more(追記), excerpt(概要), keywords(キーワード), author_id(投稿者ID)が指定できます。省略した場合、authored_on(作成日)をキーとしてソートします。
offset	検索結果の先頭をn番目にするかを指定します。省略した場合、1件目から表示します。
limit	検索結果をoffsetで指定した件数分表示します。省略した場合、各ブログのプラグイン設定で指定した数値分表示します。
date	日付を指定して絞り込みを行う場合に対象とするフィールドを指定します。authored_on, created_on(作成日), modified_on(更新日)が指定できます。
from	日付を指定して絞り込みを行う場合に、開始日をyyyy-mm-dd形式で指定します。
to	日付を指定して絞り込みを行う場合に、終了日をyyyy-mm-dd形式で指定します。
from_y, from_m, from_d	年月日をそれぞれ指定して日付の絞り込みを行う場合に、開始年,月,日をそれぞれyyyy,mm,dd形式で指定します。
to_y, to_m, to_d	年月日をそれぞれ指定して日付の絞り込みを行う場合に、終了年,月,日をそれぞれyyyy,mm,dd形式で指定します。
class	「ブログ記事」「ウェブページ」を指定して検索を行う場合に「entry」又は「page」を指定します。
fulltext	標準オプションプラグイン「FullTextSearch」がインストールされている時、MySQLの「FULLTEXT(全文)」検索を利用した高速検索が行えます。fulltext=1とした場合有効になります。
and_or	キーワード欄に入力されたキーワードを、AND条件で検索するかOR条件で検索するかを指定します。orを指定すればOR条件に、andまたは特に指定がなければAND条件で検索されます。また、OR条件で検索される場合、キーワードはスペースで区切られて認識されません。

●検索キャッシュ

PowerCMS for MTのダイナミック検索は、高速化とサーバー負荷軽減のためにファイルキャッシュ機能を備えています。検索結果は自動的にキャッシュされ、同一条件での2回目以降の検索を高速にします。

キャッシュを有効にするためには plugins/PowerCMS/cache フォルダがMovable Typeから書き込み可能なパーミッションである必要があります。

※キャッシュをクリアするには？

検索キャッシュはシステムメニューもしくは各ブログのメニューからクリアできます。再構築後やテンプレートを変更した後に適宜メニュー「PowerCMS」から「検索キャッシュの消去」を選択して実行してください。

※キャッシュの有効期限を変更するには？

キャッシュの有効期限は Dynamic Site Bootstrapper の2行目を修正することで変更することができます。

```
$server_cache = 3600; //1時間(単位は秒)
```



●PHPへのメモリ割当について

PowerCMS for MTのダイナミック検索でメモリ不足のエラーが出た場合、メモリ割当の値を見直していただくことをお勧めします。php.iniの memory_limit の項を確認ください。

🔍 検索関連のテンプレートタグ

🌟 AltSearchプラグインで利用出来るタグ

🌟 **MTAltSearchPath**, **MTAltSearchFeedPath**, **MTAltSearchLimit**以外のテンプレート・タグは動的パブリッシング専用です。これら3つの項目はブログ毎のプラグインの設定で指定できます。

🔵 ブロックタグ

MTAltSearchResults

検索結果をループ出力します。MTAltSearchResults内では、MT標準のブロックタグMTEntriesの中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTYears

ブログに登録されている最も古いエントリーの公開日(authored_on)から最も新しいエントリーの公開日を含む年をループで出力します。このタグとファンクションタグ「MTYear」を利用することで、エントリーの日付範囲指定をする時の年指定が可能です。このタグにタグ属性(モディファイア)「select_name」として「from_y」又は「to_y」を指定することで、ブロックタグ「MTIfCurrentYear」が真を返すタイミングが異なります。

MTIfCurrentYear

selectname="from_y"としたループの中では、MTYearの値が最も古いエントリーの公開日の年と一致するときに真を返し、selectname="to_y"としたループの中では、MTYearの値が最も新しいエントリーの公開日の年と一致するときに真を返します。

ブログ内検索

The screenshot shows a search interface. At the top, there is a search input field with a 'すべて' (All) dropdown and a '検索' (Search) button. Below this, a date range selector is displayed: '日付: 2007 年 03 月 01 日 ~ 2008 年 02 月 19 日'. Each part of the date (year, month, day) is in a separate dropdown menu.

日付の範囲指定をする場合の典型的な開始年を指定するドロップダウンメニューを作成するテンプレートタグは以下のようになります。

例:

```
<select name="from_y">
<MTYears select_name="from_y">
  <option value="<MTYear>"
<MTIfCurrentYear>selected="selected"</MTIfCurrentYear><MTYear></option>
</MTYears>
</select>
```

MTAltSearchMetadatas

検索結果に関するヒット件数やページ送りのための情報等をループ出力します。

MTIfAltSearchMetaDatasHeader

MTAltSearchMetadatasループの最初のループ実行時に真を返します。

MTIfAltSearchMetaDatasFooter

MTAltSearchMetadatasループの最後のループ実行時に真を返します。

MTIfAltSearchResultCurrent

ページ送りが有効な場合、ループの回数が現在表示しているページと一致する場合に真を返します。

[前](#) [\[1\]](#) [\[2\]](#) [\[3\]](#) [\[4\]](#) [\[5\]](#) [\[6\]](#) [\[7\]](#) [\[8\]](#) [\[9\]](#) [\[10\]](#) [次](#)

ページ送りの中で現在のページのリンクを外す例

MTAltSearchPageCounter

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。ページ送りの番号を数字で出力します。

MTIfAltSearchResultPrev

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。ページ送りの際に、ひとつ前の検索結果ページが存在する場合に真を返します。

MTIfAltSearchResultNext

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。ページ送りの際に、ひとつ次の検索結果ページが存在する場合に真を返します。

MTIfAltSearchQuery

検索語(query)に何らかの文字列が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchModeIsCategory

カテゴリ(categoryパラメタ)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchModeIsTag

タグ(tagパラメタ)が1(tag=1)の場合に真を返します。

MTIfAltsearchDate

検索条件に日付の範囲が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchSort_by

ソート順(sort_byパラメタ)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchSort_order

ソート順(sort_orderパラメタ)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchParam

URL文字列の中でname属性値のパラメタに指定されている値がvalue属性の値と一致する場合真を返します。

例:

```
<MTIfAltSearchParam name="sort_by" value="modified_on">更新日<-  
/MTIfAltSearchParam>順に検索しました。
```

name属性で指定したパラメタに渡された値をlike、eq、ne、lt、gt、le、ge属性値と比較することができます。

- like属性 (like属性値を正規表現として扱い、それにマッチするときに真を返します)
- eq属性 (eq属性値に一致するときに真を返します)
- ne属性を記述した場合 (ne属性値に一致しないときに真を返します)
- lt属性 (lt属性値よりも小さいときに真を返します)
- gt属性 (gt属性値よりも大きいときに真を返します)
- le属性 (le属性値以下のときに真を返します)
- ge属性 (ge属性値以上のときに真を返します)

例：

```
<MTIfAltSearchParam name="sort_by" eq="modified_on">更新日<-
/MTIfAltSearchParam>順に検索しました。
```

```
<MTIfAltSearchParam name="query" like="/movable ?type|mt/i">
<a href="http://www.movabletype.jp/">Movable Typeのホームページ</a>もご覧ください。
</MTIfAltSearchParam>
```

※正規表現の修飾子としてsとiが使用できます。修飾子を用いない場合、デリミタ"/"は省略できます。

パラメタに複数の値が渡されている場合は、

- ・いずれかの値がlike属性値にマッチするとき
- ・いずれかの値がeq属性値に一致するとき
- ・いずれの値もne属性に一致しないとき
- ・いずれかの値がlt属性値よりも小さいとき
- ・いずれかの値がgt属性値よりも大きいとき
- ・いずれかの値がle属性値以下のとき
- ・いずれかの値がge属性値以上のとき

に真を返します。例えば次のように書いた場合、include_blogsのいずれかの値に「2,3」が含まれていると、中身が実行されます。

```
<MTIfAltSearchParam name="include_blogs" like="(^|,)2,3(,|$)">
...
</MTIfAltSearchParam>
```

MTIfAltSearchMatchQuery

検索語(queryパラメタ)がvalue属性の値と部分一致する場合に真を返します。

例:特定のクエリーに対して特定の内容を入力する例

```
<MTIfAltSearchMatchQuery value="MT">
もしかしてMovable Type?
</MTIfAltSearchMatchQuery>
```

MTIfAltSearchCurrentCategory

カテゴリ(categoryパラメタ)が指定されている場合に、MTCategoriesループ等の中でカテゴリのIDが検索対象のカテゴリIDと一致する時に真を返します。

MTIfAltSearchNoneMatch

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。検索リクエストにマッチするものが何もなかった場合に真を返します。

MTIfAltSearchDate

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchFrom

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、開始日(from)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchTo

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、終了日(to)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchAnd_or

検索条件に And 条件または OR 条件が(and_or)指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchModeIsCategories

categoriesパラメタに値が渡されていたら真を返します。

MTIfAltSearchCurrentCategories

MTCategoriesループ等の中でコンテキストに設定されているカテゴリのIDが、categoriesパラメタに渡されている値の中にあれば真を返します。

MTIfAltSearchCategories_and_or

categories_and_orパラメタに「and」か「or」が渡されていれば真を返します。

● ファンクションタグ**MTAltSearchCurrent**

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。ページ送りの中で現在のページが何ページ目にあたるか(数値)を出力します。

MTAltSearchMatch

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。検索条件にマッチしたエントリーのトータル件数(数値)を出力します。

MTAltSearchMatch

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。検索条件にマッチしたエントリーのトータル件数(数値)を出力します。

MTAltSearchPrev

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。ページ送りの中で「ひとつ前」のページのoffset値(数値)を出力します。

MTAltSearchNext

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。ページ送りの中で「ひとつ次」のページのoffset値(数値)を出力します。

MTAltSearchPages

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。検索結果が(現在のoffset,limit設定の場合)全部で何ページあるかを(数値)を出力します。

MTAltSearchLast

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。現在のページで表示されている最後の項目がトータルでマッチした何件目にあたるかを(数値)を出力します。

MTAltSearchResultNumber

MTAltSearchResultsループの中で利用します。MTAltSearchResultsループの何番目を実行しているかを(数値)を出力します。

MTAltSearchQuery

検索語を出力します。encode_url属性を指定した場合、urlencode関数によってencodeされて出力されます。encode_url属性が指定されていない場合htmlspecialcharsで特定の文字列をエスケープして出力されます。

例:検索結果に関する情報の出力例

```
<p>キーワード「<MTAltSearchQuery>」にマッチする <MTAltSearchMatch> 件のエントリーが見つかりました。</p>
```

```
<p> (うち <MTAltSearchOffset> 件から <MTAltSearchLast> 件を表示しています)</p>
```

```
<p>現在のページ : <MTAltSearchCurrent> / <MTAltSearchPages>ページ</p>
```

MTAltSearchParam

name属性で指定したパラメタに渡された値を出力します。encode_url属性を指定した場合、urlencode関数によってencodeされて出力されます。encode_url属性が指定されていない場合htmlspecialcharsで特定の文字列をエスケープして出力されます。

MTAltSearchResultOffset

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。ページ送りのn番目のページのoffset値(現在のoffset,limit設定の場合)を出力します。

MTAltSearchCategoryLabel

検索条件にカテゴリ(categoryパラメタ)が指定されている場合、検索条件で指定されたカテゴリー名を出力します。

MTAltSearchCategoryId

検索条件にカテゴリ(categoryパラメタ)が指定されている場合検索条件で指定されたカテゴリーIDを出力します。

MTAltSearchBlogId

ブログID(blog_idパラメタ)が指定されている場合に、ブログのIDを出力します。

MTAltSearchSort_by

検索条件にソート条件(フィールド名=sort_byパラメタ)が指定されている場合、検索条件で指定されたソート条件(フィールド名)を出力します。

MTAltSearchSort_order

検索条件にソート条件(昇順|降順=sort_orderパラメタ)が指定されている場合、検索条件で指定されたソート条件(ascend|descend)を出力します。

MTAltSearchPath

検索結果テンプレートの出力ファイル名(デフォルトではdynamic/search.html, 各ブログのAltSearchプラグイン設定で指定できます)を出力します。

MTaltsearchand_or

検索条件にAND/OR条件が and または or で指定されている場合、その内容を出力します。

MTAltSearchCategoryIDs

categoriesパラメタに渡されたカテゴリのIDをカンマで連結して返します。glueモディファイアで連結文字を任意に変えることができます。

MTAltSearchCategories_and_or

categories_and_orパラメタに「and」か「or」が渡されていた場合、その値を返します。

MTAltSearchFeedpath

検索フィードテンプレートの出力ファイル名(デフォルトではdynamic/feed.xml, 各ブログのAltSearchプラグイン設定で指定できます)を出力します。

MTAltSearchLimit

デフォルトの検索結果件数(limit値=各ブログのAltSearchプラグイン設定で指定できます)を出力します。

MTAltSearchOffset

検索条件に検索結果の表示開始件数(offsetパラメタ)が指定されている場合、表示開始件数(offset)を出力します。

MTAltSearchDate

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、対象となるフィールド名(authored_on, created_on 又は modified_on) を出力します。

MTAltSearchFrom

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、開始日を yyyy-mm-dd 形式で出力します。

MTAltSearchTo

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、終了日を yyyy-mm-dd 形式で出力します。

MTAltSearchResultPermalink

検索結果が「ブログ記事」「ウェブページ」であるかどうかに関わらず、ページへのパーマリンクを出力します。

MTYear

MTYearsループの中で各年をYYYY形式で出力します。

●モディファイア**highlight**

検索結果表示文字列中の検索語をハイライト(strongタグでマークアップ)します。

remove_js

scriptタグを消去します。

👤 リスト系アーカイブページの静的ファイル分割

Pagerプラグインを有効にするとインデックス・アーカイブ、ブログ記事リストアーカイブのページを一定の件数で分割することが出来ます。

● テンプレート分割の設定

- ・分割したいアーカイブのテンプレートを編集します。
- ・MTEntriesタグにlimit属性(分割したい単位の数字)及び offset属性を指定します。offset属性は必ず"0"にしてください。
- ・「このアーカイブを分割する」チェックボックスにチェックを入れて、保存します。

再構築オプション このテンプレートをダイナミックページにする

ファイルへのリンク

アーカイブの分割 このアーカイブを分割する

アーカイブマッピング [+ 新しいアーカイブマッピングを作成](#)

例:

```
<MTEntries limit="20" offset="0">
  ...
</MTEntries>
```

● ページ送りナビゲーションの作成

- ・MTPager関連のタグを利用して、ページ送りナビゲーションを生成することが出来ます。

例:

```
<MTPager>
<MTIfPagerHeader>
  Page <MTPagerCurrent> of <MTPagerTotal>
  <MTIfPagerPrev><a href="<MTPagerPrevLink">">Prev</a></MTIfPagerPrev>
</MTIfPagerHeader>
[<a href="<MTPagerLink">"><MTPagerCounter></a>]
<MTIfPagerFooter>
  <MTIfPagerNext><a href="<MTPagerNextLink">">Next</a></MTIfPagerNext>
</MTIfPagerFooter>
</MTPager>

<MTEntries offset="0" limit="20">
  <MTIgnore>Some Template Tags Here.</MTIgnore>
</MTEntries>
```

Page 3 of 10 Prev [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [10] Next

🌟 テンプレートタグ(スタティックパブリッシング専用)

● ブロックタグ

MTPager

ページ送りナビゲーション情報をループ出力するためのブロックタグです。

MTIfPagerHeader

最初のループ実行時に真を返します。

MTIfPagerPrev

現在のページの1つ前のページが存在する場合真を返します。

MTIfPagerNext

現在のページの1つ次のページが存在する場合真を返します。

● ファンクションタグ**MTPagerCounter**

MTPagerループの中でページ番号を出力します。

MTPagerLink

MTPagerループの中で、現在のMTPagerCounterに対応するリンク(URL)を出力します(ファイル名は、本来出力されるファイル名_番号.拡張子となります。例：index_2.html)。

MTPagerPrevLink

現在のページの1つ前のページのURLを出力します。

MTPagerNextLink

現在のページの1つ次のページのURLを出力します。

📁 ブログ、カテゴリ、エントリーへのファイルの添付

ブログやカテゴリの設定画面にファイルを添付することが出来ます。添付ファイルは「アイテム」として登録され、MTAsset関連タグを利用して取り出すことが出来ます。

エントリーでは拡張フィールドが利用できるため、ファイル添付機能はデフォルトではオフになっていますが、プラグインの設定を行うことにより機能を有効にできます。

● ファイルを添付する

ブログの設定→全般、カテゴリの編集、ブログ記事(ウェブページ)の作成(編集)画面からファイルを添付できます。

ファイルを添付するには、「添付ファイル」フィールドのファイル選択ボタン(ブラウザによって名称は異なります)でローカルディスクにあるファイルを選択し、そのまま「保存(変更を保存)」ボタンをクリックしてください。

● ファイル削除する、差し替える、名前や説明、タグを指定する

ファイルがアップロード済みの場合、フィールドにはファイル名(画像の場合はサムネイル)、📁 アイコン、削除、上書きのチェックボックス、ファイル選択ボタン(上書きチェックボックスにチェックを入れた場合のみクリック可能になります)が表示されます。

- ・「削除」にチェックを入れ、「保存(変更を保存)」ボタンをクリックすると、添付ファイルが削除されます
- ・「上書き」にチェックを入れ、ファイルを選択して「保存(変更を保存)」ボタンをクリックすると、既にアップされていたファイルは削除され、指定した画像が新たに保存されます
- ・📁 アイコンをクリックするとアイテム編集画面をモーダルダイアログで開きます。このダイアログ上で画像の名前、説明、タグが編集できます。

●添付ファイル数、ファイル保存場所の設定

各ブログのプラグイン設定→AttachFilesプラグインの設定から、添付ファイルの数、保存場所を指定できます。添付ファイル数を0とした場合、そのオブジェクトに対する添付ファイルは投稿できません。オブジェクトの保存場所の指定には、MTタグを使うことができます。

オブジェクト	添付ファイル数	アップロード・パス
ブログ	2	files/blog/<SMTBlogIDS>
カテゴリ	2	files/category/<SMTCategoryIDS>
ブログ記事	0	files/entry/<SMTEntryIDS>

●添付ファイルに関する情報をテンプレートタグで取得する

各オブジェクトに添付されたファイルは、各オブジェクト用のブロックタグ(例えば MTBlogAttachFiles)を使ってループで取り出すことができます。ブロックタグの中ではループが実行されるごとに「アイテム(Asset)」オブジェクトを返しますので、MTAsset関連のタグを使って各種情報を取得できます。

- ✳️ エントリーにファイルを添付する場合、「確認」ボタンをクリックしてプレビューを表示した際にはファイルはアップロードされません。プレビュー時に画像をアップロードし、リアルタイムにプレビューに反映させたい場合、拡張フィールドの「添付ファイル」フィールドを利用してください。

添付ファイル関連のテンプレートタグ

AttachFilesプラグインで利用出来るタグ

ブロックタグ

MTBlogAttachFiles

ブログに添付されたファイル(アイテム)をAssetオブジェクトとしてループ出力します。このブロックタグの中ではMTAsset関連のタグが利用できます。

MTIfBlogAttachFile

ブログに添付されたファイルが1つ以上ある場合に真を返します。

MTCategoryAttachFiles

カテゴリーに添付されたファイル(アイテム)をAssetオブジェクトとしてループ出力します。このブロックタグの中ではMTAsset関連のタグが利用できます。

MTIfCategoryAttachFile

カテゴリーに添付されたファイルが1つ以上ある場合に真を返します。

MTEnterAttachFiles

エントリーに添付されたファイル(アイテム)をAssetオブジェクトとしてループ出力します。このブロックタグの中ではMTAsset関連のタグが利用できます。

MTIfEntryAttachFile

エントリーに添付されたファイルが1つ以上ある場合に真を返します。

ファンクションタグ

MTEnterAttachFile

エントリーのアイテムのURLを出力します。

MTAttachFileCounter

添付ファイルをループ出力するブロックタグの中でループの何番目が実行されているかを数字で出力します。

モディファイア

asset_id

アイテムのID(AssetID)を出力します。

path2url

保存されている添付ファイルの情報(%r/path/to/file)をURLに変換します。プラグインが内部で利用しているもので、通常は利用する必要はありません。

HTML.ImageElement

アイテムが画像の場合、IMGタグとして出力します。画像のALT属性値にはアイテムの「名前」が入ります。

basename

URLのファイル名部分を返します。

● エントリーの投稿画面のフィールドラベルのカスタマイズ

ブログのエントリーが特定の用途に使われる時(例えばプレスリリース、製品カタログ等)、エントリーの投稿画面のフィールドラベルを変更することで管理画面のユーザビリティを向上させることができます。

● フィールドラベルの設定

フィールドラベルの設定はブログ毎に行えます。

「プラグイン設定」→「EntryLabelプラグイン」の設定でラベルを設定します。項目が空の場合はオリジナルのラベルが表示されます。

EntryLabel 1.0.0
詳細 設定

タイトル プレスリリースのタイトル

本文 リリース本文

続き 問い合わせ先

概要

キーワード

タグ

出力ファイル名 出力ディレクトリ名

コメント

トラックバック

カテゴリ 製品種別

変更を保存

変更を保存すると、エントリー投稿画面のフィールドラベルが設定した値に変更されます。

新しいブログ記事を作成 表示オプション

プレスリリースのタイトル

リリース本文 問い合わせ先 フォーマット: リッチテキスト

公開

公開状態 公開

公開日 2008-02-21 15:58:13

公開を取りやめる 2008-02-21 15:58:14

出力ディレクトリ名

製品種別 閉じる

新規追加

🍌 アクセス解析

Movable Typeによって管理される各ページへのアクセス状況のレポートを作成する機能です。アクセスの多いエントリー等をテンプレートタグによって出力することも可能です。



🍌 アクセス解析用のテンプレート

アクセス解析機能を利用するには、以下の4つのインデックステンプレートが必要です。これらのテンプレートはテンプレートインストーラーによって自動的に生成されます。

テンプレート	静的/ ダイナミック	出力ファイル名	解説
アクセスログ記録	ダイナミック	dynamic/tracking.html	アクセスログ保存JavaScriptによって送信されたパラメタ付きのリクエストを分解してログファイルを保存します。
検索ログ記録	ダイナミック	dynamic/search_tracking.html	検索ログ保存JavaScriptによって送信されたパラメタ付きのリクエストを分解してログファイルを保存します。
アクセスログ保存 JavaScript	スタティック	tracking.js	アクセスログ保存に必要なパラメタを組み立てて「アクセスログ記録」ページへリクエストを送ります。
検索ログ保存 JavaScript	スタティック	search_tracking.js	検索ログに必要なパラメタを組み立てて「検索ログ記録」ページへリクエストを送ります。

🌸検索ログは plugins/PowerCMS/log/以下に保存されます

🍌 アクセスログのインポートとレポートの構築

アクセス解析を行うためには、保存されたログファイルをデータベースにインポートする必要があります。ログのインポートは run-periodic-tasks の実行時に自動的に行われますが、管理画面から行うこともできます。

メニュー「PowerCMS」→「アクセスログの取込み」を選択すると、ログをデータベースにインポートしてアクセスレポートを再構築します(ここで言う再構築は物理的なレポートファイルの生成ではなく、データベース上の各種データの更新を指します。)



🕒 アクセスレポートの参照

メニュー「PowerCMS」→「アクセスログを表示」を選択するとアクセスログのレポートが参照できます。
システムメニューから選択した場合は、すべてのブログの合計をベースとしたレポートを、各ブログのメニューから選択した場合は、該当するブログのみのレポートが参照できます。

MT - URLレポート (全期間 : 順位 1 - 10)

トータル: 73 (ブログ記事: 12, ウェブページ: 0, カテゴリ: 0, 日別: 0, インデックス: 59, Other: 15) / ユーザー: 1				
日付	全期間 年別 選択... 月別 選択...			
URL	全期間 最新の7日間 最新24時間 最新の 選択... 日分 年別 選択... 月別 選択... 日別 選択...			
検索	全期間 最新の7日間 最新24時間 最新の 選択... 日分 年別 選択... 月別 選択... 日別 選択...			
フレーズ	全期間 最新の7日間 最新24時間 最新の 選択... 日分 年別 選択... 月別 選択... 日別 選択...			
タグ	全期間 最新の7日間 最新24時間 最新の 選択... 日分 年別 選択... 月別 選択... 日別 選択...			
順位	タイトル	種類	アクセス	最終アクセス時刻
1	検索 :	index	37 (50.6%)	2008年1月10日 16:59
2	MTOS	index	13 (17.8%)	2008年1月10日 17:39
3	ページが見つかりません。	other	6 (8.2%)	2008年1月 6日 13:06
4	アーカイブ	index	5 (6.8%)	2008年1月10日 17:39
5	MTSetVar(Block)/MTIfタグの具体的な利用例。	entry	4 (5.4%)	2008年1月10日 17:39
6	サブカテゴリのエントリー投稿時に親カテゴリアーカイブを再構築する。	entry	3 (4.1%)	2008年1月10日 16:55
7	MT3→MT4へタグやbasenameを引き継いで(インポート&エクスポートで)簡単に移行する方法。	entry	2 (2.7%)	2008年1月10日 16:54
8	RebuildAt1stView(PHP版)。	entry	1 (1.3%)	2008年1月10日 16:53

レポートの名称	日付範囲	解説
日付レポート	年別、月別	ページビューの合計を日付順にグラフ表示します
URLレポート	全期間、最近の1~10日、年別、月別、日別	URL毎のページビューをアクセスの多い順に表示します。
検索レポート	全期間、最近の1~10日、年別、月別、日別	サイト内検索で使われた検索キーワードを回数の多い順に表示します。
フレーズレポート	全期間、最近の1~10日、年別、月別、日別	複数の単語からなる検索リクエストについてのレポートです。
タグレポート	全期間、最近の1~10日、年別、月別、日別	タグ検索の回数(タグクラウドをクリックした回数)を降順表示します。

🕒 アクセス解析関連のテンプレートタグ

🌟 LogViewerプラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTHotTags

タグレポートの上位のn件(lastnモディファイアで指定)を降順に出力します(sort_orderモディファイアの指定も可能です)。

対象期間をperiod モディファイアで指定できます。last1day, last7days または任意の数字が指定できます。

例:

```
<ul>
<MTHotTags period="last7days" class="entry">
<li><a href="<$MAltSearchPath$>?query=<$MHotTag$>&offset=1&limit=20&blog_id=<
$MTBlogID$>&tag=1"><$MHotTag$> (<$MHotTagCount$>)</a></li>
</MTHotTags>
</ul>
```

MTHotEntries

アクセスレポートの上位のn件(lastnモディファイアで指定)を降順に出力します(sort_orderモディファイアの指定も可能です)。

対象期間をperiod モディファイアで指定できます。last1day, last7days または任意の数字が指定できます。また、classモディファイアで entry(ブログ記事) 又は page(ウェブページ) を指定できます。

このブロックタグの内部では、MTEntriesブロックタグと同様のファンクションタグが使用できます。

例:

```
<ul>
<MTHotEntries period="last7days" class="entry">
<li><a href="<$MEntryPermalink$>"><$MEntryTitle$> (<$MHotEntryCount$>)</a></li>
</MTHotEntries>
</ul>
```

● ファンクションタグ

MTHotEntryCount

ブロックMTHotEntriesの中で使います。ページの表示回数を数字で出力します。

MTHotTag

ブロックMTHotTagsの中で使います。タグの名前を出力します。

MTHotTagCount

ブロックMTHotTagsの中で使います。MTHotTagsで指定された期間内に何回検索されたかを数字で出力します。

MTTrackingTag

アクセスログを記録するためのJavascriptコードを出力します。このタグは、body タグを閉じる直前に記述しておくのがよいでしょう。また、このタグが呼ばれる前に、そのページのタイトルを以下のように変数page_titleに入れておく必要があります。これは、各テンプレートの冒頭で行うようにしておくといでしょう。

例:

```
<MTSetVarBlock name="page_title"><$MTEnterTitle$>: <$MTBlogName$></MTSetVarBlock>
```

MTTrackBasename

アクセスログ記録テンプレートの出力ファイル名を出力します。このタグによって出力される値はテンプレートの設定値ではなく、ブログ毎のプラグイン設定で指定された値であることに注意してください(デフォルト値はdynamic/tracking.htmlです)。

MTSearchTrackBasename

検索ログ記録テンプレートの出力ファイル名を出力します。このタグによって出力される値はテンプレートの設定値ではなく、ブログ毎のプラグイン設定で指定された値であることに注意してください(デフォルト値はdynamic/search_tracking.htmlです)。

MTTrackScript

アクセスログ保存JavaScriptテンプレートの出力ファイル名を出力します。このタグによって出力される値はテンプレートの設定値ではなく、ブログ毎のプラグイン設定で指定された値であることに注意してください(デフォルト値はtracking.jsです)。

MTSearchTrackScript

検索ログ保存JavaScriptテンプレートの出力ファイル名を出力します。このタグによって出力される値はテンプレートの設定値ではなく、ブログ毎のプラグイン設定で指定された値であることに注意してください(デフォルト値はsearch_tracking.jsです)。

LogViewerプラグインの設定

アクセスログ解析用のLogViewerプラグインのシステム全体の設定では、解析対象から除外したいIPアドレスの指定とログデータのクリア(データベースからのクリア)を行うことができます。

除外したいIPアドレスは改行を区切り文字として入力します。

また、イントラネット用途等で、拠点のIPアドレス毎のレポートを作成することも出来ます。IPアドレスを拠点名をスペースまたはタブ文字等で区切り、1行1拠点の形式で入力してください。IPアドレスは前方一致です。

この画面からLogViewer関連のデータベースをクリアした場合、アクセスログ関連のデータは完全に削除され、元に戻すことはできません。



集計対象IPアドレス:	192.168.1.	大阪本社
	192.168.2.	東京本社
	192.168.3.	福岡支社

各ブログのプラグイン設定画面からは以下の設定が行えます。デフォルトの状態(テンプレートセット適用後の状態)で運用する限りにおいては設定を変更する必要はありません。

設定項目名	デフォルト値	解説
ディレクトリへのアクセスに対する優先ファイル名	index.html	各テンプレートの出力ファイル名
アクセスログ記録テンプレートの出力ファイル名	dynamic/tracking.html	
アクセスログ保存 JavaScriptテンプレートの出力ファイル名	dynamic/search_tracking.html	
検索ログ記録テンプレートの出力ファイル名	tracking.js	
検索ログ保存 JavaScriptテンプレートの出力ファイル名	search_tracking.js	

●LogViewerプラグインのアップデートに伴う変更について

データベース上のテーブル名、カラム名が変更になりました。既に LogViewer プラグインを使われている場合は、新しいテーブルへ集計データのコピーを行う必要があります(それまでの集計データが不要の場合は、以下の操作は必要ありません)。対象バージョンについてはサポートにお問合せください。

●テーブルのコピーを行うプラグインの設置とタスクの実行

PowerCMS には、テーブルに既に格納されている、これまでの集計結果をコピーするための LogViewerConverter プラグインが同梱されています。OptionPlugins/LogViewerConverter フォルダを、そのまま [Movable Type をインストールしたディレクトリ]/plugins 内にコピーし、コマンドラインから run-periodic-tasks を実行するか、フィードを読み込ませるなどの方法を使い、MT のタスクを一回実行してください。正常にコピーが完了されたら、システムメニューのログに「LogViewer のデータの移行が完了しました」というログが残ります。

- ※タスクを実行する前に、新しい LogViewer プラグインをインストールした状態で管理画面にアクセスし、プラグインのアップグレードを行っておいてください。
- ※タスク実行後は LogViewerConverter プラグインは必要なくなります。LogViewerConverter プラグインは、新しいテーブルが空の場合にしかコピー処理を行いませんが、念のため削除してください。

指定日非公開機能

PowerCMS for MT では Movable Type のブログ記事に非公開日時を指定できる指定日非公開機能があります。指定日非公開機能では、Cronによるジョブの実行による非公開化の他、管理画面から指定日公開のエントリーを非公開にする機能もあります(再構築も同時に実行されます)。また、テンプレートタグによって、非公開日時を過ぎているかどうかによる処理の分岐も可能です。

●非公開日時を指定する

PowerCMS for MT がインストールされている環境ではエントリー編集画面の「公開」ブロックに「公開を取りやめる」フィールドが追加されます。指定日非公開を実行するには、「公開を取りやめる」チェックボックスにチェックを入れ、非公開日時を指定します(カレンダーから日を指定することもできます)。

●非公開日が指定されたエントリーの非公開処理

/path/to/mt/tools/run-periodic-tasks を Cron ジョブに登録して定期実行することで、非公開日の指定されたエントリーを非公開にします(必要なアーカイブの再構築も同時に行います)。

また、管理画面から非公開処理を行うこともできます。管理画面から指定日非公開を実行するには、メニュー「PowerCMS」から「指定日非公開を実行」を選択して実行します。

指定日非公開を実行

✔ エントリーを下書きにして再構築を実行しました。

非公開にしたエントリー

指定日非公開エントリー(1)

指定日非公開エントリー(2)

● テンプレートタグによる非公開日前後での分岐処理

「公開を取りやめる」チェックボックスにチェックを入れずに非公開日を指定すると、テンプレートタグによって表示内容を切り替えることができます。

例えば「本文」欄にイベントの告知を入力し「追記」欄にイベント終了後の表示内容を入力、非公開日にイベント終了日を指定して、終了日以後は表示内容を切り替えるなどの処理が可能になります。

イベント終了日にあわせて表示内容を切り替えるテンプレートタグの例

```
<MTIfEntryUnpublished>
  <h2>このイベントは終了しました。</h2>
  <MTEnterMore>
<MTElse>
  <!--イベントの告知内容等-->
  <MTEnterBody>
</MTElse>
</MTIfEntryUnpublished>
```

※EntryUnpublishプラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTIfEntryUnpublished

テンプレートタグが呼び出された時点の時刻と非公開指定日を比較して、非公開指定日を過ぎている場合に真を返します。

● ファンクションタグ

MTEntryUnpublishedOn

非公開指定日を日付フォーマットで出力します。formatモディファイアで日付表示のフォーマットも可能です。

📌 ワークフロー機能

PowerCMS for MT は Movable Type のブログ記事に公開状態(ステータス)「公開前(承認依頼中)」を追加します。この機能を使うと Movable Type に承認フローを組み込むことができます。

ステータスが「公開前(承認依頼中)」のエントリーは★アイコンで識別できます。

★ 公開前(承認依頼中)

● 「編集者」と「ブログ管理者」の間でのエントリー公開の承認フロー

(1) プラグインの設定で「「ブログ記事の公開」権限の無いユーザーを下位ユーザーにする」

設定はブログ毎のプラグイン設定で行います。ここでは、「ブログ記事の公開」権限の無いユーザーを下位ユーザーにする」にチェックが入っていることを確認します。

(2) 「編集者」ロールを修正する

このケースでは、「編集者」を下位ユーザーとするため、ロールの設定で「編集者」の権限のうち、「ブログ記事の公開」と「ブログの再構築」の2つの権限のチェックを外します。

作成と公開 ブログ記事の作成 ブログ記事の公開 通知の送信
 すべてのブログ記事の編集 ウェブページの管理 ブログの再構築

(3) ユーザーを作成する

ユーザーを作成し、ロール「編集者」を割り当てます。

(4) ブログの新規投稿時の公開状態を「下書き」に設定する

「ブログの設定」→「ブログ記事」で「新しく作成するブログ記事の初期値」を「下書き」にします。

(5) アドレス帳に通知先アドレスを登録する

ブログのメニュー「一覧」→「アドレス帳」で、承認依頼を送信する先(ブログ管理者)のメールアドレスを登録します。

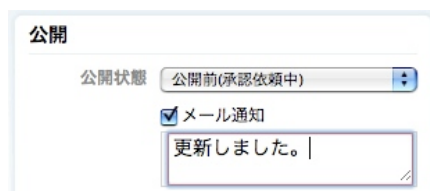


(4) 編集者権限でのブログ記事の作成

権限「編集者」で作成したユーザーでログインし、ブログ記事を作成します。

(5) 公開状態「公開前(承認依頼中)」を選択して編集者へのメッセージを送信

公開状態「公開前(承認依頼中)」を選択します。「メール通知」チェックボックスをクリックしてテキストエリアに通知メールに含めるメッセージを入力します。エントリーを保存すると、アドレス帳に登録された通知先アドレスへメールが送信されます(通知先にメールが送信されていることを確認してください)。



✳️ エントリーを公開状態「公開前(承認依頼中)」で保存すると、一時的に記事の投稿者(author)が変更され(ブログの上位のユーザーに変更されます)、一時的に下位のユーザーは記事の編集が出来なくなります。

プラグイン設定で、「承認依頼メールの送信先を選択可能にする」にチェックを入れると、通知先ユーザーを選択できるようになります。



(6) ブログ管理者権限で記事を確認する

上位ユーザー「ブログ管理者」でログインし、該当記エントリーのプレビュー画面に移動します(メールのURLクリックで移動できます)。画面上部のボタンで「差し戻し」「編集」「公開」が可能です。



(7)記事を差し戻す

画面上部の「ブログ記事(ウェブページ)を差し戻す」ボタンをクリックするとダイアログが表示されます。

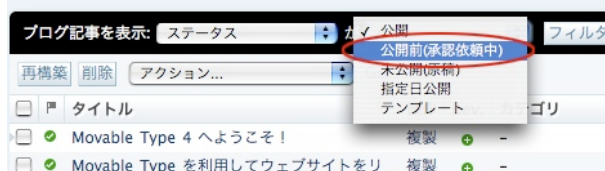
エントリーの作成者へのメッセージを入力して「送信」ボタンをクリックするとメール通知とともに差し戻されます。



また、エントリーの編集画面に移動して差し戻すことも出来ます。エントリー編集画面で公開状態を「下書き」にして「メール通知」チェックボックスをクリックします。テキストエリアに通知メールに含めるメッセージを入力し、エントリーを保存します(「編集者」にメールが届き、「編集者」による編集が可能になります。)

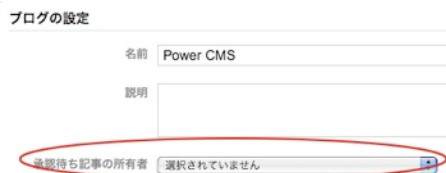
●一覧表示でのステータス「公開前(承認依頼中)」のエントリーの表示と絞り込み

エントリー一覧ページでは「エントリーテンプレート」として保存されているエントリーは★アイコンが付いて表示されます。★アイコンをクリックするか、フィルタ「公開前(承認依頼中)」を指定することで「エントリーテンプレート」のみを一覧表示できます。



●「公開前(承認依頼中)」エントリーの所有者の設定

下位のユーザーがステータスを「公開前(承認依頼中)」にした場合、一時的に記事の所有者が変更されますが、どのユーザーをエントリーの所有者にするかどうかについてはブログの公開設定で設定できます(但し、承認メールの送信先を指定した場合は、指定した送信先ユーザーが所有者となります)。





●管理画面のロック

例えばMovable Typeをステージングサーバーにおいて静的ファイルを生成するためのCMSとして利用している場合、ファイルを公開サーバーへ転送する際に他のユーザーによる編集や再構築が行われていると、思わぬリンク切れ等が発生する可能性があります。

こうした場合、管理画面を一時的にシステム管理者(スーパーユーザー)以外に対してロックすることで操作を行えなくし、その間に公開作業を行うと良いでしょう。

●管理画面のロックとロックの解除

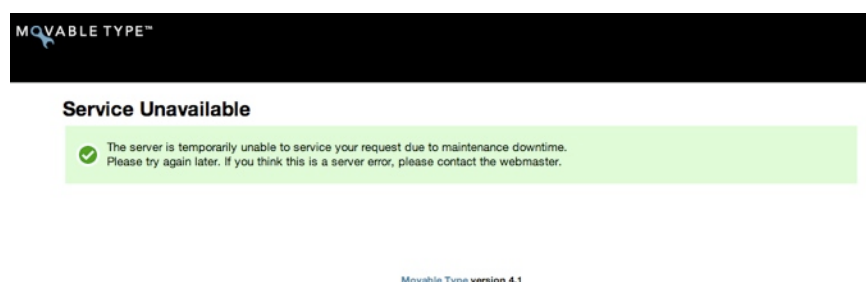
管理画面のグローバルメニュー横に表示されるロック状態のアイコン()又はロック解除状態のアイコン()をクリックすることでロック及びロックの解除ができます。

IDとパスワードを求められます。IDとパスワードを入力してサインインすると、管理画面がロック(ロック解除)されます。



※この操作は「システム管理者(スーパーユーザー)」だけが実行できます。

管理画面がロックされている間、システム管理者以外のユーザーが操作を行おうとすると、以下の画面が表示されます。



●管理画面のロック状態の確認

ヘッダ部に表示される「鍵」アイコンで、ロック状態であるかどうかを確認できます。



👤 エクスポート/インポート機能

PowerCMSのエクスポート/インポート機能を利用することで、カスタムフィールドを含んだエントリーのエクスポート/インポートやCSV/TSV(Tab Separated Value)からのエントリー/カテゴリーのインポートが可能になります。

また、PowerCMSによって拡張されたエントリーの情報もエクスポート/インポートが可能です。

この機能を利用すればサイト作成時の大量の初期データの作成や、テストデータの作成等の大幅な省力化が可能になります。

● PowerCMS形式のエクスポート/インポート

エントリーのカスタムフィールド、PowerCMSによって拡張された拡張フィールドやテンプレートセレクトに関する情報を引き継いでエクスポート/インポートが可能です。

(1) エクスポート

各ブログの「エクスポート」画面から、「PowerCMS形式でエクスポート」をクリックします。
エクスポートデータがダウンロードされます。

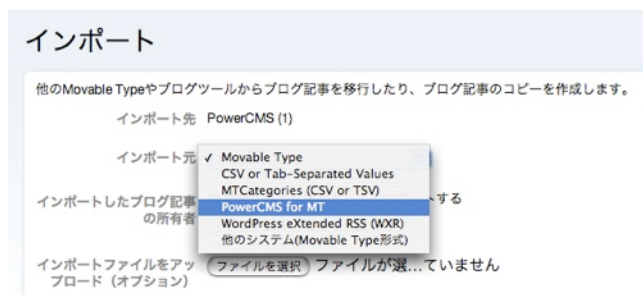


(2) インポート

各ブログの「インポート」画面で「インポート元」に「PowerCMS for MT」を選択します。

ファイルを選択して「ブログ記事をインポート」をクリックします。

ファイルをアップロードする以外に、mtディレクトリ直下のimportディレクトリにインポートデータを置いて構いません。



● CSV/TSV(Tab Separated Value)形式のファイルからのインポート

Microsoft Excel等のスプレッドシート・アプリケーションで作成したデータからCSV又はTSV(Tab区切りテキスト)ファイルを作成して、そのデータを元にエントリーを生成することができます。

🌟 CSVの処理にはサーバーにPerlモジュール `Text::CSV_XS` もしくは `Text::CSV` が必要です。tsv(タブ区切りテキスト)の場合には特別なモジュールは必要ありません。

(1) インポートデータの作成

インポートデータでは、1行目にエントリーのフィールド名等、インポートしたデータの各セルをどこに保存するかについての情報を指定します。指定に関するルールは以下の通りです。

項目の種類	指定(例)	解説
エントリーのフィールド値	entry_title	entry_フィールド名として指定します。 entry_idを指定すると、そのidのエントリーが存在した場合、そのエントリーデータを上書きします。 また、entry_blog_idを指定することで、複数ブログのデータを一括インポートすることが可能です。 entry_class に「page」を指定すると、ウェブページとして保存されます。
エントリーのカスタムフィールド値	customfield_basename	customfield_ベースネーム として指定します。
エントリーのカスタムフィールド(アイテム)値	customfield_asset_basename	customfield_asset_ベースネーム として指定します。 ここに登録する値は、サイトのルートパスを「%r」に置換したパスです。 例: %r/path/to/file/sample.jpg サーバーに該当するファイルがアップロードされていれば、アイテムへの登録は自動的に行います。ファイルが存在しない場合はこのフィールドはインポートされません。
PowerCMS の拡張フィールド値	extfields_text_製品番号	PowerCMS の拡張フィールドとして追加されたフィールドの値を extfields_フィールド種_ラベル名 形式で指定します。フィールド種が複数の選択肢を持つ場合 (radio,select,cbgroup)はカンマで区切り、かつ選択されている値の前に「*」を付けます(チェックボックスの場合も同様)。また、フィールド種が file の場合、カスタムフィールドの「アイテム」と同様にサイトパスを「%r」に置換した値を入力します。
プライマリカテゴリ情報	primary_category	エントリーの主カテゴリ(プライマリカテゴリ)を指定します。 カテゴリが存在しなければインポート時に自動的に作成します。カテゴリの階層指定も可能です*。
カテゴリ情報	category	エントリーのカテゴリを指定します。この項目は複数指定可能です。カテゴリが存在しなければインポート時に自動的に作成します。 カテゴリの階層指定も可能です*。
タグ	tag	エントリーのタグを指定します。1フィールドに指定できるタグは1つですが、この項目は複数指定することが可能です。
エントリーテンプレート	tmpl_selector	エントリーテンプレート (「拡張フィールドとテンプレートセクタ」参照) を指定します。指定するエントリーテンプレートはあらかじめ作成されていなければなりません。

◇	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	entry_title	entry_authored_on	primary_category	category	entry_excerpt	entry_text	entry_text_more	entry_keywords	tag	tag
2	憲法	20080203120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/憲法	歴史的に見ると、現在の日本は、	憲法・法令通則			
3	日本国憲法	20080202120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/日本国憲法	日本国憲法は、	憲法・法令通則			
4	元号法	20080126120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/元号法	元号に関する明	憲法・法令通則			
5	国民の祝日に関	20080125120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/国民の祝日に関する法律	国民の祝日に関する法律	憲法・法令通則			
6	法の適用に關す	20080124120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/法の適用に関する法律	法の適用に関する法律	憲法・法令通則			
7	法例	20080123120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/法例	法例	憲法・法令通則			
8	請願法	20080106120448	行政法 行政権	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/請願法	請願法	行政法			行政権
9	地方公務員法	20071226120448	行政法 地方自治	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/地方公務員法	地方公務員法	行政法			地方自治
10	地方独立行政法	20071225120448	行政法 地方自治	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/地方独立行政法	地方独立行政法	行政法			地方自治
11	住民基本台帳法	20071224120448	行政法 地方自治	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/住民基本台帳法	住民基本台帳法	行政法			地方自治
12	地方公営企業法	20071223120448	行政法 地方自治	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/地方公営企業法	地方公営企業法	行政法			地方自治
13	地方税法	20071222120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/地方税法	地方税法	行政法			行政手続
14	行政手続法	20071221120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/行政手続法	行政手続法	行政法の統制に			行政手続
15	行政代執行法	20071220120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/行政代執行法	行政代執行法	代執行ができる			行政手続
16	行政不服審査法	20071219120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/行政不服審査法	行政不服	上記の通り行政			行政手続
17	行政事件訴訟法	20071218120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/行政事件訴訟法	行政事件訴訟法	行政法			行政手続
18	国の利害に關係	20071217120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/国の利害に關係する法律	国の利害に關係する法律	また、近年の改			行政手続
19	国家賠償法	20071216120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/国家賠償法	国家賠償法	行政法			行政手続

※カテゴリの階層を指定するには？

primary_categoryまたはcategoryフィールドに入力するカテゴリ名を最上位の階層から「_」（アンダーバー）でつないで入力します。例えば、「東京都」カテゴリのサブカテゴリ「港区」に属するエントリーの場合、「東京都_港区」と入力してください。

(2)データのインポート

作成したデータの拡張子をCSVの場合は「.csv」TSVの場合は「.tsv」とします。

各ブログの「インポート」画面で「インポート元」に「CSV or TSV(Tab Separated Value)」を選択します。

ファイルを選択して「ブログ記事をインポート」をクリックします。

ファイルをアップロードする以外に、mtディレクトリ直下のimportディレクトリにインポートデータを置いて構いません。

※インポートしたブログ記事の投稿者(Author)情報について

基本的にはインポート作業を行ったユーザーの投稿したエントリーになりますが、投稿者に関する情報がファイルに指定されている場合(entry_author_id)はファイル中の値が優先されます。

● カテゴリー情報のインポート

Microsoft Excel等のスプレッドシート・アプリケーションで作成したデータからCSV又はTSV(Tab区切りテキスト)ファイルを作成して、そのデータを元にカテゴリーを生成することができます。この機能を利用することによって、階層を持ったカテゴリーの作成やbasename (出力ファイル/フォルダ名)を指定したカテゴリーの作成が可能になります。

※CSVの処理にはサーバーにPerlモジュール Text::CSV_XS もしくは Text::CSV が必要です。tsv(タブ区切りテキスト)の場合には特別なモジュールは必要ありません。

※カテゴリーのインポートデータの1番目のセルは必ず「category_label」である必要があります。

(1) インポートデータの作成

インポートデータでは、1行目にカテゴリーのフィールド名等、インポートしたデータの各セルをどこに保存するかについての情報を指定します。指定に関するルールは以下の通りです。

項目の種類	指定(例)	解説
カテゴリーのフィールド値	category_label * category_labelは必須	category_フィールド名として指定します。 category_idを指定すると、そのidのエントリーが存在した場合、そのエントリーデータを上書きします。 また、category_blog_idを指定することで、複数ブログのデータを一括インポートすることが可能です。 category_class に「folder」を指定すると、フォルダとして保存されます。カテゴリーの階層指定も可能です*。
エントリーのカスタムフィールド値	customfield_basename	customfield_ベースネーム として指定します。

※カテゴリーの階層を指定するには?

category_labelフィールドに入力するカテゴリー名を最上位の階層から「_」(アンダーバー)でつないで入力します。
例えば、「東京都」カテゴリーのサブカテゴリ「港区」に属するエントリーの場合、
「東京都_港区」と入力してください。

(2) データのインポート

作成したデータの拡張子をCSVの場合は「.csv」TSVの場合は「.tsv」とします。

各ブログの「インポート」画面で「インポート元」に「MTCategories (CSV or TSV)」を選択します。

ファイルを選択して「ブログ記事をインポート」をクリックします。

ファイルをアップロードする以外に、mtディレクトリ直下のimportディレクトリにインポートデータを置いて構いません。

インポート

他のMovable Typeやブログツールからブログ記事を移行したり、ブログ記事のコピーを作成します。

インポート先 タスク管理 (2)

インポート元 MTCategories (CSV or TSV)

オプション 所有者とブログIDについてはファイル中の値が優先されます。

インポートしたブログ記事の所有者 自分のブログ記事としてインポートする
 ブログ記事の著者を変更しない

インポートファイルをアップロード (オプション) ファイルを選択 ファイルが選...ていません

▶ その他のオプション

ブログ記事のインポート

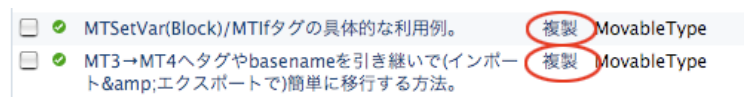
※所有者とブログIDについてはファイル中の値が優先されます。

👤 エントリー(ブログ記事/ウェブページ)の複製

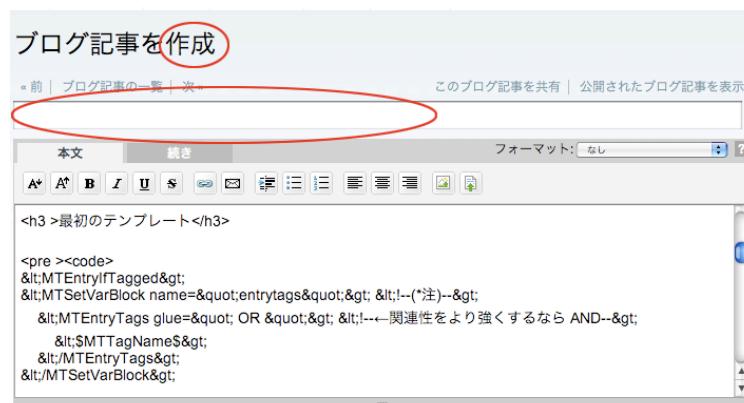
● 既存のエントリーを複製して効率よく新しいエントリーを作成する

Power CMS for MT では、既存のエントリーを複製して新たなエントリーを作成できます。既存エントリーの一部を修正して新たなエントリーを作成するのに便利です。

既存のエントリーを複製するには、エントリー一覧画面のリストで複製元エントリーのタイトルの右にある「複製」ボタンをクリックするか、複製元エントリーの編集画面の「複製」ボタンをクリックしてください。



Alfasado's CMSへクイックポスト - このリンクにいつでもブログを書くことができます。



複製後のエントリー編集画面では、エントリーのタイトルは空になります(見出しはブログ記事の「作成」となっていることに注意してください。この段階でエントリーはまだ保存されていません) 新しいエントリーのタイトルを入力し、内容を編集して「保存」をクリックしてください。

👤 ブログ記事と複数のウェブページを関連づける

EntryChildrenPages プラグインを使用することで、ブログ記事を親、ウェブページを子として関連付けを行うことができます。この機能を使って、複数のページに分割された長い記事を作成することができます。テンプレートタグによって、グループ化されたページ間のリンクを自動的に生成させることも出来ます。

● ブログ記事に関連したウェブページを作成する

ブログ記事の編集画面の右側(カテゴリ選択の下)に表示されている「関連ウェブページ」の右側の「新規作成」をクリックしてウェブページを作成します。



ブログ記事編集画面の関連するウェブページの表示

● グループ化されたブログ記事、ウェブページ間のページ送りを作成する

例) ブログ記事とウェブページテンプレートのページ送りナビゲーション記述例

```
<MTSetVarBlock name="perma"><$MTEnterPermalink$></MTSetVarBlock>
<MTEnterChildrenPages>
  <MTSetVarBlock name="link"><$MTEnterPermalink$></MTSetVarBlock>
  <MTIfEntryChildrenHeader>
    <ul class="pages">
      <MTEnterChildrenPrev>
        <li class="prev"><a href="<$MTEnterPermalink$>" title="前のペー
        ジ">&laquo;</a></li>
      </MTEnterChildrenPrev>
      <MTIf name="link" eq="$perma">
        <li class="prev"><span>&laquo;</span></li>
      </MTIf>
    </MTIfEntryChildrenHeader>

    <MTIf name="link" eq="$perma">
      <li class="current"><span><$MTEnterChildrenCounter$></span></li>
    <MTElse>
      <li><a href="<$MTEnterPermalink$>"><$MTEnterChildrenCounter$></a></li>
    </MTElse>
  </MTIf>

  <MTIfEntryChildrenFooter>
    <MTEnterChildrenNext>
      <li class="next"><a href="<$MTEnterPermalink$>" title="次のペー
      ジ">&raquo;</a></li>
    </MTEnterChildrenNext>
    <MTIf name="link" eq="$perma">
      <li class="next"><span>&raquo;</span></li>
    </MTIf>
  </ul>
</MTIfEntryChildrenFooter>
</MTEnterChildrenPages>
```



🔊 EntryChildrenPages プラグインの設定

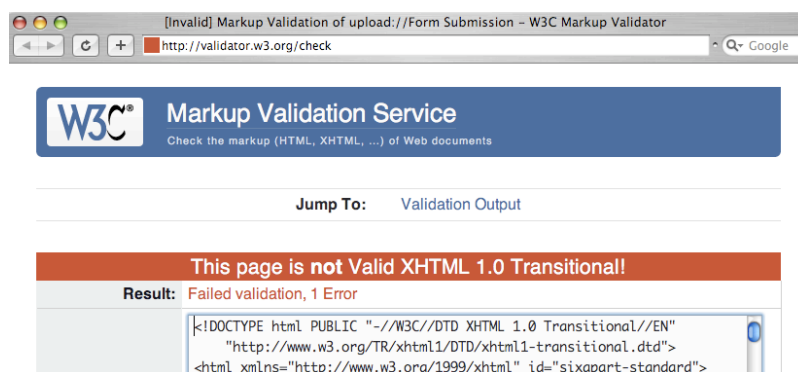
ブログ記事とウェブページを関連づける EntryChildrenPages プラグインでは、TemplateSelector プラグインと組み合わせることによって、関連ページを作成する際にも入力フォーマットに沿った入力を行ったり、記事ごとにテンプレートを分けたりすることができます。EntryChildrenPages プラグインと TemplateSelector プラグインを組み合わせる場合には、プラグイン設定「テンプレート・セクタ」の項目にチェックを入れてください。

設定項目名	デフォルト値	解説
テンプレート・セクタ	無	TemplateSelector プラグインを使用する場合はチェックを入れてください。

●HTMLの文法チェック

●プレビュー時に生成されたHTMLの文法をW3C Markup Validation Serviceでチェックする

エントリー投稿時の「確認」画面で生成されるプレビュー用のHTMLソースの文法をW3C Markup Validation Service (<http://validator.w3.org/>) で公開前に事前にチェックできます(Markup Validation Service」ボタンをクリックすると、新しいウィンドウを開いてチェック結果を表示します)。



標準オプションプラグイン

このセクションでは、OptionPluginsフォルダに含まれている標準オプションプラグインについて解説します。プラグインを有効にするには、OptionPlugins以下の必要なプラグインフォルダをmtディレクトリのpluginsディレクトリ直下にコピーします。

Abs2Relプラグイン (相対パス変換)

Movable Typeから構築されるファイル内のリンク(src及びhref属性)を相対パスに変換します。スタティック・パブリッシングにのみ対応しています。

リンク元	リンク先(パス記述)	変換後のパス
/index.html	http://example.com/foo/bar.html	foo/bar.html
/index.html	/foo/bar.html	foo/bar.html
/foo/bar.html	http://example.com/index.html	../index.html
/foo/bar.html	/index.html	../index.html
/foo/bar.html	http://example.com/foo/bar.html	bar.html

Abs2Relプラグインの設定項目

(1)除外するファイルの拡張子

RSSファイル(xml)等、処理対象外とするファイルの拡張子を指定できます。カンマ区切りで複数の拡張子を指定できます。

(2)処理対象外とするディレクトリ

処理対象外とするディレクトリを指定できます。カンマ区切りで複数のディレクトリを指定できます。

(3)ディレクトリに補完するファイル名

/で終わるリンクに補完するファイル名を指定します。
(同じ階層の'/で終わるリンクが''(空白)に変換されるのを防ぎます)。

Abs2Rel 1.0b1

除外するファイルの拡張子:
xml,php
例: xml,php

処理対象外とするディレクトリ:
/rss/
例: /ssi/; /cgi-bin/

ディレクトリに補完するファイル名:
/index.html
例: /index.html

変更を保存

🕒 Accessibilityプラグイン (アクセシビリティ向上のためのテキストフィルター)

入力されたテキストをアクセシブルに変換するモディファイア(タグ属性)です。スタティック・パブリッシングにのみ対応しています。

🌟 テンプレートタグの指定方法

🔵 モディファイア

accessibility

アクセシビリティテキストフィルターを適用します。

例:

```
<MTEntryBody accessibility="1,2">
```

🌟 属性値は1から6まで指定できます。カンマで区切って複数指定することができます。また、属性値「0」を指定すると全ての処理が有効になります。

accessibility="1" (Unicode::Normalizeを利用した正規化)

機種依存文字を正規化し、全角英数字を半角に統一します。

変換前	変換後
F O O	FOO
123	123
アルファサード(旬)	アルファサード(有)
①②③	123
¾	3/4
6月	6月
アルファサード'	アルファサード

accessibility="2" (整形のための空白文字を削除)

見栄えの整形のために入力されたスペースを削除して分割された文章をつなげます。

変換前(読み上げ例)	変換後(読み上げ例)
北 海 道(きた うみ みち)	北海道(ほっかいどう)
経 済(けい すみ)	経済(けいざい)
[参考] This is Movable Type.	This is Movable Type. (変換れさません)

accessibility="3" (整形のための空白文字を削除)

円,ドル,ユーロ,セント,ポンド等の通貨が記号で表記されている場合、日本語表記に変換します。

変換前(読み上げ例)	変換後(読み上げ例)
\$100(ひゃく)	100ドル(ひゃくどる)
¥100(ひゃく)	100円(ひゃくえん)

accessibility="4" (日付の表記形式の変換)

日付の表記を音声読み上げに適したフォーマットに変換します。

変換前(読み上げ例)	変換後(読み上げ例)
2007/11/22 (11ぶんの2007 22)	2007年11月22日(2007ねん11がつ22日)
H18.11.52(えっち18てん11てん22)	平成18年11月22日(へいせい18ねん11がつ22日)

accessibility="5" (JavaScriptの削除)

script要素、イベント属性(onclick等)を削除します。

accessibility="6" (物理要素・属性の削除)

font|blink|marqueeといった要素やtarget|style等の属性を削除します。

● **ファイル全体に対してフィルタを有効にする**

システム「メニュー」→「プラグイン」→「Accessibility」の設定で「ファイル全体に対してフィルタ処理を行う」にチェックを入れることで、特定のテンプレートタグだけでなくファイル全体を対象にフィルター処理を行うようになります(スタティック・パブリッシングのみ)。

パラメタに指定できる数値(カンマ区切り)はテンプレートタグのモディファイアに指定出来る数字と同じです。



Quickeditプラグイン (エントリーから編集画面へのスムーズな移動)

エントリーやウェブページのページから編集画面へクリック一つで移動できるブックマークレット+プラグインです。

●設定と利用方法

(1)プラグインの設置

PowerCMS/OptionPlugins/QuickEdit ディレクトリをmtディレクトリのplugins直下にコピーします。

(2)ブックマークレットの編集

テキストエディタで QuickEdit/Bookmarklet.html を開き、URL部分をMovable Type の管理画面のURLに修正します。

```
<a href="javascript:window.document.location.href='http://example.com/mt/mt.cgi?__mode=quickedit&permalink='+document.location.href;'>=>Quick Edit</a>
```

(3)ブックマークレットのブラウザへの登録

QuickEdit/Bookmarklet.html をブラウザで開き、ブラウザのブックマークへ登録します(ブックマークレットの登録方法はブラウザによって異なります)。



(3)エントリーの画面から編集画面への移動

Movable Type にログインした状態で編集したいエントリーのページをブラウザで閲覧している状態で、登録したブックマークレットをクリックすると、エントリーの編集画面に移動します。

該当するエントリーがMovable Typeに見つからなかった場合には、管理画面のトップへ遷移します。



●CatIndexKillerプラグイン (特定カテゴリーのアーカイブの再構築を制限)

CatIndexKillerプラグインを使うと、特定カテゴリーのアーカイブの再構築を制限することができます。このプラグインによって、カテゴリーのトップページをカテゴリーアーカイブではなくブログ記事やウェブページで代用できるようになります。このプラグインはスタティック・パブリッシングにのみ対応しています。

●再構築を制限するカテゴリーの指定

カテゴリーの編集画面で「アーカイブを再構築しない」チェックボックスにチェックを入れて「保存」をクリックしてください。この設定によってカテゴリーアーカイブが再構築されなくなります。

カテゴリの編集

名前: MovableType

出力ファイル名: movabletype

説明:

アーカイブを再構築しない

●カテゴリートップページをブログ記事やウェブページで代用する

アーカイブマッピングが以下のように設定されているとします。

アーカイブ	アーカイブマッピングの設定
カテゴリーアーカイブ	category/sub_category/index.html (%c/%i)
ブログ記事アーカイブ	category/sub_category/entry_basename.html (%c/%f)

この時、再構築を制限したカテゴリーに属するブログ記事の編集時に、出力ファイル名を「index」とすることでカテゴリーアーカイブが出力されるべき場所にブログ記事が出力されます。

出力ファイル名: index

警告: 出力ファイル名を手動で設定すると、他のブログ記事と衝突を起こす可能性があります。

※テンプレートタグ(スタティックパブリッシング専用)

●ブロックタグ

MTEntryIfIndex

例:

```
<MTEntries>
<MTEntryIfIndex>
  <!--出力ファイル名 (basename) が「index」の場合のみ出力される-->
<MTElse>
  <!--それ以外の場合に出力される-->
</MTElse>
</MTEntryIfIndex>
</MTEntries>
```


● RebuildIndexByIDプラグイン (別ブログのインデックスアーカイブを同時再構築)

RebuildIndexByIDプラグインを使うと、複数のブログを運用している際にブログをまたいだインデックスアーカイブの同時再構築が可能になります。

このプラグインはスタティック・パブリッシングにのみ対応しています。

● 設定と利用方法

(1) プラグインの設置

PowerCMS/OptionPlugins/RebuildIndexByID ディレクトリをmtディレクトリのplugins直下にコピーします。

(2) 再構築対象のテンプレートIDを調べる

各ブログのメニュー「デザイン」から「テンプレート」を選択し、再構築対象にしたいインデックステンプレートをクリックしてブラウザのアドレスバーを確認してください。

例えばアドレスバーが以下のようにになっている場合、このテンプレートのIDは「18」です。

```
http://example.com/mt/mt.cgi?__mode=view&_type=template&id=18&blog_id=3
```

(3) 再構築のトリガーとなるテンプレートタグを記述する

このプラグインでは、テンプレートタグが呼び出された瞬間に指定したIDのテンプレートを再構築します。

よって、「テンプレートAが再構築される瞬間にテンプレートBを再構築する」には、テンプレートAに対してテンプレートBの再構築を呼び出すためのテンプレートタグを記述します(テンプレートタグは何も値を返しません)。

例: テンプレートIDが「18」のテンプレートを再構築する例

```
<MTRebuildIndexById template_id="18">
```

例: テンプレートIDが「18」「19」のテンプレートを再構築する例

```
<MTRebuildIndexById template_id="18,19">
```

✳️ ブログAのトップページが再構築されるタイミングでブログBの特定のインデックスアーカイブを再構築するという用途に使えますが、相互に反映させることはできません。再構築のループに入らないように注意する必要があります(A再構築→B再構築→A再構築...延々再構築になる)。また、同様の理由で呼び出し元のテンプレートで自身のIDを指定しないでください。

🕒 AllBlogEntriesプラグイン (日付アーカイブでのMultiBlog機能の代替タグ)

MT4標準で利用可能になってMTEntries のinclude_blogs属性(MultiBlog機能) は年別/月別等の日付アーカイブでは有効になりません。AllBlogEntriesプラグインは、日付アーカイブで複数ブログのエントリーを出力できるブロックタグです。スタティック・パブリッシングで且つ日付アーカイブでのみ有効です。

🌟テンプレートタグ(スタティックパブリッシング専用)

●ブロックタグ

MTAllBlogEntries

すべてのブログのエントリーを出力します。include_blogsで対象のブログを指定できます。

例:

```
<ul>
<MTAllBlogEntries include_blogs="2,3" lastn="20" sort_order="ascend">
  <li><a href="<$MTEnterPermalink$"><$MTEnterTitle$></a></li>
</MTAllBlogEntries>
</ul>
```

<!--include_blogs属性にはallが指定可能です(省略時はall)。他にlastn,sort_order,sort_by属性が利用できます-->

🌟このタグを利用して日付アーカイブを作成するケースでは、主となるブログの日別アーカイブに他のブログの項目を含める動作になります。主たるブログに対象日付範囲のエントリーが存在しなかった場合、アーカイブ自体が生成されない点にご注意ください。

上記の問題に対処したい場合、次項の「EntryAliasプラグイン」の採用をご検討ください。

●EntryAliasプラグイン (エントリーのエイリアスを別のブログに作成する)

EntryAliasを使うと、エントリーのエイリアスを別のブログに作成することができます。エントリーのエイリアスはタグとカテゴリを除きオリジナルのエントリーのすべてのフィールドについて全く同じ値を持っているオリジナルの複製になります。オリジナルのエントリーが削除されると、エイリアスも自動的に削除されます。

- ✳️エントリーの投稿者がエイリアスを作成する先のブログへの投稿権限を持っていない場合、元エントリーのステータスが「公開」になった時のみエイリアスが作成されます。また、その場合エイリアスは常にステータス「下書き」状態で保存されます(元エントリーに変更を加えた場合も「下書き」になります)。エントリーを公開できるのはあくまでもエイリアスとして指定した先のブログの公開権限を有しているユーザーです(ブログ記事の一覧から公開したいエントリーにチェックを入れてアクション「ブログ記事の公開」を選択して実行してください)。

●エントリーのエイリアスを別のブログに作成する

プラグインをインストールするとエントリーの編集画面の「公開」ブロック(出力ファイル名の下部)に、エイリアス作成(チェックボックス)とブログを選択するドロップダウンメニューが表示されます。エイリアスを作成する場合は、チェックボックスにチェックを入れて、エイリアスを作成するブログを選択、保存してください。

●エイリアスの再構築を制御する

デフォルトの状態ではエントリーのエイリアスは再構築の際にファイルを生成しません。エイリアスのページを構築するには、「エイリアスのページを作成する」チェックボックスにチェックを入れて保存してください。

●エイリアスの再構築の設定

ブログのメニュー「設定」→「プラグイン」で各ブログにおけるエイリアスに関する設定が可能です。

(1)エイリアスの再構築

チェックを入れると、オリジナルのエントリーを保存した際にエントリーを同時に再構築します。エイリアスは他のブログに作られるため通常は別途ブログの再構築が必要ですが、このチェックを入れることで同時に再構築が行われます。但しこのチェックを入れることで、エントリーの保存と再構築に通常の2倍程度の時間(負荷)を要することに注意してください。

(2)デフォルトカテゴリのID

エントリーのエイリアスはオリジナルのエントリーとブログが異なるため、カテゴリ情報を引き継ぐことが出来ません。この欄にカテゴリIDを入れると該当のブログにエイリアスが作成された際に自動的にこのカテゴリに属するエントリーになります。

(3)複数のエントリーアーカイブを構築する

この項目にチェックを入れると、アーカイブマッピングにカテゴリのパスが含まれている場合(例:%-c/%-f)に、各ディレクトリ配下にエントリーアーカイブが構築されます。各アーカイブは、それぞれのカテゴリに属するエントリーとして構築されるため、カテゴリ毎にデザインやナビゲーションが異なる場合にはその設定が反映されます。

✿テンプレートタグ(スタティックパブリッシング専用)

●ブロックタグ

MTEntryOriginal

エントリーがエイリアスである場合、オリジナルのエントリーオブジェクトを返します。
エントリーの拡張フィールドの項目やタグ等、別のテーブルのオブジェクト(エイリアスに引き継がれないオブジェクト)を出力する場合に利用できます。

MTIfEntryIsAlias

エントリーがエイリアスである場合、真を返します。

例:

```
<ul>
<MTEntries>
<MTIfEntryIsAlias>
  <MTEntryOriginal>
    <li><a href="<$MTEnterPermalink$"><MTEntryTitle></a></li>
    <!--↑ここで出力されるのはオリジナルのエントリーの情報です-->
  </MTEntryOriginal>
</MTIfentryisalias>
</MTEntries>
</ul>
```

MTIfEntryRebuildMe

エントリーがエイリアスである時にオリジナルのエントリを保存時に「エイリアスのページを作成する」を指定したエントリーであるかどうかを返すブロックタグ(条件タグ)です。

●ファンクションタグ

MTEntryOriginalPermalink

エントリーのパーマリンクを返しますが、エントリーがエイリアスである場合、オリジナルのパーマリンクを返します。MTEntryPermalinkの代わりにこのタグを使えば、エントリーがエイリアスかどうかを意識する必要はなくなります。

例:

```
<ul>
<MTEntries>
  <li><a href="<$MTEnterOriginalPermalink$"><MTEntryTitle></a></li>
</MTEntries>
</ul>
```

🌀 BlogExtras/CategoryExtrasプラグイン (ブログ/カテゴリーのフィールドを拡張)

BlogExtras/CategoryExtrasプラグインをインストールすると、ブログ/カテゴリーの編集画面で新たに「本文(text)」「追記(text_more)」「キーワード(keywords)」フィールドが利用可能になります。



🌀 テンプレートタグ

● ファンクションタグ

MTBlogText

ブログの本文(text)です。

MTBlogMore

ブログの追記(text_more)です。

MTBlogKeywords

カテゴリーの追記(text_more)です。

MTCategoryText

カテゴリーの本文(text)です。

MTCategoryMore

カテゴリーの追記(text_more)です。

MTCategoryKeywords

カテゴリーの追記(text_more)です。

📄 TabSplitterプラグイン (タブ区切りテキストを柔軟に取り扱う)

TabSplitterプラグインを利用することで、任意のフィールドに入力されたタブ区切り形式のテキストを柔軟に取り扱えるようになります。Microsoft Excel等のスプレッドシート・アプリケーションからデータをペーストしてテーブルを作成したり、リスト形式のコンテンツを取り扱うのに便利です。

🌟 テンプレートタグ(スタティックパブリッシング専用)

● ブロックタグ

MTTabSplitDatas

各行ずつループでデータを取り出すブロックタグです。object属性にテーブル名、column属性にカラム名を指定します。

● ファンクションタグ

MTTabSplitLine

各行のデータを取り出します。field属性で何番目のカラムを取り出すかを指定します。

例: 1列目にURL、2列目にラベルを指定したタブ区切りデータからリンクリストを生成する

```
<ul>
<MTTabSplitDatas object="entry" column="excerpt">
  <li><a href="<$MTtabsplitline field="1"$>"><$MTtabsplitline field="2"$></a></li>
</MTTabSplitDatas>
</ul>
```

● モディファイア

tab2table

タブ区切りテキストからテーブルタグを作成します。属性値1~4が指定できます。

- ・属性値=1(見出しなし):すべてのセルはtd要素として出力されます。
- ・属性値=2(行を見出し):1行目のセルのみth要素で、その他のセルはtd要素として出力されます。
- ・属性値=3(列を見出し):1列目のセルのみth要素で、その他のセルはtd要素として出力されます。
- ・属性値=4(行,列を見出し):1行目のセルと1列目のセルをth要素として、その他のセルをtd要素として出力します。



表計算ソフトのデータをフィールドにペーストする
(タブ区切りテキストとしてペーストされます)

例: エントリーの概要欄を1行目を見出しにしてテーブルとして出力する

```
<MTEntryExcerpt tab2table="2">
```

EntryTagEditorプラグイン (エントリーの一括編集画面でのタグの編集)

EntryTagEditorプラグインをインストールすると「エントリー一覧」画面の「アクション...」メニューから「ブログ記事 (ウェブページ) の一括編集」を選択して表示させたエントリーの一括編集画面の「タイトル」の隣に「タグ」が表示されるようになります。

「タグ」フィールドのテキストを修正して「保存」をクリックすることによりエントリーのタグを修正することができます。



ブログ記事の一覧

戻る

保存

公開状態	タイトル	タグ	カテゴリ
公開	MT TemplateSelector プラグ	Movable Type	MovableTypeプラグイン
公開	さらに検索!	Movable Type,検索	駄文・雑文
公開	もしかしてMovable Type?	Movable Type	MovableTypeプラグイン
公開	検索結果のフィード配信とタ	Movable Type	プログラミング
公開	Movable Type4ダイナミック,	Movable Type	プログラミング
公開	MTのPHPプラグインでLIKE形	Movable Type	プログラミング
公開	CatIndexKiller	Movable Type	MovableTypeプラグイン
公開	IfMatchEntry	Movable Type,Plugir	MovableTypeプラグイン
公開	MTの再構築の進行状況をプ	Movable Type,Plugir	MovableType

●EntryDownプラグイン (更新されたファイルの一括ダウンロード)

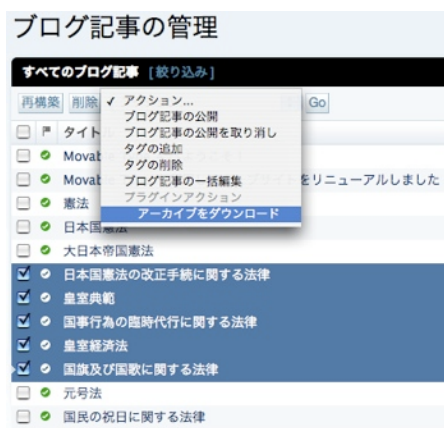
管理画面のエントリー一覧表示から、ダウンロードしたいエントリーを選択、zip(tar)アーカイブとしてダウンロードが可能になります。

エントリーで利用されている画像等のアイテムや、エントリーの更新日時より新しいアーカイブ(インデックスアーカイブやカテゴリーアーカイブ等)を含めてダウンロードすることも出来ます。

Perlモジュール Archive::Zip 又は Archive::Tar がインストールされている必要があります。

●エントリーと関連データをダウンロードする

管理画面のエントリー一覧から、ダウンロードしたいエントリー(複数エントリーを指定出来ます)にチェックを入れます。「アクション」→(プラグインアクション)「アーカイブをダウンロード」を選択して「Go」をクリックします。



ダウンロードが開始され、Zip又はTar形式のファイルのダウンロードが開始されます。

●エントリーと同時にダウンロードするファイルの指定

「システムメニュー」→「プラグイン」から、同時にダウンロードするアーカイブやアイテムの指定が出来ます。



この設定でチェックを入れたアーカイブまたはアイテムについては、ダウンロード対象のエントリーの更新時刻よりもタイムスタンプが新しいファイルだけがダウンロード対象になります(複数のエントリーが指定されている場合、更新日が最も古いエントリーのタイムスタンプを比較対象とします)。

また、ダウンロード対象外とするファイルを拡張子をカンマ区切りで複数指定できます。

※利用する前に、ドキュメントルートのパスを指定しておいてください。

🌀 ObjectGroupプラグイン (エントリー/カテゴリ/ブログをグループ化)

エントリーグループやカテゴリグループのように同一のオブジェクトだけでなく、エントリー(ブログ記事/ウェブページ)、カテゴリ(カテゴリ/フォルダ)、ブログといった異なるオブジェクトが混在するグループを作成します。

管理画面でのDrag & Dropの操作方法はエントリーグループなどと同様ですが、左カラムの上部のタブでオブジェクトの切り替えが可能です。



🌟 テンプレートタグ

● ブロックタグ

MTOBJECTGROUPITEMS

グループ名(グループモディファイア)を指定してグループのアイテムをループで呼び出します。

MTIFOBJECTGROUPITEMISENTRY

実行されているループの中で出力されるオブジェクトがエントリー(ブログ記事又はウェブページ)の場合に真を返します。

MTIFOBJECTGROUPITEMISCATEGORY

実行されているループの中で出力されるオブジェクトがカテゴリ(カテゴリまたはフォルダ)の場合に真を返します。

MTIFOBJECTGROUPITEMISBLOG

実行されているループの中で出力されるオブジェクトがブログの場合に真を返します。

例:

```
<ul>
  <MTOBJECTGROUPITEMS name="グループ名" blog_id="1">
    <$MTOBJECTGROUPITEMCLASS setvar="item_class">
      <MTIFOBJECTGROUPITEMISENTRY>
        <MTIF name="item_class" eq="entry">
          <li class="entry"><a href="<$MTEENTRYPERMALINK$>"><$MTEENTRYTITLE$></a></li>
        </MTIF>
        <MTIF name="item_class" eq="page">
          <li class="page"><a href="<$MTPAGEPERMALINK$>"><$MTPAGETITLE$></a></li>
        </MTIF>
      </MTIFOBJECTGROUPITEMISENTRY>
      <MTIFOBJECTGROUPITEMISCATEGORY>
        <MTIF name="item_class" eq="category">
          <li class="category"><a href="<$MTCATEGORYARCHIVELINK$>"><$MTCATEGORYLABEL$></a></li>
        </MTIF>
        <MTIF name="item_class" eq="folder">
          <li class="folder"><$MTFOLDERLABEL$></li>
        </MTIF>
      </MTIFOBJECTGROUPITEMISCATEGORY>
      <MTIFOBJECTGROUPITEMISBLOG>
        <li class="blog"><a href="<$MTBLOGURL$>"><$MTBLOGNAME$></a></li>
      </MTIFOBJECTGROUPITEMISBLOG>
    </MTOBJECTGROUPITEMS>
  </ul>
```

👤 Power CMS for MT Professionalの機能

👤 リンクチェッカ

LinkCheckerプラグインでは、再構築をトリガとしてファイル中のリンクを抽出してリスト化し、リンクチェックを行います。相対パス、絶対パス、外部リンク、内部リンク、ハイパーリンクの他、画像リンクやCSS/JavaScript等の外部ファイルへのリンクもあわせてチェックします(一部JavaScriptによって生成される動的なリンクはサポートしていません)。

🌸ダイナミックパブリッシングによって生成されるページのリンクチェックには対応していません(スタティック・パブリッシングされたファイルから、ダイナミックパブリッシングによるページへの内部リンクについてはチェックを行います)。

● リンクチェックの実行

リンクチェックを行うには、対象ファイルを再構築する必要があります。

再構築ウィンドウに表示される「再構築後にリンクチェックを行う」チェックボックスにチェックを入れ、再構築を実行すると、再構築完了後に「リンクチェックを実行」ボタンが表示されますので、クリックしてレポートを表示します。



リンクチェック		
<p>🚫 5ファイル中の1110個のリンクをチェックしました。3ファイル中に304個のエラーを検出しました。</p>		
リンクチェックの結果		
http://aquarius.alfasado.net/members/members/ (インデックス) (203個のエラー)		
/www/sites/aquarius.alfasado.net/htdocs/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9B%BD%E6%B0%91/		見つかりません
/www/sites/aquarius.alfasado.net/htdocs/wiki/%E6%B3%95%E5%BE%8B/		見つかりません
/www/sites/aquarius.alfasado.net/htdocs/wiki/1950%E5%B9%B4/		見つかりません

● リンクチェックの修復

ファイルのURLの右側のインデックス、ブログ記事等のテキストリンクをクリックするとブログ記事(ウェブページ)の場合は該当のエントリーの編集画面、その他のアーカイブの場合はテンプレートの編集画面に移動して素早く修正を行うことができます。

● リンクチェック関連の設定

システムプラグイン設定からLinkCheckerプラグインの設定を表示します。



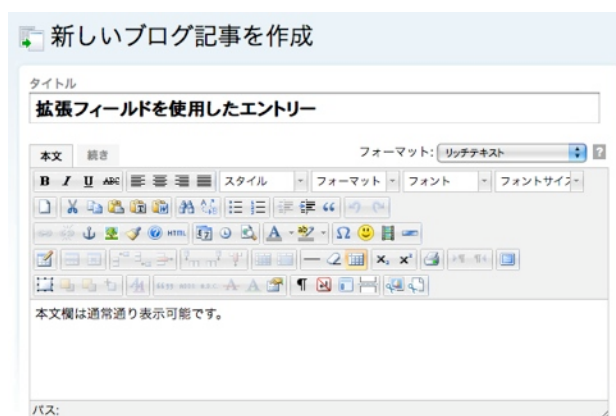
設定項目名	解説	設定例
外部リンク	サイト外のURLに対してHTTPアクセスしてリンクチェックを行います。	
内部リンク	サイト内のURLに対してファイルの存在チェックを行います。	
/で終わるリンク	/category/ 等の / で終わる内部リンクに対して存在をチェックするファイル名を記述します。カンマ区切りで複数指定が可能です。	index.php,index.html,index.htm
タスク	チェックを入れることで、再構築直後ではなく次回のタスク(run-periodic-tasks)実行時にリンクチェックを行います。対象ファイル数が多く、CGIによるリンクチェックがタイムアウトやエラーになる場合に設定します。	
チェック完了時通知先	タスクによってリンクチェックを行った結果を通知するメールアドレスを入力します。カンマ区切りで複数指定が可能です。	
レポート	チェックを入れるとエラーのみをレポートします。	

👤 エントリーの次期バージョンの作成

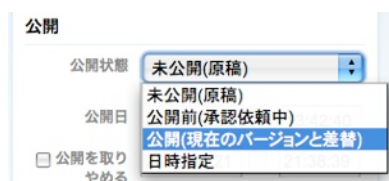
EntryNextRevision プラグインを使用することで、既に存在するエントリーの次のバージョンを作成することが可能になります。

● 次のバージョンの作成手順

エントリーの一覧表示画面から、次バージョンを作成したいエントリーの **+** をクリックすると、そのエントリーの次のバージョンを作成することができます。



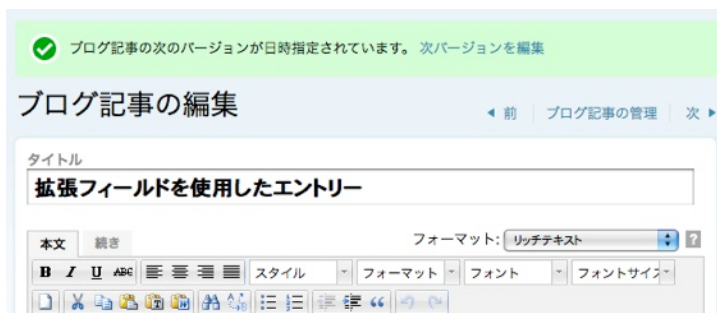
「公開」メニューから「公開(現在のバージョンと差し替え)」を選択して、保存することで、次のバージョンを公開することができます。



● 指定日配信機能との組み合わせ

保存の際に「日時指定」を選択しておくことで、指定日公開の機能によって、指定した日時に次バージョンとの差し替えを行うことが可能になります(指定日公開には、Cron ジョブの登録による、タスクの定期実行が必要になります)。

「日時指定」を指定した場合で、次バージョンのエントリの編集を行いたい場合、元エントリの編集画面に進むと、「ブログ記事の次のバージョンが日時指定されています」という表示が出ますので、その右の「次バージョンを編集」をクリックすることで、そのエントリの次のバージョンを編集することができます。



● ワークフローとの組み合わせ

「次のバージョン」でもワークフロー(承認フロー)が利用できます。この機能により、公開済みのエントリーを、公開権限の無い下位のユーザーが(エントリーは公開したまま)修正し、承認を依頼、その後公開というワークフローを組むことができます。詳細はワークフローの項を参照してください。



📧 メールマガジン

メールマガジンを作成し、登録ユーザーに配信することができます。指定日配信も可能です(指定日配信には、Cron ジョブの登録による、タスクの定期実行が必要になります)。また、メールマガジンをブログ記事として保存し、バックナンバーとして公開することもできます。

● インストールされるロール

MailMagazine プラグインをインストールすると、アップグレードの際に自動的に以下のロールがインストールされます。

(1) メールマガジンの購読

メールマガジンを購読します。このロールに属するユーザがメールマガジンの送信対象として扱われます。

(2) メールマガジンの作成

メールマガジンを作成することができるロールです。

● MailMagazine プラグインの設定項目

このプラグインでは、各ブログ単位での設定と、システムメニューでの設定があります。各ブログでのメールマガジン作成に関する設定はそのブログのプラグイン設定画面から行う必要があります。

(1) 送信先を選択する(各ブログ、システムメニュー)

チェックすると、メールマガジン作成の際に送信先を選択することができます。送信対象が多い場合はメールマガジン作成画面の構築に時間がかかるので、その場合はチェックを外してください。チェックがなければ、「メールマガジンの購読」ロールに属するユーザ全員にメールを送信します。

(2) メールを送信元(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジン送信の際に、ここで設定したメールアドレスが送信元となります。

(3) メールタイトル(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジンの作成の際に、デフォルトで「タイトル」欄に入るテキストとなります。

(4) メール本文(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジンの作成の際に、デフォルトで「本文」欄に入るテキストとなります。

(5) メールにつける署名(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジンの作成の際に、デフォルトで「本文」欄の最後に入るテキストとなります。

(6) 送信間隔(システムメニューのみ)

メールマガジン送信の際に、一つ一つのメール送信のインターバルになります。単位は秒です。

(7) 一覧表示件数(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジンの一覧表示ページにおいて、1 ページに表示する件数を半角数字で指定します。

●メールマガジンの配信

システムメニューまたは各ブログの「新規作成」の「メールマガジン」から、メールマガジンを新規作成できます。

※システムメニューからの作成を行うには、システム管理者権限でログインする必要があります。



表示される編集画面で、タイトル、本文を入力後、送信先をチェックボックスで選択し、「変更を保存」ボタンで保存します。「すぐに送信」を押すとその場で送信されます。「タスク送信」を押した場合、その場では送信しませんが、同梱のメール配信スクリプトを使って送信を行うことができます(後述)。この方法を使うことで MT の動作とは別に送信動作を行うことができるので、送信件数が多く、時間がかかる場合などに有効です。

●指定日配信機能

指定日配信を行いたい場合、一番下の「送信時間」の項目で「指定日配信」にチェックを入れ、配信時間を設定します。日付の指定は、カレンダーをクリックするだけで行うことができます。

- ※指定日到来後の、次のタスク実行の際にメールマガジンが配信されます。
- ※指定日配信には、Cron ジョブの登録による、MT のタスクの定期実行が必要になります。
- ※「指定日配信」にチェックを入れていたでも、「すぐに送信」を押すとその場で送信処理が行われます。



編集完了後、「指定日配信」ボタンを押すと送信するメールのデータが XML で書き出されます。MailMagazine プラグインのメール送信ツール(PowerCMS に同梱されています)を Cron ジョブに登録しておくことで、定期的に XML データを元に購読者にメールを送信する作業を行わせることができます。この方法を使うことで、MT の動作とは別に送信動作を行うことができるので、送信件数が多く、処理に時間がかかる場合などに有効です。

- ※この機能を使用する場合、「PowerCMS/files/xml/MailMagazine」に、Web サーバから書き込みできる権限設定を行ってください。

例) 午前 4 時にメール配信する場合の cron ジョブの設定例([MT_DIR] は、MT をインストールしたディレクトリです)

```
0 4 * * * cd [MT_DIR ]/tools; send-mailmagazine
```

●メールマガジンの一覧と再編集

システムメニューの「一覧」から「メールマガジン」を選択することで閲覧することができます。

作成途中で保存しておいたメールマガジンを編集したい場合、該当のメールマガジンのタイトルをクリックして表示される編集画面から、通常の作成と同様に編集を行うことができます。

✿一度配信したメールマガジンの再編集はできません。

●メールマガジンをエントリーとして保存する

メールマガジン作成の際、「ブログ記事として保存する」にチェックを入れることで、そのメールマガジンをブログ記事として保存することができます。保存されたブログ記事は通常のブログ記事と全く同じですので、テンプレートを使ってバックナンバーとして公開することができます。

保存 ブログ記事として保存する

状態が 改行が カテゴリーが

● 会員限定サイト (Members プラグイン)

Members プラグインを使うと、Movable Type のログイン機能を使って Movable Type にログインしているユーザー限定のページを簡単に作成することができます。Mobile プラグインと組み合わせれば、携帯電話でのアクセスにも対応した会員限定サイトを構築することができます。

● Members プラグインによる処理の流れ

- ・各ファイルの冒頭で、PHP によってログイン状態および閲覧権限の有無を確認します。
- ・ログイン状態でない場合もしくは閲覧権限がない場合、ブラウザを mt-members.cgi にリダイレクトし、ログイン画面を表示します(携帯サイトの場合は、mt-mobile.cgi にリダイレクトします)。

● 会員限定サイトの構築手順

(1) テンプレートセットのインストール

PowerCMSTemplateSetMembers プラグインをインストールした上で、ブログを作成する際に選択する「テンプレートセット」の項目で「PowerCMS テンプレートセット(会員サイト対応)」を選択してください。必要なテンプレートがインストールされます。



※上記手順で、携帯電話からのアクセスに対応するためのテンプレートも同時にインストールされます。携帯電話からのアクセスに対応する必要がない場合、テンプレートセットをインストールしたあと、携帯対応のためのテンプレートを削除してください。携帯対応のためのテンプレートは、テンプレート名が「～(携帯用)」となっています。

(2) mt-config.cgi への設定の追加

ユーザー限定領域に対して Movable Type のログインクッキーを有効にするために、mt-config.cgi に以下の一行を追加します。

```
CookiePath /
```

※既にログインしている環境では、ブラウザのクッキーを削除して再度ログインする必要があります。

(3) mt-members.cgi、mt-mobile.cgi の設置とパーミッション設定

mt/mt-members.cgi および mt/mt-mobile.cgi を、Movable Type をインストールしたディレクトリ内にコピーし、実行可能なパーミッションを付与します。

(4)確認

ブログ全体の再構築を行ったあと、Movable Typeからログアウトした状態で、対象の領域のページへアクセスすると、ログインページにリダイレクトされるようになります(右は携帯電話でのアクセスの場合です)。ログインを行うことで、ページを閲覧することができるようになります。



- ※IIS サーバをお使いの場合は、カスタムエラーハンドラでステータスコード 403 の場合の処理ファイルを `mt-member.php` に設定する必要があります。 `mt-member.php` はインデックステンプレートとしてテンプレートセットに含まれており、ブログの公開パス直下に出力されます。
- ※`mt-members.cgi`、`mt-mobile.cgi` を、Movable Type をインストールしたディレクトリ以外に設置する場合は、設置場所の URL を `mt-config.cgi` に設定する必要があります。設定は以下のようになります。

```
MemberScript http://url/to/mt-members.cgi
MobileScript http://url/to/mt-mobile.cgi
```

- ※`mt-mobile.cgi` を他のファイル名に変更する場合についても上記設定を行ってください。

●会員限定サイトと一般公開サイトの切り替え

ブログを会員限定にするか、一般公開するかはブログの「設定」→「全般」から簡単に切り替えることができます。会員限定サイトにしない場合は、「会員限定サイトにする」のチェックを外してください。

ブログのオーナー

ブログ・ツリー マスターブログ

会員限定サイト 会員限定サイトにする

承認待ち記事の所有者

● 「会員」とインストールされるロールについて

Members プラグインにおける「会員」は、Movable Type 上では「会員ページの閲覧」ロールが割り当てられているユーザが会員と見なされます。「会員ページの閲覧」ロールについては、Members プラグインをインストールすることによって自動的に作成されます。

ロール	説明	メンバー	ブログ
<input type="checkbox"/> ウェブサイト管理	ウェブページのリクエストとブログの再構築ができます。	0	0
<input checked="" type="checkbox"/> コメント投稿者	コメントを投稿できます。	18	18
<input checked="" type="checkbox"/> デザイナー	ブログのテンプレートを編集、管理できます。再構築もできます。	0	0
<input checked="" type="checkbox"/> ブログ管理者	ブログの管理者です。	5	5
<input type="checkbox"/> メールマガジンの作成	メールマガジンの作成を行うことができます。	0	0
<input type="checkbox"/> メールマガジンの確認	メールマガジンを確認するユーザーです。	0	0
<input type="checkbox"/> モデレータ	コメントの投稿と、コメントやトラックバックの管理ができます。	0	0
<input type="checkbox"/> ユーザー	ブログ記事の作成、自分のブログ記事の編集と公開、ファイルのアップロードができます。	0	0
<input type="checkbox"/> ライター	ブログ記事の作成と自分のブログ記事の編集ができます。コメントも投稿できます。	0	0
<input checked="" type="checkbox"/> 会員ページの閲覧	会員専用ページを閲覧することができます	16	16
<input checked="" type="checkbox"/> 編集者	すべてのブログ記事とカテゴリ、タグの編集、ファイルのアップロード、再構築ができます。	1	1

● Members プラグインの設定

「システムメニュー」→「プラグイン設定」→「Members」の設定で以下の項目が設定出来ます。

設定項目	解説	設定例
ドキュメントルート	ドキュメントルートのパスをフルパスで指定します。	/home/usr/public_html
インデックスファイル名	/で終わるリクエストが送られて来た時に返すファイル名を指定します。カンマ区切りで複数指定できます。	index.html,index.htm,index.php
エラーファイル	404エラー(ファイルが見つからなかった)時に返すエラーページのフルパスを指定します。	/home/usr/error/404.html
セッション・タイムアウト(秒)	セッションの有効期限を指定します。	3600
登録の許可	サイト訪問者が Movable Type にユーザとして登録することを許可する場合はチェックしてください。	
サインアップ	サインアップの際に、全てのブログに対して同時にサインアップさせたい場合はチェックしてください。	
パスワードの再設定	ユーザにパスワードの再設定を許可する場合はチェックしてください。	
登録通知先	会員登録が行われた場合に通知する通知先を設定します。通知先として選択できるのはシステム管理者権限を持つユーザに限られます。	

設定項目	解説	設定例
メンバー登録後のステータス	訪問者によって会員登録手続きが行われた際に、その会員をすぐに有効なユーザとして扱うか、保留しておいてシステム管理者による有効化手続きを経るかどうかを設定します。	

Members プラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTUserIsMember

囲んだ内容は、アクセスしてきたユーザが会員である場合にのみ表示されます。携帯用テンプレート以外で使用する場合は、アトリビュート `display_type="php"` を指定してください。

MTUserIsNotMember

囲んだ内容は、アクセスしてきたユーザが会員ではない場合にのみ表示されます。携帯用テンプレート以外で使用する場合は、アトリビュート `display_type="php"` を指定してください。

MTMembersForMobile

囲んだ内容は、携帯電話でのアクセスに対応するため、リンクパラメータにセッション ID が付加されます。このタグは PHP で処理されることが想定されていますが、それ以外(CGI や PowerCMS の AltSearch プラグインを使用した検索等)で使用する場合は、アトリビュート `dynamic="1"` を指定することでそれらにも対応させることができます。

MTMembersLoggedout

囲んだ内容は、ログアウト直後にのみ表示されます。より具体的には、URL にパラメータ `logout=1` がついている場合にのみ表示されます。携帯用テンプレート以外で使用する場合は、アトリビュート `display_type="php"` を指定してください。また、このタグを使用する場合は、ブログの設定で「会員限定サイトにする」のチェックを外してください(「会員限定サイトにする」にチェックが入っている場合、会員がログアウトするとログイン画面にすすみます)。

● ファンクションタグ

MTMembersScript

mt-config.cgi の設定「MemberScript」か、設定されていないならば「`http://url/to/mt/mt-members.cgi`」を出力します。

MTMembersLoginURL

ログイン画面の URL を出力します。その内容は、MTMemberScript タグの内容に、ログイン画面を表示するのに必要なパラメータを加えたものになります。

MTMembersLoginCheck

ログインチェックを行う PHP スクリプトを出力します。このタグは、必ず各テンプレートの冒頭に設置してください(空白や、空の改行等も含まれないようにする必要があります)。ブログの設定で「会員限定サイトにする」に

チェックがない場合でも、会員・非会員による表示内容の分岐を行う場合にはこのタグを設置しておいてください。なお、アトリビュート `mobile="1"` を指定することで、携帯用の PHP スクリプトを出力します。

MTMembersGetSessionID

PHP スクリプトにより、URL パラメータのセッション ID を取得して表示します。このタグは PHP で処理されることが想定されていますが、それ以外(CGI や PowerCMS の AltSearch プラグインを使用した検索等)で使用する場合は、アトリビュート `dynamic="1"` を指定することでそれらにも対応させることができます。

MTMembersGetNickname

PHP スクリプトにより、アクセスしてきたユーザ名を取得して表示します。このタグは、MTMembersLoginCheck ファンクションタグが設置されているテンプレートでのみ機能します。

MTMembersSessionTimeOut

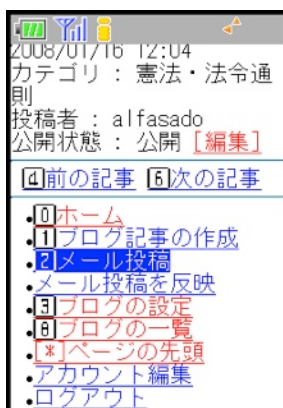
プラグインの設定で設定した、「セッションのタイムアウト(秒)」を表示します。特に設定されていない場合、デフォルト値の 3600 を出力します。

● 携帯サイト機能(Mobile プラグイン)

Mobile プラグインを使用することにより、携帯電話によって各ブログを管理したり、携帯サイトとして公開することが可能です。Mobile プラグインは、エントリーの作成や編集、コメント投稿、ブログの設定やカテゴリの作成、再構築、メールによる投稿等の機能を備えています。

また、Members プラグイン、PowerCMSTemplateSetMembers テンプレートセットと組み合わせることにより、スタイリッシュな携帯サイトを簡単に構築できます(Mobile プラグイン単体でも携帯サイトとしての機能を提供します)。

- ✳️メールによる投稿を行うためには、Perl モジュール Mime::Parser がサーバーにインストールされている必要があります。



● Mobile プラグインのインストールとアクセス

Mobile プラグイン本体は PowerCMS にバンドルされていますので、PowerCMS をインストールすることで Mobile プラグインもインストールされますが、管理機能を持つ CGI である mt/mt-mobile.cgi を、Movable Type をインストールしたディレクトリ内にコピーし、実行可能なパーミッションを付与する必要があります。

- ✳️mt-mobile.cgi を、Movable Type をインストールしたディレクトリ以外に設置する場合は、設置場所の URL を mt-config.cgi に設定する必要があります。設定は以下のようになります。

```
MobileScript http://url/to/mt-mobile.cgi
```

- ✳️mt-mobile.cgi を他のファイル名に変更する場合についても上記設定を行ってください。

mt-mobile.cgi の設置が完了したら、mt-mobile.cgi にアクセスします。パラメータは必要ありません。mt-mobile.cgi を、Movable Type をインストールしたディレクトリ内にコピーした場合の URL は以下のようになります。

```
http://url/to/mt/mt-mobile.cgi
```

●携帯電話で Movable Type を管理するための設定

Mobile プラグインでは、「システムメニューのプラグイン設定」「各ブログのプラグイン設定」「各ブログの設定」の、3種類の設定箇所があります。主に「各ブログの設定」を使用しますが、必要に応じて「システムメニューのプラグイン設定」「各ブログのプラグイン設定」も変更してください。

(1)システムメニューのプラグイン設定

「システムメニュー」→「プラグイン設定」→「Mobile」の設定で以下の項目が設定出来ます。

設定項目	解説	設定例
ドキュメントルート	ドキュメントルートのパスをフルパスで指定します。	/home/usr/public_html
DBエンコーディング	データベースの文字コードを指定します。	UTF-8
携帯アクセス	ログインユーザーにのみモバイルアクセスを許可する場合はチェックします。	
サインアップ	すべてのブログに同時サインアップさせたい場合はチェックします。	
セッションの有効期限(秒)	セッションの有効期限を秒数で指定します。	3600
文字コード変換	古いキャリアからのアクセス時に Shift_JIS変換する場合にチェックします。	
ヘッダ部HTML	mt-mobile.cgi へのアクセスの際、ページのヘッダ部分に表示したい HTML を入力します。必要がなければ設定の必要はありません。	
フッタ部HTML	mt-mobile.cgi へのアクセスの際、ページのフッタ部分に表示したい HTML を入力します。必要がなければ設定の必要はありません。	
モバイル版フッタ(1)	モバイル版フッタにログインページへのリンクを表示する場合はチェックします。	
モバイル版フッタ(2)	モバイル版フッタにブログ一覧へのリンクを表示する場合はチェックします。	

(2)各ブログのプラグイン設定

任意のブログ→「プラグイン設定」→「Mobile」の設定で以下の項目が設定出来ます。

設定項目	解説	設定例
セッションの有効期限(秒)	セッションの有効期限を秒数で指定します。	3600

設定項目	解説	設定例
送信先アカウント	メール投稿の際の、送信先メールアドレスを設定します。	example@alfasado.jp
パスワード	メールアドレスのパスワードを設定します。	*****
メールサーバ	メールサーバのサーバ名を FQDN で設定します。	mail.example.com
プロトコル	メールの受信に使うプロトコルを設定します。	pop3
サムネイル幅	mt-mobile.cgi が携帯電話でのアクセスのためにサムネイルを生成する場合の、サムネイルの幅を設定します。	240
テンポラリファイルの保存場所	mt-mobile.cgi が生成する一時ファイルの設置場所を設定します。ここで指定するディレクトリには、Web サーバからの書き込み権限が必要です。	/home/user/tmp
添付ファイルの保存先	メールにファイルが添付されていた場合の保存先を指定します。ここで指定するディレクトリには、Web サーバからの書き込み権限が必要です。	/home/user/mailfiles
公開状態	エントリーをメール投稿する場合の、エントリーの公開状態を設定します。	
再構築	再構築の際にエントリーとインデックスを再構築する場合はチェックします。	
テキストの区切り文字	MTMobileSeparateBlock タグで使用する区切り文字を設定します。できるだけ HTML 上ではコメントあうとされるような文字列を設定してください。	<!--_separator_-->

(3)各ブログの設定

任意のブログ→「設定」→「全般」の設定で以下の項目が設定出来ます。

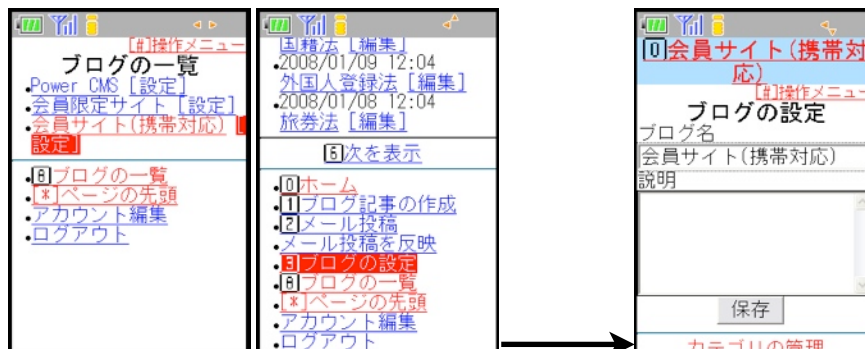
設定項目	解説	設定例
Mo- bileScriptへのアクセス	mt-mobile.cgi にアクセスすることができるユーザの種別を選択します。	
モバイル版ヘッダ部 HTML	mt-mobile.cgi へのアクセスの際、ページのヘッダ部分に表示したい HTML を入力します。必要がなければ設定の必要はありません。	

設定項目	解説	設定例
モバイル版フッタ部 HTML	mt-mobile.cgi へのアクセスの際、ページのフッタ部分に表示したい HTML を入力します。必要がなければ設定の必要はありません。	
モバイル版フッタ(1)	モバイル版フッタにログインページへのリンクを表示する場合はチェックします。	
モバイル版フッタ(2)	モバイル版フッタにブログ一覧へのリンクを表示する場合はチェックします。	
メール投稿先アドレス	メール投稿に使用する送信先メールアドレスを設定します。	mail@example.com
携帯管理メニューでメール投稿反映を許可	チェックしておく、携帯用管理画面からメール投稿の反映処理を行うことができます。	
ブログ記事通知	チェックしておく、ブログ記事投稿時に携帯へメール通知する。	
コメント通知	チェックしておく、コメント投稿時に携帯へメール通知する。	
モバイル版フッタ(2)	モバイル版フッタにブログ一覧へのリンクを表示する場合はチェックします。	

● 携帯電話による管理の仕方

● ブログの設定

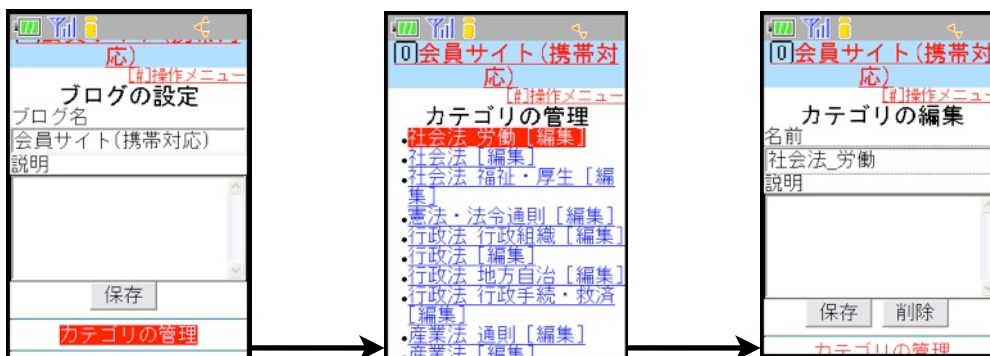
ログイン直後、http://url/to/mt/mt-mobile.cgi にアクセスすると、ブログの一覧が表示されます。ここから各ブログ名の右に設置されている「設定」リンクをクリックすると、該当のブログの設定画面に進むことができます(ブログ名をクリックしたあとのフッタメニューからも進むことができます)。



ブログの設定では、ブログ名とブログの説明を編集することができます。編集が完了したら、「保存」ボタンを押して保存してください。

● カテゴリの設定

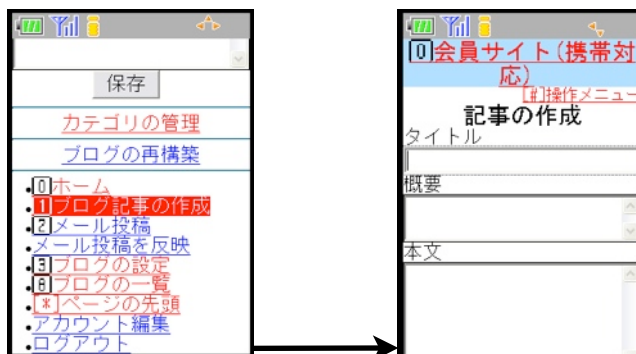
前述のブログの設定画面の下部に設置されているリンクから、「カテゴリの管理」に進むことができます。「カテゴリの管理」に進むと、該当のブログのカテゴリが一覧表示されますので、設定を編集したいカテゴリ名をクリックしてください。



カテゴリの設定では、カテゴリ名とカテゴリの説明を編集することができます。編集が完了したら、「保存」ボタンを押して保存してください。また、カテゴリがなくなった場合は「削除」ボタンを押すことにより削除することもできます。

● ブログ記事の作成

各ページのフッタメニューに設置されている「ブログ記事の作成」をクリックすると、ブログ記事の新規作成画面に進むことができます。



「タイトル」「概要」「本文」「追記」「キーワード」「タグ」を入力し、「カテゴリ」「公開状態」を選択した後、「保存」ボタンを押すことで保存が行われます。

● ブログ記事の編集

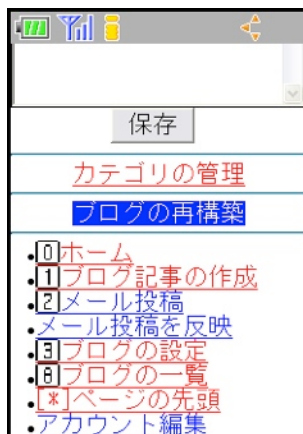
各ページのフッタメニューに設置されている「ホーム」をクリックすると、ブログ記事の一覧が表示されます。編集したいブログ記事の右の「編集」をクリックすると、該当のブログ記事の編集画面に進むことができます。



新規作成の場合と同様に各項目を編集した後、ページ下部の「保存」ボタンを押すことで編集内容が保存されます。

● ブログの再構築

ブログの設定画面の保存ボタンの下に設置されている「ブログの再構築」をクリックすると、ブログの再構築を行うことができます。再構築はバックグラウンドで行われるためすぐに「再構築をスタートしました」のメッセージが返ってきますので、再構築が完了するまで待たされることはありません。



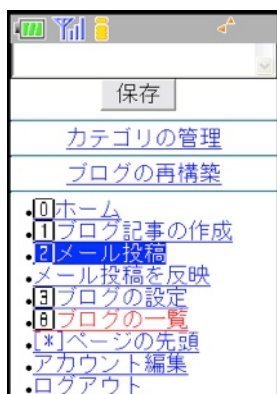
● メールによるブログ記事の投稿

Mobile プラグインを使うことにより、メールによるブログ記事投稿を行うことが出来ます。画像等のファイルを添付することも可能です。メールによる投稿を行い、投稿した記事を公開するには、以下の手順を行います。これらはいずれも、Mobile プラグインによる管理画面から行うことができます。

- ・メールでブログ記事を投稿する
- ・管理画面からメール投稿の反映を行う

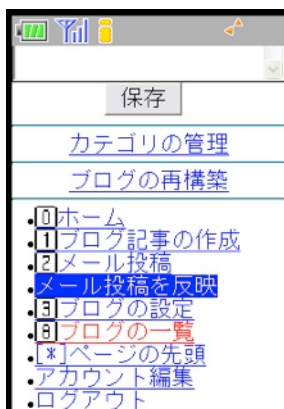
✿メールによるブログ記事の投稿を行うためには、Perl モジュール MIME::Parser がサーバーにインストールされている必要があります。

まず、メールによってブログ記事の投稿を行います。各ページのフッタメニューに設置されている「メール投稿」リンクをクリックすると、メール投稿画面が立ち上がります。



宛先は変更せず、メールの件名にブログ記事のタイトルを、メール本文にブログ記事の本文を入力します。さらに、ファイルを添付したい場合はメールへの添付を行い、そのままメールを送信してください。

次に、メール投稿の反映を行います。各ページのフッタに設置されている、「メール投稿を反映」をクリックすることで、先ほど送信したメールからブログ記事の内容を収集し、ブログ記事として保存されます。



こちらもブログの再構築の場合と同様に、反映処理はバックグラウンドで行われるためすぐに「メール投稿を反映しました」のメッセージが返ってきますので、反映処理が完全に終わるまで待たされるということはありません。

● Mobile プラグインで携帯サイトとして公開する

Mobile プラグインを使うことで携帯電話によるブログの管理を行うことが可能ですが、携帯サイトとして公開することも可能です。この場合は、携帯サイトのためのテンプレートセットを使用することなく、mt-mobile.cgi が単体で携帯サイトとしての機能を果たします。

● Mobile プラグインの設定

システムメニューのプラグイン設定で、「ログインユーザーにのみモバイルアクセスを許可する」のチェックを外した状態で mt-mobile.cgi にアクセスすると、ブログの一覧が表示されます。



この場合、「ブログの一覧」に表示されるのは、該当のブログの「設定」→「全般」で、「会員限定サイトにする」にチェックのないブログのみです。この項目にチェックがある場合、ログインしていないユーザはアクセスすることができないため、一覧に表示されることはありません。

ブログのオーナー

ブログ・ツリー マスターブログ

会員限定サイト 会員限定サイトにする

承認待ち記事の所有者

また、ログインしている会員ユーザであっても、編集権限がないので各設定画面にアクセスすることはできません。編集権限のないブログに関しては、ブログ記事を読む、コメントを投稿するなどの機能に関してのみ利用可能なので、このまま携帯サイトとして公開することも可能です。

※この場合、mt-mobile.cgi がページのブログ記事の表示機能を果たすため、スタティックなファイルは生成されません。スタティックなファイルを構築して会員限定サイトを構築する場合は、テンプレートセットを使用してください。

● 携帯サイトを構築する場合に mt-mobile.cgi に対して送信するパラメータについて

Mobile プラグインは、前述の Members プラグイン、PowerCMSTemplateSetMembers テンプレートセットと併用することでスタティックなファイルを生成しての携帯サイトを構築することができます。そうすることで、通常通り Movable Type 管理画面からテンプレートを編集することが可能になります。この場合、携帯サイトとしての機能のうち、Mobile プラグイン(mt-mobile.cgi)は以下の機能を提供します。

- ・ログイン
- ・ログアウト
- ・簡単ログイン
- ・コメント投稿
- ・アカウント情報の編集
- ・アカウントの作成
- ・カテゴリーの移動

上記機能は PowerCMSTemplateSetMembers テンプレートセットをインストールすることによってすぐに利用可能ですが、カスタマイズを行う場合に必要な、各機能における mt-mobile.cgi へのパラメータの渡し方について解説します。

● 共通

全ての機能において必要なパラメータは以下ようになります。上記のいずれの機能を使用する場合にも、mt-mobile.cgi に対して以下のパラメータを送ってください。

パラメータ名	値	解説
mobile	1	URL パラメータまたは POST 送信されたパラメータに mobile=1 がない場合、mt-mobile.cgi は前述の管理機能として振る舞います。
blog_id	例) 1	該当のブログ ID を設定します。

● ログイン

ログイン機能に必要なパラメータは以下ようになります。

パラメータ名	値	解説
__mode	view	mt-mobile.cgi の動作モードです。
type	login	上記動作モード内での mt-mobile.cgi の振る舞いです。
next_uri	例) http://url/to/blog/mobile/index.php	ログインのあとリダイレクトさせたいページの URL です。mt-mobile.cgi は、URL パラメータ sess_id をつけてこの URL にブラウザをリダイレクトします。

● ログアウト

ログイン機能に必要なパラメータは以下ようになります。

パラメータ名	値	解説
__mode	view	mt-mobile.cgi の動作モードです。
type	logout	上記動作モード内での mt-mobile.cgi の振る舞いです。

パラメータ名	値	解説
sess_id	<\$MTMembersGetSessionID\$> で出力	そのユーザのセッション ID です。このパラメータは、ログインする際に mt-mobile.cgi によって付加されています。
return_url	http://url/to/blog/mobile/index.php?logout=1	ログアウト処理後にリダイレクトさせたい URL です。logout=1 を付加してやることで、<MTMembersLoggedout> タグで囲んだ内容が表示されるようになります。

● 簡単ログイン

ログイン機能に必要なパラメータは以下のようになります。

パラメータ名	値	解説
__mode	login	mt-mobile.cgi の動作モードです。
next_uri	http://url/to/blog/mobile/index.php	ログイン直後に遷移するページの URL です。
easy_access	1	このパラメータが送られている場合、mt-mobile.cgi は簡単ログインによるログインであるものとして振る舞います。

例えばログインリンクを設置する場合、以下のようなテンプレートタグを記述します。

```
<a href="<$MTMobileScript$>?__mode=login&next_uri=<$MTVar name="next_uri" encode_url="1"$>&mobile=1&blog_id=<$MTBlogID$>">ログイン</a>
```

ログアウトリンクを設置する場合、以下のようなテンプレートタグを記述します。

```
<a href="<$MTMobileScript$>?__mode=view&type=logout&blog_id=<$MTBlogID$>&sess_id=<MTIf name="is_dynamic"><$MTMembersGetSessionID dynamic="1"$><MTElse><$MTMembersGetSessionID$></MTIf>&return_url=<$MTVar name="logout_return_url" encode_url="1"$>&mobile=1">ログアウト</a>
```

簡単ログインボタンを設置する場合、以下のようなテンプレートタグを記述します。

```
<form method="post" action="<$MTMobileScript$>" utn="utn">
  <input type="hidden" name="__mode" value="login" />
  <input type="hidden" name="blog_id" value="<$MTVar name="blog_id" escape="html"$>" />
  <input type="hidden" name="next_uri" value="<$MTVar name="next_uri" encode_url="1" escape="html"$>" />
  <input type="hidden" name="mobile" value="<$MTVar name="mobile" escape="html"$>" />
  <input type="hidden" name="return_url" value="<$MTVar name="return_url" encode_url="1" escape="html"$>" />
  <input type="hidden" name="easy_access" value="1" />
  <input type="submit" accesskey="S" value="<__trans phrase="Easy Access">" />
</form>
```

- ✳️ 簡単ログインは、アクセスしてきた機種種の個別情報を判別して、ユーザ名やパスワードの入力なしにログインを行う機能です。
- ✳️ 簡単ログインについては、ログインするユーザが後述する簡単ログイン設定を行っていた場合のみ行うことができます。未設定で簡単ログインを行おうとすると、「機種情報を取得できませんでした」とエラーが出ます。

● コメント投稿

コメント投稿において必要なパラメータは以下のようになります。

パラメータ名	値	解説
__mode	view	mt-mobile.cgi の動作モードです。
type	edit_comment	上記動作モード内での mt-mobile.cgi の振る舞いです。
action	new_comment	新規コメント投稿であることを指定します。
entry_id	<\$MTEnterID\$>	コメント投稿する記事の ID を指定します。
sess_id	<\$MTMembersGetSessionID\$> で出力	そのユーザのセッション ID です。このパラメータは、ログインする際に mt-mobile.cgi によって付加されています。
return_url	例) <\$MTBlogURL\$>mobile/entry/<\$MTEnterID\$>.php?comment_posted=1	コメント投稿後に遷移する URL を指定します。comment_posted=1 を付加することによって、<MTMobileCommentPosted> タグで囲まれた内容が表示されるようになります。

例えば、コメント投稿へのリンクを設置する場合、以下のようなテンプレートタグを記述します。

```
<a
href="<$MTMobileScript$>?__mode=view&amp;type=edit_comment&amp;action=new_comment&amp;entry_id=<$mt:EntryID$>&amp;blog_id=<$mt:BlogID$>&amp;sess_id=<$MTMembersGetSessionID$>&amp;mobile=1&amp;return_url=<$MTVar name="return_url" encode_url="1"$>">コメントする</a>
```

● アカウント情報の編集

アカウント情報の編集において必要なパラメータは以下のようになります。

パラメータ名	値	解説
__mode	view	mt-mobile.cgi の動作モードです。
type	sign_up	上記動作モード内での mt-mobile.cgi の振る舞いです。
action	manage_account	アカウント編集であることを指定します。
sess_id	<\$MTMembersGetSessionID\$> で出力	そのユーザのセッション ID です。このパラメータは、ログインする際に mt-mobile.cgi によって付加されています。

例えば、コメント投稿へのリンクを設置する場合、以下のようなテンプレートタグを記述します。

```
<a
href="<$MTMobileScript$>?__mode=view&amp;type=sign_up&amp;action=manage_account&amp;blog_id=<$MTBlogID$>&amp;sess_id=<$MTMembersGetSessionID$>&amp;return_url=<$MTBlogURL encode_url="1"$>&amp;mobile=1">アカウント情報の編集</a>
```

●アカウントの作成

アカウントの作成において必要なパラメータは以下のようになります。

パラメータ名	値	解説
__mode	view	mt-mobile.cgi の動作モードです。
type	sign_up	上記動作モード内での mt-mobile.cgi の振る舞いです。
action	new_account	アカウントの新規作成であることを指定します。
sess_id	<\$MTMembersGetSessionID\$> で出力	そのユーザのセッション ID です。このパラメータは、ログインする際に mt-mobile.cgi によって付加されています。
next_uri	例) http://url/to/blog/mobile/index.php	アカウント作成後に遷移したい URL を指定します。

例えば、アカウント作成へのリンクを設置する場合、以下のようなテンプレートタグを記述します。

```
<a href="<$MTMobileScript$>?__mode=view&type=sign_up&blog_id=<$MTVar name="blog_id" escape="html"$>&action=new_account&next_uri=<$MTVar name="-next_uri" encode_url="1"$>&sess_id=<$MTMembersGetSessionID$>&mobile=1">アカウントの作成</a>
```

●カテゴリーの移動

カテゴリーの移動において必要なパラメータは以下のようになります。

パラメータ名	値	解説
__mode	category_redirector	mt-mobile.cgi の動作モードです。
sess_id	<\$MTMembersGetSessionID\$> で出力	そのユーザのセッション ID です。このパラメータは、ログインする際に mt-mobile.cgi によって付加されています。
error_return_url	例) http://url/to/blog/mobile/index.php	指定した URL は、カテゴリーが未選択であった場合等、エラーが発生した場合に「元のページに戻る」リンクに付加されます。
id	例) 1	カテゴリー ID を指定します。

例えば、カテゴリーの移動を行うプルダウンメニューを設置する場合、次のようなテンプレートタグを記述します。

```

<form method="post" action="<$MTMobileScript$>" name="select_category">
  <input type="hidden" name="sess_id" value="<$MTMembersGetSessionID$>" />
  <input type="hidden" name="__mode" value="category_redirector" />
  <input type="hidden" name="blog_id" value="<$MTBlogID$>" />
  <input type="hidden" name="mobile" value="1" />
  <input type="hidden" name="error_return_url" value="<$MTVar name="error_r-
return_url" encode_url="1"$>" />
  <select name="id">
    <option value="">カテゴリー</option>
    <MTCategories>
      <option value="<$MTCategoryID$>"><$MTCategoryLabel$></option>
    </MTCategories>
  </select>
<br />
  <input type="submit" value="移動" />
</form>

```

● mt-mobile.cgi が使用しているテンプレートのカスタマイズ

mt-mobile.cgi が使用しているテンプレートは、

```
/path/to/mt/plugins/PowerCMS/tmpl
```

内に格納されています。これらのカスタマイズを行う場合、以下を参照してください。

● mt-mobile.cgi からテンプレートに渡される変数

mt-mobile.cgi は、テンプレート構築の際に複数の変数をテンプレートに渡します。これらは、

```
<$MTVar name="mobile"$>
```

のようにして取り出したり、

```
<MTIf name="mobile"> .... </MTIf>
```

のように、値の有無や比較による表示分岐を行うことができます。このような変数のうち、主要なものを以下に記載します。

変数名	値(例)	解説
user_agent	UP.Browser	アクセスの際の UserAgent が格納されます。主に、Docomo であれば「Docomo」、Au であれば「UP.Browser」、SoftBank であれば「Vodafone」がセットされています。
mobile	1	URL パラメータまたは POST データに mobile パラメータがあれば 1 がセットされます。
script_url	http://url/to/mt/mt-mobile.cgi	mt-mobile.cgi の URL がセットされています。
blog_id	1	ブログ ID です。
entry_id	129	エントリー ID です。コメント投稿の際にセットされています。
sess_id	(セッション ID となる文字列)	セッション ID です。

📱 Mobile プラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTMobileCommentPosted

囲んだ内容は、コメント投稿直後にのみ表示されます。より具体的には、URL にパラメータ `comment_posted=1` がついていない場合にのみ処理されます。携帯用テンプレート以外で使用する場合は、アトリビュート `display_type="php"` を指定してください。

MTMobileFormPosted

囲んだ内容は、フォームからの投稿(PowerCMS 同梱の ExtraForm 機能)直後にのみ表示されます。より具体的には、URL にパラメータ `logout=1` がついていない場合にのみ表示されます。携帯用テンプレート以外で使用する場合は、アトリビュート `display_type="php"` を指定してください。

MTMobileCommentParam

囲んだ内容は、URL にパラメータ `comment=1` がついていない場合にのみ表示されます。後述する `MTMobileNoCommentParam` とともに使用することで、例えば、ブログ記事用のテンプレートで本文だけを表示したり、コメントだけを表示したりする分岐等に使用することができます。

MTMobileNoCommentParam

囲んだ内容は、URL にパラメータ `comment=1` がついていない場合にのみ表示されます。前述の `MTMobileCommentParam` とともに使用することで、例えば、ブログ記事用のテンプレートで本文だけを表示したり、コメントだけを表示したりする分岐等に使用することができます。

MTMobileSortOrderParam

囲んだ内容は、URL パラメータ `sort_order` の値とアトリビュート `eq` で指定した値が等しい場合にのみ表示されます。テンプレートセット内では、コメントの並び順(新しい順/古い順)の分岐のために使われています。

MTMobileLinkConvert

囲んだ内容の中に存在する `a` タグを解析し、外部リンクであると判断される場合にはリンク先をリダイレクトに置き換えます。ユーザはリダイレクト画面を表示してから外部サイトに移動することになりますが、これによってリファラにセッション ID のデータが残らないようにすることができます。

MTMobileSeparateBlock

囲んだ内容は、プラグインの設定「テキストの区切り文字」で設定した文字列で複数のページに区切られ、自動的にページ送りが付加されます。ページが区切られた際に HTML タグが途中で途切れた場合、自動的に補完されます。ページ送りについてカスタマイズしたい場合は、テンプレートモジュール「テキストのページ送り」を編集してください。

MTMobile

表示に必要な PHP スクリプトを出力します。このタグは各テンプレートの冒頭から最後までを囲うように設置してください(ただし、前述の `MTMembersLoginCheck` タグを冒頭に設置する場合は、`MTMembersLoginCheck` タグの次に配置し、`MTMembersLoginCheck` を内容に含めないようにしてください)。

MTMobileRemoveSpace

囲んだ内容の中にある余分なスペースを削除します。これにより、通信の際のデータ量をより少なくすることができます。アトリビュート `remove_return` に `1` を指定すると、改行も削除します。

MTMobileStripLinefeeds

囲んだ内容の中にある改行を削除します。この効果はグローバル・モディファイア strip_linefeeds と全く同じですが、このタグを使用することにより、任意の範囲の改行を削除することができます。また、改行を削除することにより、通信の際のデータ量をより少なくすることができます。

MTMobileCommentPager

複数投稿されたコメントを分割し、ページ送りにするためのタグです。このタグは MTComments ブロックタグの外側に設置し、MTComments ブロックタグを閉じる直前に MTMobileCommentSeparator ファンクションタグを設置してください。以下は簡単な記述例です。

```
<MTMobileCommentPager>
  <MTComments sort_order="descend">
    <$MTCommenterName escape="html"$><br />
    <$MTCommentBody$>
    <$MTMobileCommentSeparator$>
  </MTComments>
</MTMobileCommentPager>
```

● **ファンクションタグ****MTAccesskey**

アトリビュート num に 0 から 9 の数字を指定することで、キャリアに対応したショートカットキーの絵文字を表示します。

✳️ MTAccesskey タグは主に mt-mobile.cgi で使用するテンプレート内で使用されることが想定されています。MT テンプレート内で使用する場合は、後述する MTMobileAccesskey タグを使用してください。

MTSessionID

セッション ID を取得して表示します。

✳️ MTSessionID タグは主に mt-mobile.cgi で使用するテンプレート内で使用されることが想定されています。MT テンプレート内で使用する場合は、Members プラグインが提供する MTMembersGetSessionID タグを使用してください。

MTMobileCharset

アクセス元の機種に応じた文字コードを出力します。第三世代の携帯電話であればプラグイン設定の「データベースの文字コード」を、それ以前の携帯電話であれば Shift_JIS を出力します。

MTMobileAccesskey

アトリビュート key に 0 から 9 の数字を指定することで、キャリアに対応したショートカットキーの絵文字を表示します。MT テンプレート内で使用する場合は、前述の MTAccesskey タグではなく、こちらを指定してください。

MTMobileMetaCharset

アクセス元の機種に応じた meta タグを出力します。例えば、第三世代より前の携帯電話からのアクセスの場合、以下のように出力します。

```
<meta http-equiv="Content-type" content="text/html; charset=Shift_JIS" />
```

MTMobileDoctype

アクセス元の機種およびキャリアに応じた DOCTYPE 宣言を出力します。例えば、Docomo の第三世代以降の携帯電話からのアクセスの場合、以下のように出力します。

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//i-mode group (ja)//DTD XHTML i-XHTML(Locale/Ver.=ja/1.1) 1.0//EN" "i-xhtml_4ja_10.dtd">
```

MTMobileNoCache

アクセス元のキャリアに応じた meta タグを出力します。例えば、Au の場合に以下のように出力します。

```
<meta http-equiv="Cache-Control" content="no-cache" />
```

MTMobileCommentSeparator

MTMobileCommentPager ブロックタグを組み合わせで使用します。このタグは MTMobileCommentPager タグがコメントのページ送りを実現するためのコメントの区切り文字を出力しますが、実際にページが表示される際には削除されますので、実質的には何も表示しません。

標準オプションプラグイン

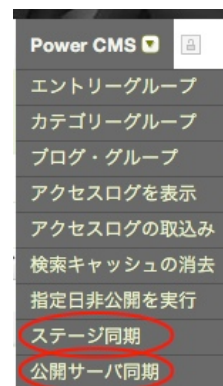
このセクションでは、OptionPluginsフォルダに含まれているオプションプラグインについて解説します。プラグインを有効にするには、OptionPlugins以下の必要なプラグインフォルダをmtディレクトリのpluginsディレクトリ直下にコピーします。

Copy2Publicプラグイン (ステージングサーバー→公開サーバーへのデータの転送)

Movable Typeによって生成された静的ファイルをテストサーバー(ステージングサーバー)、公開サーバーへ更新されたファイルをコピーするインターフェイスを提供します。

このプラグインを利用することにより、承認→テストサーバー(ステージングサーバー)でのテスト公開→公開サーバーへの反映、といったワークフローが実現できます。

- ✳このプラグインは、静的生成されたファイルの転送・同期を行うため、コミュニケーション機能(コメント/トラックバック/フォーム機能)や検索機能がそのままでは利用できないことに注意してください。
- ✳FTPによるファイル転送を行うには、PerlモジュールNet::FTPが必要です。
- ✳Copy2Public/log ディレクトリにMTから書き込み可能である必要があります。
- ✳このプラグインはデータのコピーやFTPアクセスを伴うため、プラグインのインストール後には必ず設定を行ってください。また、運用の前に十分なテストを行っていただくことをおすすめします。
- ✳テストサーバー、公開サーバーでのリンク切れを防ぐため、Abs2Relプラグイン(リンクを相対パスに変換)をあわせて有効にしてください。
- ✳データの整合性のため、「管理画面のロック」を実行してから移行を行うことをお勧めします。



MT環境

(同一サーバー上のバーチャルホスト)



ステージングサーバ



公開サーバ

(FTP サーバー)

更新タイムスタンプについて

アップロードするファイルについてはplugins/Copy2Public/log/以下のファイルのタイムスタンプと比較して新しいもののみを対象とします。テスト環境へのアップについては「staging_(blog_id).log」、公開環境へのアップは

「publish_(blog_id).log」をチェックします(よって、このファイルを削除するとすべてのファイルがアップロード対象になります)。logディレクトリにはMTから書き込みが可能である必要があります。

● プラグイン設定

設定は各ブログの「設定」→「プラグイン」→「Copy2Public」の設定で行います。

設定項目	解説	備考
ステージングサーバ	テストサーバ(同一ディスク上のバーチャルホスト用ディレクトリ)への転送を行う場合、チェックしてください。	※「テストサーバ」のチェックを外し「FTPサーバ」のチェックを入れるとMT環境から直接FTP転送します。
FTPサーバ	FTPサーバ(リモートサーバ)への転送を行う場合、チェックしてください。	
ステージングサーバのルート	MT環境からテストサーバへコピーする際のコピー先をフルパスで指定します。	設定例: /home/server2/public_html ※MTから書き込みが可能である必要があります。 ※パスの区切り文字はスラッシュでもバックスラッシュでもかまいません。
ステージングサーバのURL	テストサーバのサイトURLを指定します。	設定例: http://staging.example.com/
公開対象外のパス	テストサーバへ転送したくないパスをカンマ区切りで指定します(前方一致)。	設定例: /mt/templates_c/cache/.htaccess ※「ステージングサーバのルート」の設定と異なり、パスの区切り文字はスラッシュで指定してください(Windowsサーバでもスラッシュで指定してください)。 ディレクトリを指定したい場合は「/img/」のように指定してください。
対象外のファイル拡張子	テストサーバへ転送したくないファイルの拡張子をカンマ区切りで指定します(完全一致)。	設定例: db,php,pl,cgi
ステージングサーバ上の削除対象外パス	テストサーバ上から削除したくないパスをカンマ区切りで指定します(前方一致)。	設定例: /cgi-bin ※「ステージングサーバのルート」の設定と異なり、パスの区切り文字はスラッシュで指定してください(Windowsサーバでもスラッシュで指定してください)。 ディレクトリを指定したい場合は「/img/」のように指定してください。
公開サイトのURL	公開サーバのサイトURLを指定します(FTP転送先のサーバのhttpアクセスURL)。	設定例: http://www.example.com/
アップロード先のWebドキュメントルート	FTPサーバのドキュメントルートを指定します。	設定例: /var/www/html
FTP設定(システム設定を適用する)	チェックを入れることにより、FTP転送の設定をシステムプラグイン設定で指定した情報を適用します。各ブログの転送先が共通の場合、設定を簡略化することができます。	※システム設定を利用した場合、ダイレクトアップロードはできません
FTPサーバ名	FTPアクセスのためのサーバ名又はIPアドレスを指定します。	設定例: 192.168.11.19
ユーザーID	FTPアクセスのためのユーザーアカウント(ID)を指定します。	
パスワード	FTPアクセスのためのパスワードを指定します。	
アップロード先パス	FTPログインした時の作業(転送先)ディレクトリを指定します。	設定例: /upload

設定項目	解説	備考
ログファイルのアップロード先パス	転送ログのアップロード先を指定します。	FTP転送ファイルリスト及び削除されたファイルのリストをあわせてFTP転送し、FTPサーバー側のタスク実行によって更新を反映できます。
アップロード	テンポラリ領域へアップロード(推薦)、ダイレクト・アップロードから選択できます。 ※テンポラリ領域では、指定のディレクトリ以下に「YYYYmmddhhmmdd_blog_id」というディレクトリを作成して転送を行います(複数のBlogで同じパスを指定しても重複しない)。	FTP転送が途中でエラーとなった場合等に意図しない状態でサイトが公開されるのを防ぐため、テンポラリ領域へアップロードした上でログファイルにより転送の成功を確認してから公開サーバー上のタスク(同梱のスクリプト)によってサイトを公開することをお勧めします。 また、ダイレクト・アップロードを選択した場合、アップロードは実行のたびに行われますが、ファイルの削除には次ページの「公開サーバでのファイルの同期について」の項目で解説している「Copy2Public/tools/do-synchronize」が実行された場合のみ行われます。
公開サーバのOS	転送先サーバーのOS(Unix/Windows)を指定します。	
公開サーバー上の削除対象外パス	FTP転送先サーバーでタスクによる同期の際、削除したくないファイル/ディレクトリのパスをカンマ区切りで指定します(前方一致)。	※「ステージングサーバのルート」の設定と異なり、パスの区切り文字はスラッシュで指定してください(Windows サーバでもスラッシュで指定してください)。 ディレクトリを指定したい場合は「/img/」のように指定してください。
ステージング反映指定	ステージングサーバーへのコピーが日時指定予約されている際にチェックが入ります。	通常はメニューからの実行で設定されるためここから設定する必要はありません(確認用)。
反映指定日時	タスクの実行時刻です (YYYYmmddhhmmdd形式)	通常はメニューからの実行で設定されるためここから設定する必要はありません(確認用)。
公開サーバー反映指定	FTPサーバーへの転送が日時指定予約されている際にチェックが入ります。	通常はメニューからの実行で設定されるためここから設定する必要はありません(確認用)。
反映指定日時	タスクの実行時刻です (YYYYmmddhhmmdd形式)	通常はメニューからの実行で設定されるためここから設定する必要はありません(確認用)。
ログの消去	アップロード・ログを消去します。	前回アップロード以後に更新されたファイルの判断にはログファイルのタイムスタンプを基準にしています。ログファイルを消去すると、次の同期は全ファイルを対象に行われます。

●環境変数の設定

環境変数は mt-config.cgi へ記述して設定を行います。

設定項目	解説	初期値
AllowCopy2PublicStagingRoot	ステージ同期先に指定可能なパス(前方一致)を指定します。ここに設定しているパスと前方一致しないパスへの同期を行う事はできません。	/tmp
AllowCopy2PublicPublishRoot	公開同期先に指定可能なパス(前方一致)を指定します。ここに設定しているパスと前方一致しないパスへの同期を行う事はできません。	/tmp
AllowCopy2PublicDirectSync	1を設定すると同期の際に ID/パスワード を要求しません。 magic_token によるチェックと権限があれば即時に同期を実行します。	0

●転送の実行について

システムメニューから実行した時は複数のブログを一気に転送することができます。各ブログのメニューから実行した時は、該当するブログのみ候補に現れます。

転送が可能なのは、プラグイン設定でそれぞれの転送を行うチェックが入っていて、且つユーザーがブログに対する管理者権限を有している場合のみです。



●公開サーバでのファイルの同期について

テンポラリ領域へアップロードしたデータを、公開サーバに設置したPerlスクリプトの実行によってWebドキュメントルートに反映することが出来ます(Copy2Public/tools/do-synchronize)。

テンポラリ領域への転送では「YYYYymmddhhmmdd_blog_id」というディレクトリを作成してそこへデータを転送します。do-synchronizeスクリプトはログファイルを確認してWebドキュメントルートへの反映を行います。

スクリプトの実行は、公開サーバでcronやWindowsタスク・スケジューラを利用してください。

スクリプトでは、FTP転送されたログを見て反映するファイル・削除するファイルを判断します。ログが転送されるのはすべてのファイルがアップロードされた後ですので、FTP転送が途中でエラーとなった場合などに意図しない状態でサイトが公開されることを防ぐことができます(逆にダイレクトアップロードでは、エラー発生した場合のリカバリが行えないため、テンポラリ領域への転送→公開サーバでのタスク実行での運用をお勧めします)。

crontabへの登録の例(20分おきのタスク実行):

```
0,20,40 * * * * cd <path to tools> ./do-synchronize
```

do-synchronizeスクリプト設置の際には、テキストエディタ等で以下の項目を設定してください

設定項目	解説	設定例
1行目	サーバーのPerlのパスにあわせて適宜変更してください。	#!/usr/bin/perl -w
5行目(\$logs_dir)	ログファイルのパスを指定します。	‘/var/www/log’;
6行目(\$upld_dir)	データのアップロードパスを指定します。	‘/var/www/upload’;
7行目(\$sync_log)	タスク実行をログファイルに保存する場合、ログファイルのパスを記述してください	設定例: ‘/var/www/task-log/sync.log’;

● FullTextSearchプラグイン (MySQL FULLTEXT(全文)検索)

MySQLのFULLTEXT(全文)検索機能を使った高速な検索を行うためのプラグインです。

MySQLのFULLTEXT(全文)検索機能が扱えるバージョンである必要があります。

MeCab を利用した検索対象文字列の分かち書きを行うため、日本語を対象としたFULLTEXT検索が行えます。MeCab (及びPerlのMeCabモジュール) のインストールが必要です。

MeCab: Yet Another Part-of-Speech and Morphological Analyzer (<http://mecab.sourceforge.net/>)

● 設定方法

(1) プラグインの設置とデータベースのアップグレード

プラグインを設置してログインすると、データベースのアップグレードが開始され新たに mt_fulltext テーブルが追加されます。

(2) 「FULLTEXT(全文)」 インデックスの設定

mt_fulltext テーブルのフィールド「fulltext_fulltext」に対して「全文」インデックスを有効にします。

```
ALTER TABLE `mt_fulltext` ADD FULLTEXT (
  `fulltext_fulltext`
)
```

※PhpMyAdminを利用すればブラウザから設定することも可能です。



(3)プラグインの設定

システムのメニュー「設定」→「プラグイン」から「FullTextSearch」の設定で以下の3項目を設定します。

設定項目	解説	設定例
ブログ記事検索テンプレート	検索対象に含める項目が検索インデックスに登録されるようにテンプレートタグを指定します。 タグ属性「fulltext_filter」を指定するとタグやJavaScript等検索に不要な部分をカットします(画像のalt属性は検索対象になります)。 拡張フィールドの内容を検索対象に含めたい場合、ここに拡張フィールドを含めるようにテンプレートタグを記述します。	<pre><\$MTEnterTitle fulltext_filter="1"\$> <\$MTEnterExcerpt fulltext_filter="1"\$> <\$MTEnterBody fulltext_filter="1"\$> <\$MTEnterMore fulltext_filter="1"\$> <\$MTEnterKeywords fulltext_filter="1"\$></pre>
ページ検索テンプレート	検索対象に含める項目が検索インデックスに登録されるようにテンプレートタグを指定します。(ブログ記事検索テンプレートと同様)	<pre><\$MTPageTitle fulltext_filter="1"\$> <\$MTPageExcerpt fulltext_filter="1"\$> <\$MTPageBody fulltext_filter="1"\$> <\$MTPageMore fulltext_filter="1"\$> <\$MTPageKeywords fulltext_filter="1"\$></pre>
MeCabのパス	サーバーにインストールされているMeCabのパスを記述します。	/usr/local/bin/mecab

(4)インデックスの更新

システム又は各ブログのメニュー「ツール」→「インデックスの更新」を選択して実行します。

以後、各エントリーを新規作成/保存又は更新した際に検索インデックスが更新されます。インデックスをすべてクリアして新たに検索インデックスを作成したい場合は再度この操作を行ってください。



※インデックスの更新時に MeCab を利用して日本語文の分かち書きを行うため、多くのメモリを必要とします。十分なメモリが用意されていない環境ではCGIが500エラーとなる可能性があります。この場合、プラグイン設定でテンプレートをシンプルにして検索対象となるテキスト量を減らすことでエラーを回避できるかもしれません。

●検索方法

- ・ダイナミック検索 (search.html 及び feed.xml) を利用した検索リクエストに「fulltext=1」クエリを追加すると、FULLTEXT(全文)検索が実行されます。ダイナミック検索については「ダイナミック検索」の項を参照してください。
- ・検索結果の表示順(sort_order, sort_by) の指定を省略することで、FULLTEXT(全文)検索のマッチ順に検索結果を表示できます。

Power CMS for MT Enterpriseの機能

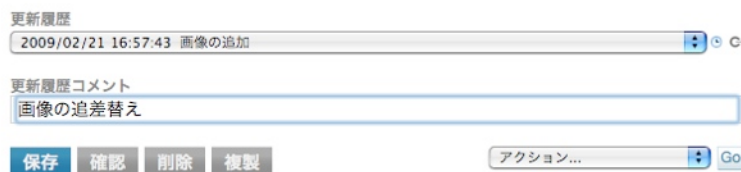
● エントリーのリビジョン管理とロールバック

PowerRevisionプラグインによってブログ記事(ウェブページ)を無制限にバージョン管理できるようになります。エントリーのデータの他、エントリーに含まれる画像等のアイテムも同時にバックアップ/復帰が可能です(コメントやトラックバックのバックアップ/復帰は行われません)。


● リビジョンの保存

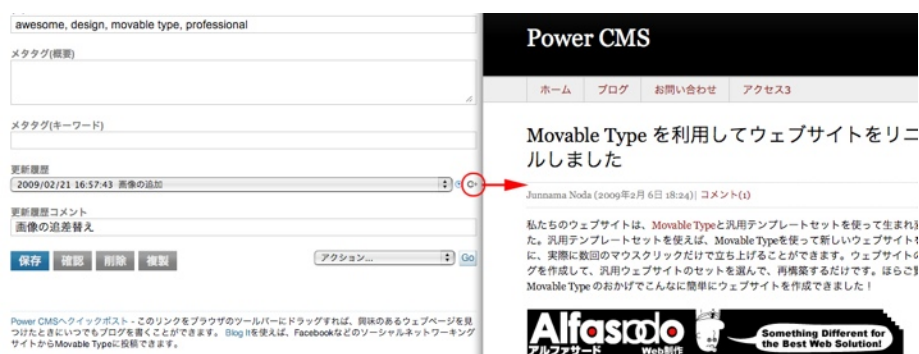
ブログ記事/ウェブページの更新を行うと自動的にバックアップデータが作成されます。リビジョンデータはエントリー編集画面の最下部(保存/確認等のボタンの上)にドロップダウンメニューとして表示されます。

「更新履歴コメント」を入力することでリビジョンにコメントを付けることも出来ます。




● リビジョンデータのプレビュー

ドロップダウンメニューからプレビューしたいバージョンを選択し、メニュー右側の  アイコンをクリックすると、別ウィンドウでリビジョンデータのプレビューが表示されます。





● バックアップからの復帰

ドロップダウンメニューから復帰させたいバージョンを選択し、メニュー右側の  アイコンをクリックすると、バックアップデータからエントリーを復帰します。含まれる画像等が既に削除されていた場合、アイテムも同時に復帰します。



復帰された直後はエントリーは再構築されていません。保存ボタンをクリックすることで再構築されます。復帰を取り消す場合は、「ブログ記事を直前の状態に戻す」リンクをクリックしてください。

 ブログ記事をバックアップから復元しました。サイトに反映するために、ブログ記事を保存して再構築してください。(ブログ記事を直前の状態に戻す) 

● リビジョンデータの管理

「一覧」メニュー→「リビジョン」を選択すると、バックアップされたリビジョンデータの一覧を表示します。この画面から、リビジョンデータのプレビュー、復帰、削除が出来ます。既に削除されたエントリーも表示されますので、削除済みのエントリーを復元することができます。タイトルと更新履歴コメントから検索したり、エントリーの種類(ブログ記事/ウェブページ)やオリジナルの有無(削除済みかどうか)等による絞り込みも可能です。



状態	復元	タイトル	種類	更新履歴コメント	作成日	更新日	表示
<input type="checkbox"/>		Movable Type を利用してウェブサイトをリニューアル...	ブログ記事		2009年02月20日 15:25:14	2009年02月21日 17:15:49	
<input type="checkbox"/>		Movable Type を利用してウェブサイトをリニューアル...	ブログ記事	画像の追加	2009年02月21日 16:57:43	2009年02月21日 16:57:43	
<input type="checkbox"/>		承認待ちブログ記事	ブログ記事		2009年02月21日 15:49:20	2009年02月21日 15:49:20	
<input type="checkbox"/>		複製4	ブログ記事		2009年02月13日 19:25:43	2009年02月13日 19:25:43	
<input type="checkbox"/>		複製3	ブログ記事		2009年02月13日 19:25:10	2009年02月13日 19:25:10	
<input type="checkbox"/>		複製3	ブログ記事		2009年02月13日 19:24:45	2009年02月13日 19:24:45	

- ・ アイコンをクリックすると、現バージョンのエントリーの編集画面を表示します。
- ・ アイコンは、既に削除されたエントリーのリビジョンデータであることを表します。
- ・ アイコンをクリックすると、別ウィンドウでプレビューを表示します。
- ・ アイコンをクリックすると、バックアップされたリビジョンデータから復帰します。

📌 既存HTMLからのインポート

既存のHTMLやXML等のファイルから、Movable Typeのウェブページ(ブログ記事)へインポートすることができるため、サイトリニューアル等の際、過去のコンテンツ資産を有効に再利用できます。

● インポートの準備

ブログのサイト・パス以下の任意の場所に、取込み対象のファイル(HTML等)をあらかじめ設置しておきます。HTML内で利用されている画像等をあわせて設置しておくことでインポートと同時にアイテムとして登録することができます。

● インポートの設定

各ブログの「ツール」メニューから「インポート」を選択し、インポート元「既存のHTMLページ」を選択します。

インポート

他のMovable Typeやブログツールからブログ記事を移行したり、ブログ記事のコピーを作成します。

インポート先 Power CMS (1)

インポート元 既存のHTMLページ

エントリー パーマリンクが同一のページを上書きする
 ブログ記事としてインポート ウェブページとしてインポート

インポート対象のファイル拡張子(カンマ区切り)

インポート・ルート

インポート対象外のパス(前方一致)

抽出開始,終了文字のセパレータ

タイトル 正規表現

本文 正規表現

追記 正規表現

概要 正規表現

キーワード 正規表現

カテゴリ フォルダ(カテゴリ)を作成する
 エントリーをすべての親フォルダ(カテゴリ)に属するようにする

設定 設定を保存する

インポートしたブログ記事の所有者 自分のブログ記事としてインポートする
 ブログ記事の著者を変更しない

インポートファイルをアップロード (オプション)
ファイルを選択 ファイルが選...ていません

▶ その他のオプション

ブログ記事のインポート

設定項目	解説	設定例
パーマリンクが同一のページを上書きする	インポート元ファイルのURLが既存のウェブページ(ブログ記事)のパーマリンクと同じ場合、そのエントリーを上書きするかたちでインポートします。このチェックを入れることで、インポートのリトライを繰り返すことが可能になります(あわせて「フォルダ(カテゴリ)を作成する」を指定する必要があります)。 ウェブページとして取込む場合、ウェブページのアーカイブマッピングの設定を以下のように設定してください。 <mt:folderPath>/<mt:pagebasename>.html	
ウェブページ(ブログ記事)としてインポート	デフォルトではウェブページとしてインポートを行います。	
インポート対象のファイル拡張子(カンマ区切り)	インポート対象のファイルの拡張子を指定します。カンマ区切りで複数の種類のファイルを指定することもできます。	html,php
インポート・ルート	インポート対象のファイルが設置しているルート・パスをサーバー上のフルパスで指定します。	/var/httpd/html/ import_root/
インポート対象外のパス(前方一致)	インポート対象外のパスを指定します。カンマ区切りで複数指定も可能です。	/var/httpd/html/ import_root/cgi-bin
抽出開始,終了文字のセパレータ	開始文字と終了文字を指定してフィールド値の抽出を行う場合に開始文字と終了文字の区切文字を指定します。例えば「,」(カンマ)を指定して、タイトルを<title>,</title>と指定した場合、HTMLのタイトル要素をエントリーのタイトルとしてインポートします。	,
各フィールド(タイトル, 本文, 追記, 概要, キーワード)	エントリーの各フィールドの抽出条件を指定します。正規表現にチェックが入っている場合は正規表現、チェックのない場合は「抽出開始,終了文字のセパレータ」として指定した区切り文字の前後のテキストの間の文字列を該当するフィールドにインポートします。	<div\class="asset\body">(.*)</div>
フォルダ(カテゴリ)を作成する	インポート時にフォルダ(カテゴリ)を<mt:folderPath>/<mt:pagebasename>.html となるように自動生成します(ウェブページとして取り込む場合)。ブログ記事としてインポートする場合はカテゴリが階層化されて作成されます。	
エントリーをすべての親フォルダ(カテゴリ)に属するようにする	フォルダ(カテゴリ)を作成する際に、インポートによって作成されたエントリーはすべてのフォルダ(カテゴリ)に属することになります。この場合、最下層のフォルダ(カテゴリ)がプライマリフォルダ(カテゴリ)になります。	
設定を保存する	インポート設定を保存します。「パーマリンクが同一のページを上書きする」にあわせてチェックを入れることで、リトライを繰り返すことができます。	
インポートしたブログ記事の所有者	この設定に意味はありません。すべてインポートしたユーザーが所有者となります。	
インポートファイルをアップロード (オプション)	サーバー上のファイルのフルパスが1ファイル1行に記述されたファイルをアップロードすれば、リストのファイルのみを対象としたインポートを行います。	

● アイテムの同時取り込み

エントリーのインポートと同時にページに含まれる画像等を同時に「アイテム」として取り込むことができます。

アイテムへの登録はSidebarImageプラグインが行います。

インポートするブログのプラグイン設定のSidebarImageの設定で、「アイテムのパスを絶対パスに変換(常に変換)」 「絶対パス変換時にアイテムへ登録する」の2つにチェックが入っている必要があります。

● プラグインによる拡張

エントリーのインポート直後に発行されるコールバックに呼応して動作する外部プラグインを作成することで、カスタムフィールドへのデータ投入等を同時に行うことができます。

コールバック	パラメタ	解説
cms_post_save.category cms_post_save.folder	\$cb, \$app, \$obj, \$original	インポート時にフォルダ、カテゴリが保存された直後に実行されます。このコールバックは、cms_post_save.page(entry)よりも前に実行されます。
cms_post_save.page cms_post_save.entry	\$cb, \$app, \$obj, \$original	ウェブページ、ブログ記事が保存された直後に実行されます。
cms_post_import.entry cms_post_import.page	\$cb, \$app, \$entry, \$path, \$data	\$entryにはインポート時に作成されたエントリー、\$pathにはインポート元のファイルのフルパス、\$dataにはインポートファイルのデータが丸ごと格納されて渡されます。このコールバックは、cms_post_save.page(entry)の直後に実行されます。

以下の例はHTMLから本文を抽出するPerlモジュールHTML::ExtractContentを利用してウェブページの本文に抽出したテキストをインポートするサンプルです。

プラグインの例:

```
package MT::Plugin::ExtractContent;
use strict;
use MT;
use MT::Plugin;

use base qw( MT::Plugin );

@MT::Plugin::ExtractContent::ISA = qw( MT::Plugin );

my $plugin = new MT::Plugin::ExtractContent ( {
    name => 'ExtractContent',
} );

MT->add_plugin( $plugin );

sub init_registry {
    my $plugin = shift;
    $plugin->registry ( {
        callbacks => {
            'cms_post_import.page'
                => \&_cms_post_import,
        },
    } );
}

sub _cms_post_import {
    my ( $cb, $app, $entry, $path, $data ) = @_;
    use HTML::ExtractContent;
    my $extractor = HTML::ExtractContent->new;
    $extractor->extract( $data );
    my $text = $extractor->as_html;
    $entry->text( $text );
    $entry->save or die $entry->errstr;
}

1;

# HTML::ExtractContent - search.cpan.org
# http://search.cpan.org/dist/HTML-ExtractContent/
```

📍 リモートバックアップ

定期的にデータベースのダンプとドキュメントルート以下のファイルバックアップを同時に行い、Movable Typeの完全なバックアップを実現します。バックアップしたデータをFTPで転送することも可能です。

● バックアップの実行

バックアップは/toolsディレクトリのスクリプト run-backup-sql-and-docs を実行することで実行されます。

例) 午前 4 時にバックアップを実行する場合の cron ジョブの設定例([MT_DIR] は、MT をインストールしたディレクトリです)

```
0 4 * * * cd [MT_DIR ]; ./tools/run-backup-sql-and-docs
```

● バックアップ設定

バックアップの設定についてはRDBMSによって異なります。設定はシステムプラグイン設定の「Backup Configuration」プラグインの設定から行います。

Backup Configuration 1.0
✔ 利用可能 (無効化)

🔍 詳細
🏠 設定

SQL SQLデータベースのダンプをバックアップする

ドキュメント ドキュメント・ルート以下をバックアップする

ZIP圧縮 SQLファイルをZIP圧縮する

mysqldump(pg_dump | exp | sqlcmd)コマンドのパス

SQLオプション

SQLファイルのバックアップ先

ドキュメントバックアップ対象(カンマ区切り)

ドキュメントルートのバックアップ先

差分バックアップ 差分バックアップ

バックアップ除外パス カンマ区切り (正規表現)

FTP転送 バックアップデータをFTP転送する

バックアップの削除 FTP転送が成功したらバックアップファイルを削除する

FTPサーバー名

ディレクトリ(CWD)

ユーザーID

パスワード

最終バックアップ (Unix time)

変更を保存

● バックアップに関する設定

設定項目	解説
SQLデータベースのダンプをバックアップする	データベースのダンプデータをバックアップします。 データベースがSQLiteの場合、ダンプデータではなくデータベースファイルそのものをバックアップします。
ドキュメント・ルート以下をバックアップする	ドキュメント・ルート以下のファイルをzip圧縮してバックアップします(Perlモジュール Archive::Zipが必要です)。
SQLファイルをZIP圧縮する	SQLのダンプファイルをzip圧縮してバックアップします(Perlモジュール Archive::Zipが必要です)。
mysqldump(pg_dump exp sqlcmd)コマンドのパス	MySQLの場合 mysqldumpコマンドのパスをフルパスで記述します。例) /usr/bin/mysqldump PostgreSQLの場合 pg_dumpコマンドのパスをフルパスで記述します。例) /usr/bin/pg_dump Microsoft SQL Serverの場合 pg_dumpコマンドのパスをフルパスで記述します。例) C:\Program Files\Microsoft SQL Server\90\Tools\Binn\SQLCMD.EXE Oracleの場合 expコマンドのパスをフルパスで記述します。例) /usr/bin/exp ※SQLiteの場合は指定の必要はありません。
SQLオプション	各コマンドに対する必要なコマンドオプションを記述します。尚、ユーザー名やパスワードについてはmt-config.cgiから値を取得しますので記載の必要はありません。各コマンドのコマンドのオプションについては各データベースのドキュメントを参照してください。 MySQLの場合 例) --first-slave --compact --add-drop-table ※データベース内のテーブルを全てロック、コメントを抑制、DROP TABLEステートメントをCREATE TABLEステートメントの前に追加
SQLファイルのバックアップ先	バックアップファイルの保存先をフルパスで記述します。同名のファイルが既に存在した場合は上書きされます。パスの指定にはMTタグが使用できます。 例えば、 /tmp/<mt:date format="%Y%m%d%H%M%S">.sql と指定した場合、/tmp/20090219000000.sql のようにバックアップ時刻をファイル名に含めることが出来ます。また、 /tmp/<mt:date format="%a">.sql のように、曜日指定することで、/tmp/Mon.sql のように曜日毎にバックアップファイルが作成されるため、1日1回実行することで一週間分のローテーションでバックアップが可能です。
ドキュメントバックアップ対象(カンマ区切り)	バックアップするドキュメントのルート・パスをフルパスで記述します。複数指定する場合はカンマで区切ります。
ドキュメントルートのバックアップ先	ドキュメントルート以下のファイルをZip圧縮したアーカイブの保存場所を指定します。MTタグが利用できます。例) /tmp/<mt:date format="%Y%m%d%H%M%S">.zip
差分バックアップ	チェックを入れると前回バックアップ実行時以降に更新されたファイルのみを対象にバックアップを行います(ファイルのタイムスタンプで判断します)。
バックアップ除外パス	バックアップ除外するファイル、フォルダのパスに含まれる文字列を正規表現で指定します。例えば「\」と指定すると、「.(ドット)」で始まるファイルを除外します。

●各データベースに関する特記事項

PostgreSQLの場合

PostgreSQLでは、バックアップを実行するユーザーのホームディレクトリに .pgpassファイルを作成する必要があります。 .pgpassファイルを作成するにはバックアップを実行するユーザーとしてログイン後以下のコマンドを実行します。

```
# vi ~/.pgpass
```

.pgpassファイル内に以下のように記述します。

```
*:*:*:DB名:パスワード
```

viを終了後、.pgpassファイルのパーミッションを変更します。

```
chmod 600 vi ~/.pgpass
```

設定後、バックアップスクリプトを実行して、バックアップが正常に実行されることを確認してください。

```
cd [MT_DIR ]; ./tools/run-backup-sql-and-docs
```

Microsoft SQL Server 2005の場合

SQL Serverでリモートバックアップを利用する場合は、ActiveState社のActivePerlを利用する必要があります。

Windows Serverに、バックアップを実行するユーザーを作成します。このユーザーは、SQLServer2005MSSQLUser\$<コンピューター名>\$MSSQLSERVER グループに属するようにします。Userグループに属している必要はありません。

次に、[SQLファイルのバックアップ先]として指定するディレクトリで、フォルダのプロパティを表示し、セキュリティタブを選択します。ここで、SQLServer2005MSSQLUser\$<コンピューター名>\$MSSQLSERVER グループに対して変更権限を設定します。

その後、Windows Serverのタスクを作成します。以下の点に注意が必要です。

設定項目	解説
実行するファイル名	“<per.exeへのパス> tools\run-backup-sql-and-docs”と指定します。 例) C:\Perl\bin\perl.exe tools\run-backup-sql-and-docs
開始	Movable Typeがインストールされているパスを指定します。 例) "C:\Program Files\Movable Type Enterprise\"
実行するアカウント名	バックアップ用に作成したアカウントを指定します。パスワードの入力が必要です。

Oracle Database 10g for Microsoft Windows の場合

Windows Serverに、バックアップを実行するユーザーを作成します。このユーザーは、Backup Operators グループに属するようにします。Userグループに属している必要はありません。

次に、[SQLファイルのバックアップ先]として指定するディレクトリで、フォルダのプロパティを表示し、セキュリティタブを選択します。ここで、Backup Operators グループに対して変更権限を設定します。

その後、Windows Serverのタスクを作成します。注意すべき点については、「Microsoft SQL Server 2005の場合」と同じ設定値を指定します。

●FTPに関する設定

設定項目	解説	設定例
バックアップデータをFTP転送する	バックアップ後、バックアップデータをFTPプロトコルを使用して転送します。同名のファイルが転送先に存在した場合、上書きします。	
FTP転送が成功したらバックアップファイルを削除する	FTPによる転送が成功後、ディスク上に生成されたバックアップデータを削除します。バックアップデータはFTP転送されたサーバに保存されます。	
FTPサーバー名	FTPアクセスのためのサーバー名又はIPアドレスを指定します。	192.168.11.19
ディレクトリ(CWD)	転送先ディレクトリを指定します。	/backup
ユーザーID	FTPアクセスのためのユーザーアカウント(ID)を指定します。	username
パスワード	FTPアクセスのためのパスワードを指定します。	password

●その他の設定

設定項目	解説
最終バックアップ(Unix time)	差分バックアップのために最終バックアップタイムスタンプが自動的に設定されます。最終バックアップ時刻をクリアして、再度フルバックアップを作成する場合は値を空にして設定を保存してください。 通常は設定する必要はありません。

●エンタープライズ検索

PowerCMSにはPHP+SQLの高速検索が標準で付属していますが、別途インデックス型の検索エンジン Hyper Estraierを利用したインデックス型検索をサポートします。

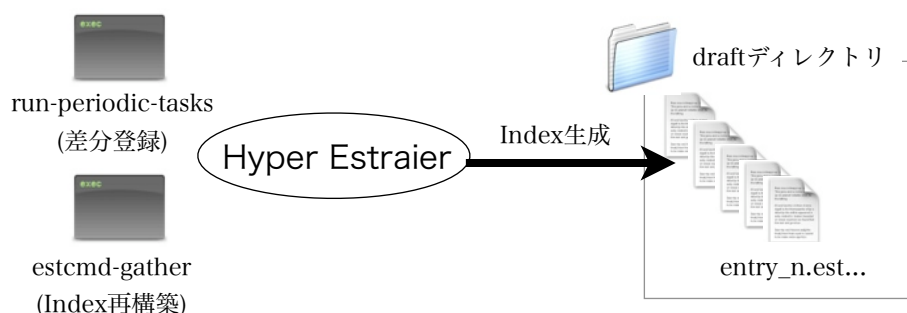
PowerCMSでは、HyperEstraierの検索インデックスをタスクで実行するプログラム及び検索結果を出力するためのMovable Typeテンプレートタグを提供します。

※全文検索にはサーバーにHyper Estraier 及び Perlモジュール Estraier が必要です。

全文検索システム Hyper Estraier (<http://hyperestraier.sourceforge.net/index.ja.html>)

●検索インデックスの作成

Movable Typeによって生成されるブログ記事／ウェブページは、Power CMSのテンプレートによって文書ドラフト(Hyper Estraierの独自のファイル形式)に変換されます。各種設定(mt-config.cgi及びPowerSearchプラグインの設定を適切に行った後、[mt_dir]/tools/estcmd-gather スクリプトを実行することで検索用インデックスが生成されます。



PDFやMS Excel等のファイルのインデックスは、ブログのサイトパス以下に配置されたすべてのファイルを対象にインデックス作成を行います(ブログ毎のプラグイン設定で除外パスを指定することも可能です)。

●検索インデックスの自動更新

例1) 午前 4 時に検索インデックスをすべてクリアして新規にインデックスを作成する場合の cron ジョブの設定例([MT_DIR] は、MT をインストールしたディレクトリです)

```
0 4 * * * cd [MT_DIR ]/tools; estcmd-gather
```

例2) 20分おきに検索インデックスに差分登録する場合の cron ジョブの設定例

```
0,20,40 * * * * cd [MT_DIR ]/ ./run-periodic-tasks
```

●エンタープライズ検索関連のテンプレート

Power CMSテンプレートセットをインストールすると以下のテンプレートが同時にインストールされます。

種別	名前	アーカイブパス	解説
アーカイブ	ブログ記事ドラフト	draft/entry_<MTEntryId>.est	文書ドラフト(Hyper Estraier 独自のデータ形式)でブログ記事を出力します。
アーカイブ	ウェブページドラフト	draft/entry_<MTPageId>.est	文書ドラフト(Hyper Estraier 独自のデータ形式)でウェブページを出力します。
システム	Hyper Estraier 検索結果	-	検索結果(mt-estraier.cgi)のテンプレートです。 ※手動でテンプレートを作成する場合、identifierが「estraier_result」である必要があります。

● 文書ドラフトテンプレート

検索に含めるテキストの範囲を変更するには(拡張フィールドやカスタムフィールドを含める場合)、ブログ記事ドラフト及びウェブページドラフトテンプレートを修正します。

カスタムフィールドや拡張フィールドの値を検索対象に含める場合、MTEEntryKeywordsタグの後に値が出力されるようにテンプレートを調整します。モディファイア is_draft を追加することで、データ中のHTMLタグを削除します(画像のALT属性は展開されます)。

標準のブログ記事ドラフトテンプレート:

```
@uri=<$MTEEntryPermalink$>
@title=<$MTEEntryTitle is_draft="1"$>
@cdate=<$MTEEntryDate format="%Y-%m-%dT%H:%M:%S"><$MTBlogTimezone$>
@mdate=<$MTEEntryModifiedDate format="%Y-%m-%dT%H:%M:%S"><$MTBlogTimezone$>
@blog_id=<$MTBlogID$>
@suffix=html
<mt:if tag="EntryCategory">parent=<$MTEEntryCategory is_draft=1$>
parentUrl=<$MTEEntryLink archive_type="Category"$></mt:if>

    <$MTEEntryTitle is_draft="1"$>
<$MTEEntryBody is_draft="1"$>
<$MTEEntryMore is_draft="1"$>
<$MTEEntryKeywords is_draft="1"$>
```

文書ドラフトの出力例:

```
@uri=http://aquarius.alfasado.net/contact/
@title=お問い合わせ
@cdate=2009-02-06T18:24:07+09:00
@mdate=2009-02-10T19:52:38+09:00
@blog_id=1
@suffix=html
parent=Power CMS
parentUrl=http://aquarius.alfasado.net/
```

お問い合わせ

以下の文章はサンプルです。内容を適切に書き換えてください。お問い合わせはメールで: email (at) domainname.comコンテンツを編集

文書ドラフトについてはHyper Estraierのドキュメントを参照してください。

User's Guide of Hyper Estraier Version 1 (Japanese) <http://hyperestraier.sourceforge.net/uguide-ja.html>

(以下、ドキュメントより抜粋)

文書ドラフトは以下の仕様を満たす必要があります。

- ・ 正常なUTF-8エンコードのテキストから構成されます。
- ・ 改行形式はUNIX形式 (LF) かMS-DOS形式 (CR+LF) のどちらかです。
- ・ 属性部とテキスト部からなり、両者は最初に出現した空行で区切られます。
- ・ 属性部において、各行は属性の指定として扱われます。属性名と値は最初に出現した「=」で区切られます。
- ・ テキスト部において、各行は本文の文字列として扱われます。行頭がタブ文字で始まっている場合、その行は隠しテキストとして扱われます。

●検索の実行とテンプレート

インデックスの生成が完了したら、以下の URL より検索を実行します。

http://example.com/mt/mrt-estraier.cgi?blog_id=*

検索フォームおよび検索結果の表示に使われるテンプレートは、パラメータ blog_id で指定したブログのシステムテンプレート「Hyper Estraier 検索結果」が使用されます。パラメータ blog_id を省略した場合、全てのブログの中からソースコード内で一番最初にロードされたブログのシステムテンプレート「Hyper Estraier 検索結果」が使用されます。この場合、該当のブログは ID が一番若いものになることが多いでしょう。

●環境変数の設定

mt-config.cgiに、以下の環境設定を記述します。

設定項目	解説	設定例
EstCmdPath	Hyper Estraierのコマンド「estcmd」のパスを記述します。	/usr/local/bin/estcmd
EstFilterPath	PDFやMS Office文書をインデクシングするための外部コマンドのフィルタのパスを記述します。	/usr/local/share/hyperestraier/filter
EstCmdIndex	検索用のインデックスを作成するパスを記述します。	/var/www/estindex/casket
EstraierScript	検索CGIスクリプトの名前を記述します(省略可)。デフォルト値はmt-estraier.cgiです。	search.cgi

記述例:

```
EstcmdPath /usr/local/bin/estcmd
EstFilterPath /usr/local/share/hyperestraier/filter
EstcmdIndex /var/www/estindex/casket
EstraierScript mt-estraier.fcgi
```

●プラグインの設定

システムプラグイン設定及び各ブログのPowerSearchプラグイン設定で指定する設定項目は以下の通りです。同一の設定項目については、各ブログの設定値が優先されます。

システムプラグイン設定

設定項目	解説	設定例
文書ドラフトのディレクトリ	文書ドラフトテンプレート(ブログ記事ドラフト/ウェブページドラフト)の出力先ディレクトリを指定します。	draft
デフォルト言語	検索に利用するデフォルトの言語を指定します。	ja
HTML以外の検索対象	PDFやMS Office文書等、HTML以外のインデックス作成対象文書の拡張子をカンマ区切りで指定します。	xls,doc,ppt,pdf
インデックスアップデート	チェックを入れると、エントリーの作成・更新時やアイテムのアップロード時にインデックスへの登録やアップデートを行います(インデックスへ反映されるのは、タスクrun-periodic-tasksの実行時)。	
デフォルトのページ送り件数	検索結果の1ページあたりに表示される検索結果の件数を指定します。	20

ブログプラグイン設定(システムプラグイン設定を上書きします)

設定項目	解説	設定例
文書ドラフトのディレクトリ	文書ドラフトテンプレート(ブログ記事ドラフト/ウェブページドラフト)の出力先ディレクトリを指定します。	draft
デフォルト言語	検索に利用するデフォルトの言語を指定します。	ja
インデックス除外パス(カンマ区切り)	HTML以外のファイルを検索対象に含める場合、検索対象外としたいディレクトリのパス(前方一致、カンマ区切り)を指定します。	

※PowerSearchプラグインで利用出来るタグ

●ブロックタグ

MTEstraierMeta

検索結果に関する検索キーワードや絞込みの条件を出力します。
このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<$mt:var name="__query__">(検索キーワード)
<$mt:var name="__limit__">(表示件数)
<$mt:var name="__offset__">(表示件数オフセット)
```

MTEstraierTarget

MTEstraierMeta タグの中で使用します。検索対象にしたブログのIDをループで出力します。
このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<$mt:var name="__target__">(検索対象にしたブログID)
```

MTEstraierSuffix

MTEstraierMeta タグの中で使用します。検索対象にしたファイルの拡張子をループで出力します。
このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<$mt:var name="__suffix__">(検索対象にしたファイルの拡張子)
```

MTEstraierResults

検索結果をループ出力します。このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<$mt:var name="__start__">(現在表示している検索結果の開始番号)
<$mt:var name="__last__">(現在表示している検索結果の最後の番号)
```

MTEstResultHeader

MTEstraierResults の最初のループ実行時に真を返します。

MTEstResultFooter

MTEstraierResults の最後のループ実行時に真を返します。

MTIfEstResultMatch

MTEstraierResults タグの中で使用します。検索条件にマッチする場合、真を返します。

MTEstResultPager

検索結果のページ送りをループで出力します。
このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<mt:var name="__current__">(現在表示している検索結果のページと、ループのページ番号がマッチする
場合に1)
<mt:var name="__counter__">(ループのページ番号)
```

例:

```
<MTEstResultPager>
<MTEstResultPagerHeader>
  <p>
    <MTIfEstResultPrev>
      <a href="<$mt:var name="search_params"><mt:var name="__prevoffset__">">前へ</a>
    </MTIfEstResultPrev>
  </MTEstResultPagerHeader>
  <mt:if name="__current__"><strong><mt:var name="__counter__"></strong>
  <mt:else><a href="<$mt:var name="search_params"><mt:var
name="__offset__">"><mt:var name="__counter__"></a></mt:else></mt:if>
  <MTEstResultPagerFooter>
    <MTIfEstResultNext><a href="<$mt:var name="search_params"><mt:var
name="__nextoffset__">">次へ</a></MTIfEstResultNext>
  </p>
</MTEstResultPagerFooter>
</MTEstResultPager>
```

MTEstResultPagerHeader

MTEstResultPager の最初のループ実行時に真を返します。

MTEstResultPagerFooter

MTEstResultPager の最後のループ実行時に真を返します。

MTIfEstResultPrev

MTEstResultPager ループの中で使用します。ページ送りの際にひとつ前の検索結果ページが存在する場合に真を返します。このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<mt:var name="__prevoffset__"> (前のページのオフセットの値)
```

MTIfEstResultNext

MTEstResultPager ループの中で使用します。ページ送りの際にひとつ次の検索結果ページが存在する場合に真を返します。このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<mt:var name="__nextoffset__"> (次のページのオフセットの値)
```

● ファンクションタグ

MTEstraierScript

検索結果テンプレートの出力ファイル名を出力します。

MTEstResultCount

MTEstraierResults タグの中で使用します。検索でヒットした件数を出力します。

MTEstResultURL

MTEstraierResults タグの中で使用します。ヒットしたページ（ファイル）のURLを出力します。

MTEstResultTitle

MTEstraierResults タグの中で使用します。ヒットしたページ（ファイル）のタイトルを出力します。

MTEstResultExcerpt

MTEstraierResults タグの中で使用します。ヒットしたページ（ファイル）の概要を出力します。

MTEstResultDate

MTEstraierResults タグの中で使用します。ヒットしたページ（ファイル）の日付を出力します。

MTEstCmdPath

Hyper Estraierのコマンド(EstCmd)のパスを出力します。

MTEstDbPath

検索対象のデータベースのパスを出力します。

● モディファイア

hilight

検索結果表示文字列中の検索語をハイライト(strongタグでマークアップ)します。

is_draft

文書ドラフトテンプレートの中で、HTMLタグを削除するために指定します。

●Windows Server 2003でのエンタープライズ検索のセットアップ

Windows Server 2003でエンタープライズ検索を利用する場合には、Power CMSに同梱のHyper EstraierのセットアップとPerlモジュール(PPMパッケージ)のインストールが必要です。

Hyper Estraierのセットアップ

Power CMSに同梱の hyperestraier-1.4.12.zip を伸長(解凍)し、適切なディレクトリ(例：C:\hyperestraier)に配備します。次に、システム環境変数PATHに、このディレクトリへのパスを追加します。

※ Windows Server 2003でエンタープライズ検索を利用する場合には、必ずPower CMSに同梱のHyper Estraierをご利用下さい。公式配布版など、その他のHyper Estraier では、エンタープライズ検索をご利用いただけません。

Perlモジュール(PPMパッケージ)のインストール

Power CMSに同梱の Estraier-1.5.zip を一時的なディレクトリに伸長(解凍)します。次に、コマンドプロンプトを開き、Estraier.ppd のあるディレクトリに移動します。

次のコマンドを入力します。

```
ppm install Estraier.ppd
```

以上で、エンタープライズ検索が利用可能な環境が整いました。

👤 こんな時は

このセクションでは、特定の場合に発生する事象と、その回避方法について解説します。

🗄 Movable Type のログにエラーが残る場合

特定の場合に、EntryPrepublish プラグイン、TemplateSelector プラグイン、ExtFields プラグインなど、ユーザ権限により表示の分岐が行われているプラグインが、Movable Type のログにエラーを吐くことがあります。以下はエラーの例です。

```
EntryPrepublishでエラーが発生しました: Can't call method "can_publish_post" on an unde-
fined value at /home/powercms/public_html/mte/plugins/PowerCMS/EntryPrepublish.pl
line 608.
```

```
TemplateSelectorでエラーが発生しました: Can't call method "can_edit_templates" on an
undefined value at
/home/powercms/public_html/mte/plugins/PowerCMS/TemplateSelector.pl line 1035.
```

このエラーは、システム管理者権限を持つユーザに、任意の権限を与えた場合等に吐かれるようになります(システム管理者は全ての権限を持っているので、本来であれば任意の権限を与える必要がありませんが、Movable Type 管理画面上は権限を与える操作を行うことが出来ます)。

このエラーが発生した場合は、該当のユーザに、各ブログに対するブログ管理者権限を設定するか、ブログ管理者権限を与えることが出来ない場合は、適切な権限を与え直すことで、エラーが発生しなくなります。

📄 ソフトウェア利用許諾書

本ソフトウェア (PowerCMS for MT ver 1.5) は、アルファサード株式会社 (以下「アルファサード」という) が著作権等の知的財産権その他一切の権利を保有しています。この利用許諾契約は、本ソフトウェアに関してお客さまとアルファサードとの間で締結される契約です。アルファサードは、本ソフトウェアをサーバーにインストールしたことをもって、利用者が本契約のすべての条項を承諾したものとみなします。

1. 利用許諾

お客様は次の範囲内で本ソフトウェアをご利用いただくことができます。

- (1) 本ソフトウェアを Movable Type がインストールされたサーバー(*1)にインストールして、ライセンスによって定められたユーザー数で利用(*2)すること。

*1 Standardエディション及びProfessionalエディションにおいてはMovable Type がインストールされた1台のコンピューター、又は Movable Type がインストールされた1台のコンピューター及びウェブページの公開用に使用する1台以下のコンピューター及びデータベース・サーバー用に使用する2台以下のコンピューターから成る1つのコンピューター群を意味します。Enterpriseエディションにおいてはインストールするサーバー数に制限はありません。

*2 「ユーザー」とは、本ソフトウェアがインストールされている Movable Type の「ブログ投稿者の追加/編集」機能をもって Movable Type により生み出される独自のログイン名を持ち、且つ90日以内にログインした個人を意味します。尚、ユーザー数には Movable Type において「ブログ記事の投稿」権限を持ったユーザーを指します (コメント投稿のみを許可されたユーザーは含まれません)。尚、Enterpriseエディションを除き登録できるユーザーはライセンス利用権を持つ法人または団体に所属する人に限られます。

Enterpriseエディションでは、親会社、子会社での共同利用、関連会社との共同利用、フランチャイズチェーンでの利用、複数の企業が参加する団体や協会での利用が可能です。

ただし、他社へのブログ・CMSサービスの提供やホスティング事業での利用はできません。

2. サポート

お客様 (*1) は製品のサポート有効期限内であればウェブサイトよりサポートを受けることができます。サポートの対象範囲、サポートの利用方法についてはウェブサイトに記載するものとします。

*1 代理店ライセンスの場合、エンドユーザーに対する一次サポートは代理店様が行うものとします。代理店ライセンスでは、アルファサードは代理店様に対してサポートを提供することとし、エンドユーザーに対する直接のサポートは行いません。

3. 禁止事項

お客様は次の各号に定める利用をすることはできません。

- (1) 本ソフトウェアを第三者に配布すること。
- (2) WWW、FTP、LAN等により、本ソフトウェアを特定、不特定に関わらず第三者にネットワーク配信もしくは記録媒体複製により頒布・販売すること。
- (3) 本ソフトウェアを改変修正その他変更する等本ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産権を侵害すること。

4. 不保証および免責

- (1) アルファサードは、明示または黙示を問わず、本ソフトウェアの完全性、正確性、有用性、特定目的への適合性、第三者の権利非侵害、及びその他一切の保証を第5条にて記載しているものを除いては行いません。
- (2) お客様による本ソフトウェアのインストール、利用、利用不能および第三者への配布等から生じる一切の損害 (使用機器およびプログラム設定の破損、逸失利益、事業の中断、情報の喪失またはその他の金銭的損失を含み、またこれらに限定されない損害) に関して、アルファサードは一切の責任を負わないものとします。

上記の制限および排除は、お客様の所在地の法律上認められる限度で適用されるものとします。本契約に起因または関連してアルファサード、その関連会社およびサプライヤが負う責任の総額は、本ソフトウェアについてお客様が支払った金額を上限とします。

5. アルファサードによる保証

- (1) アルファサードは本ソフトウェアに含まれるオープンソース部分をのぞき、情報についての管理者の意図若しくは許可なくコンピューター、コンピューター・システムまたはコンピューターネットワーク内の情報を変更し、損失し、破壊し、記録または送信するように意図的に設計された命令を本ソフトウェアに含めていないことを保証します。
- (2) アルファサードは本ソフトウェアに含まれるオープンソース部分をのぞき、本ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害するものではないことを保証します。
- (3) 本契約の有効期間中、本ソフトウェアに本項の保証に反するものが(オープンソースコードを除く)含まれていることが判明した場合には、アルファサードは唯一の法的救済として、アルファサードの費用において本ソフトウェアの主要な機能を損なうことなく本項に定める保証に合致するように本ソフトウェアを改変または交換する、あるいはお客様がソフトウェアを本契約に従って使用し続けられよう権利を取得する、合理的な営業上の努力を払います。お客様は、本項に定める保証の違反についての他の法的救済を求める前に、アルファサードが当該変更または交換を行うための猶予を与えるものとします。

6.その他

- (1) 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
- (2) 本契約に関して訴訟の必要が生じた場合には、大阪地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とします。

●作成者

アルファサード株式会社

<http://alfasado.net/>

大阪オフィス

〒541-0047

大阪府中央区淡路町3-2-8 トーア紡第2ビル702号

電話：06-6203-5702 ファクス：06-6203-5703

東京オフィス

〒106-1132

東京都港区六本木7丁目3番16号 田中ビル 302号

電話：03-3403-0676 ファクス：03-3403-0677

文書のバージョン 1.5.8.2

文書の作成日 2011/7/25